

2025年度 教育課程（1学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	1	30		18
		論理学	1	15	試験時間含む	19
		キャリア教育論Ⅰ	1	30		20
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30		28
		人間関係論	1	15	試験時間含む	29
		社会学	1	30		30
		コミュニケーション論	1	15		31
		家族論	1	15	試験時間含む	32
		生活と健康	1	15	試験時間含む	33
		ヒューマンケアリング	1	15		34
	小計	10	210			
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30		35
		人体の機能	1	30		36
		生化学	1	30		37
		栄養学	1	15	試験時間含む	38
		生命現象のしくみ	1	15		39
		ナースがみる人体	1	30		40
		病理学	1	30		41
	疾病の成り立ちと回復の促進	検査と治療法概説Ⅰ	1	30		42
		検査と治療法概説Ⅱ	1	30		45
		病態と診療Ⅰ	1	30		48
		病態と診療Ⅱ	1	30		52
		病態と診療Ⅲ	1	30		55
		薬理学	1	30		58
		微生物学	1	30		59
	小計	14	390			
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30		60
		看護リフレクションⅠ	1	30		61
		共通技術論Ⅰ	1	30		62
		共通技術論Ⅱ	1	30		63
		共通技術論Ⅲ	1	30		64
		日常生活援助論Ⅰ	1	30		65
		日常生活援助論Ⅱ	1	30		66
		診療・検査時の援助論	1	30		67
		治療・処置時の援助論	1	30		68
		臨床看護総論	1	30		69
		臨床判断	1	15		72
		地域・在宅看護論	地域の理解	1	30	
	在宅ケアシステム		1	30		74
	地域・在宅看護の対象理解		1	15		75
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		76
		周手術期援助論	1	15	試験時間含む	80
		成人看護援助論Ⅰ	1	30		81
		成人看護援助論Ⅱ	1	30		84
	老年看護学	成人看護援助論Ⅲ	1	30		87
		老年看護学概論	1	30		90
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40		91
	小計	21	595			
	総合計	45	1195			

科目名 情報科学	授業担当者 上田 晴彦	所属 秋田大学	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 情報科学の入門的な講義・演習であり、情報社会に参画するための態度の育成、および看護・医療における情報活用能力を高めることを、授業の目的とする。			
授業の概要 以下の3点に注意しながら、授業を進める。 1. 情報社会に参画するための知識・態度を習得する。 2. 看護・医療におけるコンピューターシステムの活用、および情報セキュリティについて知る。 3. Windows 用アプリケーションソフト(ワード・エクセル・パワーポイント)の基本操作を習得するだけでなく、データサイエンス(DS)の基礎が理解できるようになる。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前に授業内容を記した資料を電子媒体で配布するので、各自タブレット端末に入れておく、または印刷のうえ当日に持参すること。また授業開始前日までに、学習内容に目を通しておくこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	情報社会への参画	講義	
2	情報とは何か	講義	
3	情報の表現	講義	
4	コンピュータの構造	講義	
5	ワード(基本操作)	演習	
6	ワード(レポートの書式)	演習	
7	エクセル(表作成)	演習	
8	エクセル(グラフ作成)	演習	
9	エクセル(データベース)	演習	
10	DS 入門(平均)	演習	
11	DS 入門(標準偏差)	演習	
12	パワーポイント	演習	
13	医療と情報システム	講義	
14	看護・情報における倫理	講義	
15	情報セキュリティ	講義	
	試験		
テキスト 講義資料を電子媒体にて配布する。			
参考書・指定図書 適宜指定する。			
評価の方法 最後に試験を実施し、その成績により評価をおこなう。			

科目名 論理学	授業担当者 佐藤 雅彦	所属 秋田大学	
開講時期:前期	単位数:1単位	時間数:15時間	
授業の目的 1. クリティカル思考とはどのようなものかを概観する。 2. 論理的な文章の構成について学習する。			
授業の概要 1. クリティカル思考について学ぶ。 2. 論理的な文章の作成に必要ないくつかの要素について理解を深める。 3. 上の二つを用いた最終課題(小論文)に取り組む。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	ガイダンス クリティカル思考 1、小論文の特徴・書き方を知ろう	講義・演習	
2	クリティカル思考 2、論理的な文章の書き方 1	講義・演習	
3	クリティカル思考 3、論理的な文章の書き方 2	講義・演習	
4	クリティカル思考 4、論理的な文章の書き方 3	講義・演習	
5	クリティカル思考 5、論理的な文章の書き方 4	講義・演習	
6	論理的な文章の書き方 5、小論文を書こう 1	講義・演習	
7	小論文を書こう 2	演習	
8	試験		
テキスト テキストなどの資料はプリントして配布します。 プリント類はファイル(クリアブック、ポケットファイルなど)に入れ、毎回持ってくること。			
参考書・指定図書			
評価の方法 評価点は以下の 4 つです。 1. 小テスト(計 25%):クリティカル思考および文章構成に関する知識など。 2. 期末テスト(25%):小テストの問題などからなる。 3. 小論文作成(計 40%):内訳は以下のとおり。 (論理的文章の構成要素の活用 15%、批判的視点の活用 15%、文章のわかりやすさ 10%) 4. 授業への参加度(10%):課題を提出したか、積極的に学習活動を行ったかなど。			

科目 キャリア教育論Ⅰ	授業担当者 大塚 紀子 中川 郁子	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期:前期～後期	単位数:1単位	時間数:30時間	
授業の目的 プロジェクト学習とポートフォリオの基本を学び、生活改善プロジェクトを通し、基本フェーズを経験することで、意志ある学びを実現する。			
授業の概要 成長するためには、自らの意思が必要です。キャリア教育論Ⅰでは、意志ある学びを叶えるために、プロジェクト学習とポートフォリオの基本を学び、実践します。看護について学び成長した自分を俯瞰することで、目指す看護師像を明確にできることを期待する。			
受講上の注意・事前学習の内容 何のために何を成し遂げたいのか、常に探求する姿勢をもって臨んでいただきたい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1・2	キャリア教育論とは:プロジェクト学習とポートフォリオの基本 ポートフォリオを使っての自己紹介	講義	
3	生活改善プロジェクト:ライフポートフォリオ共有	演習	
4	多面的・多角的なインタビューの取り方	講義	
5	制作のフェーズ チームテーマ決定・工程表の作成	演習	
6	工程表の確認 凝縮ポートフォリオ作成	演習	
7・8	凝縮ポートフォリオ作成	演習	
9	プレゼンテーション準備	演習	
10・11	プレゼンテーション	演習	
12・13	未来へキャリアストーリーを描こう:自分の意志で未来を描こうプロジェクト	演習	
14・15	「自分の意志で未来を描こう!」プロジェクト ー成長報告ー	演習	
テキスト 鈴木敏恵著 キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会			
参考書・指定図書 鈴木敏恵著 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院			
評価の方法 アクションシート・凝縮ポートフォリオ等知の成果物(70点)、自己評価(30点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	「プロジェクト学習・ポートフォリオの基本を理解しよう！パーソナルポートフォリオを使って自己紹介」プロジェクト	
講師/ファシリテータ・協力者ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木 敏恵 先生) 大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他	
単位・時間・受講対象	4月上旬：2コマ(4時間) 中通高等看護学院 1年生	
事前連絡	パーソナルポートフォリオを作成し、ポートフォリオを用いて自己紹介できるように練習しておく	
学習概要	<p><概要>今後の学習の道標となるプロジェクト学習についての理解を深めるために、プロジェクト学習とポートフォリオの基本について講義する。その後、各自で作成してきたパーソナルポートフォリオを使って、自己紹介を行う。マスクを着用した状態で社会的距離を取りつつのコミュニケーションとなるため、発声や表情を意識し、自身について伝えあう。これから共に学院生活を互いに過ごす仲間を知る機会とする。</p> <p><input type="checkbox"/> ビジョン：プロジェクト学習とポートフォリオの基本を理解し、ポートフォリオを活用した自己紹介することで互いに認め合いクラスメイトとの関係作りの第一歩とする。</p> <p><input type="checkbox"/> ゴール：プロジェクト学習とポートフォリオの基本をつかむ！クラスメイトのこと(魅力)を知る。</p>	
キーワード	プロジェクト学習 コミュニケーションスキル ポートフォリオ	
身につく力	<p>専門知</p> <p><input type="checkbox"/> 仕草や表情を交え、相手にわかりやすく伝える力</p> <p><input type="checkbox"/> 発声に留意しつつ相手に伝える力、短時間で自分の思いを書く力</p> <p><input type="checkbox"/> 相手の状態・気持ちを意識した簡潔な表現力</p>	<p>普遍知</p> <p><input type="checkbox"/> 説明力</p> <p><input type="checkbox"/> 端的にプレゼンテーションする力</p> <p><input type="checkbox"/> 聞き取る力</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を具体的につかむ力</p>
評価方法	キャリア教育論 I 10点/100点 アクションシート	
展開内容 (内容・活動)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席確認・ガイダンス 2. プロジェクト学習とポートフォリオの基本について講義 3. 「パーソナルポートフォリオ活用ワークショップ(自己紹介)」 4. プレゼンテーション(共有) 5. リフレクション(ライブポートフォリオ：生活改善プロジェクトについてガイダンス<導入>) 	
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会	
受講生へのメッセージ	<p>プロジェクト学習は、プロジェクトの考え方やセオリーを学習に取り入れた教育手法です。プロジェクトを成し遂げるためには、必要な”知”を手に入れ、課題を解決する必要があります。また、ゴールを見据え「何のために(目的)、何をやり遂げたいのか(目標)」を常に意識していることが必要です。学習の軌跡を一元化するものとしてポートフォリオがあり、日々のプロセスや成果に至る軌跡が見えます。ポートフォリオ通して俯瞰する姿勢や思考の可視化ができ、自ら気づき、自ら学び成長するのを助けてくれます。看護学生として意志ある学びのスタートを切り、自らの目指す看護師像を明確にして、夢の実現のために行動してほしい。</p>	
eラーニング	検索 “未来教育オンライン講座” http://www.-miraikyouiku-onlinecourse.com/	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	生活改善プロジェクト		
講師/ファシリテータ・協力者他	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他		
単位・時間・受講対象(人数)	4月～7月 中通高等看護学院 1年生		
学習概要 (社会的意義)	<p><概要></p> <p>学生自身の生活シートを2週間記入する。生活シートを書くことは、自分の生活や健康を客観的に見て意識することに繋がる。その生活シートを挟んだライフポートフォリオを他の学生と共有し、「生活・健康」への発想や考えを広げる。その上で、自分と対話しながら生活改善・自己対話シートを書き、改善したい課題を具体的にし、改善後にどうなればいいのかを表現する。</p> <p>同じ課題をもつ学生でチームを作り、チームゴールに向かって、健康生活を叶える提案集をつくる。</p> <p>自分の生活や健康を客観的に見て意識することができるようになれば、看護実践の場で、患者さんの生活や健康をみる力がつく。</p> <p>*ビジョン：看護学生として、自分の健康を自分で守れるようになりたい。</p> <p>*ゴール：1年生に役立つ健康生活をかなえる提案集をつくる！</p>		
キーワード	生活改善 健康維持 メタ認知 飲食 活動 休息 時間管理		
身につく力	<p>専門知</p> <p>□「生活」を観察する力</p> <p>□食事、睡眠、活動に関する基本知識</p> <p>□メタ認知能力</p>	<p>普遍知</p> <p>□課題発見力</p> <p>□根拠を基に提案する力</p> <p>□チームワーク力 (他者と共に考えだす力)</p> <p>□情報収集力</p> <p>□セルフコーチング力</p> <p>□他者の意見を聞き役立てようとする力</p>	
学習の成果物	健康生活を叶える提案集		
評価方法	キャリア教育論 I 70点/100点 ポートフォリオ評価 (そのうち20点分はピア評価)		
実施月日 4月～7月	<p>4月中旬 5月 6月 7月上旬</p> <p style="text-align: center;"> 準備 ビジョン・ゴール 計画 情報・解決策 制作 プレゼン 再構築 </p>		
講義室・場所	中通高等看護学院 図書室・教室1		
展開内容	月日	時間	内容・活動
	4月中旬～		2週間生活シートをつける
	5月	1コマ	<p>ライフポートフォリオ共有</p> <p>生活改善・自己対話シートに書く</p> <p>チーム決定</p> <p>チームテーマ話し合い</p>

	5月	1コマ	講義 ・「多面的・多角的」 ・「知の再構築-5つの条件」「知の再構築-6要素」 ・情報獲得1「問う技法」-インタビュー・アンケート ・情報獲得2「問う技法」-アンケートの作り方 ・ゲーグルクラスルーム ・凝縮ポートフォリオの作り方
	5月	1コマ	チームテーマ決定 工程表記載 工程表提出、アドバイス
	6月	1コマ	問題解決のための情報リサーチ ・どんな情報を手に入れたいか考える-役割分担 ・基本情報を調べる ・調べたことを体験してみる⇒観察・記録
	6月	2コマ	チームで集めた情報を共有して、凝縮ポートフォリオを作成
	7月上旬	1コマ	プレゼンテーションリハーサル
	7月上旬	2コマ	知の共有/プレゼンテーション
テキスト・参考書	系統看護学講座 専門基礎 栄養学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会 アクティブラーニングこえた看護教育を実現する 医学書院 AI時代の教育と評価 教育出版		
履修要件			
他講義との関連	生活と健康 基礎看護学概論 成人看護学概論 日常生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 共通技術論Ⅰ 人体の構造 人体の機能 運動生理学 ナースがみる人体		
受講生へのメッセージ	皆さんは、普段の生活の中で健康を意識することはありますか？看護学生として、自分の健康を守るため、自分の身体の声に耳を傾け対話してみましょう。今、自分の身体や生活はどんな感じか、意識することで今まで気づけなかったことに気づけるはずです。そして、より健康になるためにできることを考えてみましょう。この経験は、患者さんの生活や健康をみる力になっていきます。		
プロジェクト学習 e ラーニング	検索 未来教育オンライン講座 http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/		

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	－ 未来へキャリアストーリーを描こう！ － (1年次 誓いの式に向けて) 「自分の意志で未来へ向かおう！」 プロジェクト		
主講師 (ファシリテーター・協力者)	(スーパーアドバイザー：鈴木 敏恵 先生) 大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他		
単位・時間・受講対象	9月中旬～下旬： 2コマ (4時間) 1年生		
学習概要 (社会的意義)	<p><概要></p> <p>1年生は、9月に基礎看護学実習Ⅰを行なっている。基礎看護学実習Ⅰでは、臨床看護師のシャドーイングを通し、看護師の役割や機能について学んでいる。また、ロールモデルの後ろを影のようにして同行することで、実際の現場における経験から憧れロールモデルの獲得につながっていると考えられる。看護師の仕事を近くで見ることで、モチベーションが高まり看護への興味・関心や、学習する必要性が高まっている状況である。</p> <p>この講座では、実習での経験を踏まえ看護師の仕事の幅や多様性を理解し、必要な力を知ることによって看護師という職業の価値や魅力を再認識する。ハピネスシートに、未来イメージ(自分が選んだ看護師という仕事の価値・将来“どんな人”をハピネスにしたいか)と、ハピネスシーン(誰かの役に立ったシーン)を自分の言葉で書くことで自尊心や自己肯定感を高め、自分の意志で未来へ向かう思いを強化する。</p> <p>未来に思いを馳せキャリアビジョンシートを記載する。キャリアビジョンや自己のキャリアストーリーを描き、自ら学ぶために学生自身が目指す看護師像を明確にする。</p> <p>10月には看護師になるという意志を明確にし、宣言する「誓いの式」を執り行う。誓いの式では、この講座で考えたキャリアビジョンを一人一人が宣言し、互いの夢を応援し合う式とする。</p> <p>□ ビジョン：自ら学んでいくために、なりたい看護師像を明確にしたい □ ゴール：看護師の仕事の価値について考え、キャリアビジョンを描く</p>		
キーワード	キャリアビジョン キャリアストーリー ハピネスシーン 自尊心 自己肯定感		
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 看護師の仕事の価値 <input type="checkbox"/> なりたい看護師像をイメージする力		普遍知 <input type="checkbox"/> 情報獲得力 <input type="checkbox"/> 自尊心・自己肯定感 <input type="checkbox"/> 成長しようとする意欲 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 他者への関心
評価方法	キャリア教育論Ⅰ 10点/100点 アクションシート		
展開内容	月日	時間	内容・活動
	9月中旬	1コマ	ハピネスシート記載
	9月下旬	1コマ	1. 本日の流れの説明(俯瞰シート) 2. ハピネスシートの交流 3. キャリアビジョンシートの記載(個人ワーク)・代表者プレゼン 4. リフレクション
テキスト・参考図書	・キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会 ・ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院		

受講生へのメッセージ	<p>看護学を学び始め、実際の現場における経験から看護への興味・関心が高まっていること でしょう。「看護師を志した思いやきっかけは何か」、「どのような看護師になりたいの か」、「看護師として大切にしたいことや目指したいことは何か」を明確にして、その実現 のためのビジョンを描くことがモチベーションを高くし、日々の学習に取り組む基盤とな ります。</p> <p>看護師という職業の価値や魅力について再認識し、現時点での自身が目指す看護師像を 自由に描いてみましょう。</p> <p>みなさんの可能性は無限大です。自身が望む未来の実現のために、自身の力で将来を作り 上げていきましょう！</p>
プロジェクト学習 eラーニング	<p>検索 “未来教育オンライン講座” http://www.miraikyouiku-onlinecourse.com/</p>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティ
 ブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	ー未来へキャリアストーリーを描こう！(2)ー 「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト ー成長報告ー	
講師／ファシリテータ・協力者ほか	大塚紀子・中川郁子・小田嶋陽子 他	
単位・時間・受講対象(人数)	3月上旬 2コマ(4時間) 1年生	
学習概要 (社会的意義)	<概要> 入学して1年。いよいよ進級を迎える。 看護師になるために、1年間重ねた学習を通して知識と技術を身につけ、臨地実習では、看護師の仕事を見て学び、患者との接し方やニードについて考え、成長してきた。 今回は、自分自身の成長を可視化するために、成長エントリーシートにポートフォリオを俯瞰し、成長したこと、考え方や視点などを記載し、その中から成長best3を成長報告書に記載する。成長報告をプレゼンテーションすることで、1人ひとりの価値ある経験を共有する。また、2年生の成長報告を聴くことで、未来の自分をイメージすることができる。長期的ルーブリックで自分を振り返るとともに1年後の姿をイメージさせる。今後、どんな学習を積み重ねて看護師を目指すのか、2年生の姿と自分の成長を重ね、一人ひとりが自分の資質や、看護という仕事の価値に気づき、モチベーションを高め、意志ある学びを確認する機会とする。	
キーワード	経験の価値化 暗黙知の顕在化 記憶の可視化 資質 成長 キャリアビジョン キャリアストーリー	
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> メタ認知能力 <input type="checkbox"/> 経験の価値化 <input type="checkbox"/> 暗黙知の顕在化 <input type="checkbox"/> 自分の意志で目標へ向かう力	普遍知 <input type="checkbox"/> 俯瞰力 <input type="checkbox"/> 自尊感情、自己肯定感 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> ビジョンを描く力 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲
学習の成果物	「成長報告書」と「私の履修カルテ」	
評価方法	アクションシート 10点/100点	
実施計画／関連予定	9月中旬～下旬ー未来へキャリアストーリーを描こう(1)ー「自分の意志で未来へ描こう！」 プロジェクト 実施計画 2月下旬 ガイダンス 「成長エントリーシート」「成長報告書」配布 3月上旬 1. 「成長エントリーシート」の交流 2.共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 3. 長期的ルーブリックの記載 4. キャリアビジョンシートの記載および交流	
講義室・場所	中通高等看護学院 教室1・2	
展開内容	目的(ビジョン):この1年間の自己の成長を自覚し、1年後の自分の姿をイメージできるようになる！ 目標(ゴール):この1年の成長(価値ある学び)を共有し、キャリアビジョンを描くことができる。 1. 今日の流れの説明(俯瞰シート) 2. 「成長エントリーシート」の交流 3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 4. 長期的ルーブリックの記載 5. キャリアビジョンシートの記載および交流 6. リフレクション	

テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院 日本看護協会出版会
他講義との関連	キャリア教育論II
受講生へのメッセージ	<p>この1年間、講義・実習を通して看護の基礎となる基礎知識や専門知識を学んできました。実習では、患者さんとの出会いがあり、その関りから得たものは計り知れないものです。誓いの式では、自分の看護師としてのビジョンを描き公言しました。経験を通して人は成長します。この1年をポートフォリオをめくり、俯瞰し、シートに書くことで自分の成長を確認しましょう。そして価値ある経験を共有しましょう。</p> <p>そして、先輩たちの成長報告を聴くことで、4月から、2年生になる自分をイメージし、学習を重ね、キャリアビジョンを描いて、自分の望む未来に向かって自分で成長していきましょう！ 未来は皆さんのものです！</p>
プロジェクト学習 e ラーニング	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名 心理学	授業担当者 半田 温子	所属 元秋田大学 臨床心理相談室	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 心理学の基本的概念を学習し、日常生活でみられる現象や行動を心理学的観点から理解する。			
授業の概要 心理学は、「人のこころとは何かを問い、こころの働きを明らかにする」学問領域とされる。当科目では、心理学の各分野における基本的概念について学習する中で、私たちの身のまわりでみられる現象や行動について、心理学的観点から改めて考える。			
受講上の注意・事前学習の内容 授業の中で学習したことを、日常生活や医療場面でみられる現象や行動に結び付けて考えてみようとする姿勢が求められる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	心理学とは	講義	
2	知覚	講義	
3	学習	講義	
4	記憶	講義	
5	動機づけ	講義	
6	感情	講義	
7	パーソナリティ	講義	
8	知能	講義	
9	思考	講義	
10	発達(1) -児童期まで	講義	
11	発達(2) -青年期以降	講義	
12	人間関係	講義	
13	集団	講義	
14	精神的健康	講義	
15	カウンセリング	講義	
	心理学の応用分野	講義	
	試験		
テキスト 二宮克美 編 ベーシック心理学 医歯薬出版			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験、出席・参加状況により総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 人間関係論	授業担当者 菅原 美紀	所属 中通総合病院 心理療法室	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 相互に影響を与えながら形成される人間関係に関する理論を学ぶ事で、現実場面で起きている現象を心理学的な視点から理解し、円滑な人間関係を作り上げる力を養うための糧にする。			
授業の概要 人間関係に関連する心理学の概念や理論、人間関係をつくるために役立つ理論や技法、看護の現場における様々な人間関係について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書を予め読み、理解しておくことが望ましい。必要時資料は印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	人間関係の中の自己と他者・対人関係と役割	講義	
2	態度と対人行動・集団と個人	講義	
3	コミュニケーション・カウンセリングと心理療法	講義	
4	コーチング・アサーティブ・コミュニケーション	講義	
5	保健医療チームの人間関係	講義	
6	患者を支える人間関係	講義	
7	家族を含めた人間関係・地域をつくる人間関係	講義	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 基礎 人間関係論 医学書院			
参考書・指定図書 必要時に紹介する			
評価の方法 出席、筆記試験による			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 社会学	授業担当者 石沢 真貴	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30	
授業の目的 社会学の基礎概念(社会的行為、社会関係、集団・組織、制度等)を理解し、医療・看護の課題に応用できる知識を理解できるようにする。 社会学的視角を学ぶことで、社会的事象を多角的に捉えて考察できるようにする。			
授業の概要 社会学の基礎概念の説明と医療・看護の現場における応用について説明する。 現代社会における様々な社会現象とその諸課題・問題を取り上げ、多角的に考察する。			
受講上の注意・事前学習の内容 配布資料に目を通し、授業の内容や流れを理解しておくこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	社会学とは何か	講義	
2	I 社会学の基礎概念 1 自己と他者	講義	
3	2 行為と規範	講義	
4	3 集団・組織・ネットワーク・制度	講義	
5	4 医療・福祉と社会学	講義	
6	II 現代社会の諸課題 1 少子化・高齢化・人口減少	講義	
7	2 家族の変容	講義	
8	3 家族とジェンダー	講義	
9	4 変容するコミュニティ (1)農山村	講義	
10	4 変容するコミュニティ (2)中心市街地	講義	
11	4 変容するコミュニティ (3)住民自治と地域再生の課題	講義	
12	5 グローバル化と多文化社会	講義	
13	6 現代の貧困問題	講義	
14	7 労働と人権問題	講義	
15	まとめ これからの社会にむけて	講義	
	試験		
テキスト 使用しない。必要に応じて資料等を配布する。			
参考書・指定図書 系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院			
評価の方 記述試験を行う。場合によりレポート課題を課す。			

科目名 コミュニケーション論	授業担当者 庄司 信 高橋 静子 高橋 千歳	所属 日本赤十字東北看護大学(非常勤講師) あきた AT 研究会 株式会社プレステージヒューマンソリューション	
開講時期 :前期	単位数 :1 単位	時間数 :15 時間	
授業の目的 1. 異なる立場や年代の人々とのコミュニケーションのあり方や方法について学ぶ。 2. 看護職として求められる多様な人々の生活や人権を尊重したコミュニケーション能力を身につける。			
授業の概要 1. コミュニケーションの意義を理解した上で、ロールプレイなど演習を通して看護師に必要となる実践的なコミュニケーション技術を習得する。異なる立場や年代の人々とのコミュニケーションのあり方や方法を考える機会としたい。 看護におけるコミュニケーションの基礎と実際については、この科目の後(ほぼ同時期)に、共通技術論 I の科目の中で 4 回(講義 2 回、演習 2 回)学習する。この後の臨地実習の場において、患者とのコミュニケーション、学生間や医療チームにおけるコミュニケーションにいかせるようにしたい。 2. 価値観が多様化した社会の中で生き抜くため、専門知識と技能の習得のみではなく、人間的な基礎力を習得し、アサーティブな自己表現(知識・ロープレ)を学ぶことで、表現力を高め、より良い人間関係を構築する事が営めるようになることが期待される。			
受講上の注意・事前学習の内容 資料のプリントアウトの有無は個々の判断。(高橋静子先生) 臨地実習でのコミュニケーションをイメージし、ビジネスマナー研修で何を学びたいか自身の目標を考えて受講してほしい。(高橋千歳先生)			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	人格の形成・維持・変容とコミュニケーション	講義	庄司 信
2	社会システムの生成・維持・変容とコミュニケーション	講義	庄司 信
3	看護師という仕事とコミュニケーション	講義	庄司 信
4	アサーティブなコミュニケーションの基本	講義・演習	高橋静子
5	アサーティブなコミュニケーションの技法	講義・演習	高橋静子
6	アサーティブの実践のポイント	講義・演習	高橋静子
7	演習とフィードバック・まとめの試験	講義・演習	高橋静子
8	ビジネスマナー基本原則 身だしなみ 態度	講義・演習	高橋千歳
	試験		
テキスト 講師が準備(高橋千歳先生)			
参考書・指定図書 アサーティブトレーニング BOOK(新水舎) よくわかるアサーション自分の気持ちの伝え方(主婦の友社)(高橋静子先生)			
評価の方法 筆記試験・レポート・授業への出席および程度により総合的に評価する。 庄司先生 40 点 高橋静子先生 45 点 高橋千歳先生 15 点			

科目名 家族論	授業担当者 大塚 紀子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
授業の目的 家族とは何か、現代社会の家族問題や心理について学び、看護の対象としての家族を支援する基盤となる能力を養う。			
授業の概要 現代の家族は、核家族・多世代同居の家族は減少し、日本の全世帯の 3 分の1は単身世帯である。そのため、親族の相互扶助の絆は細く、もろくなっている。現代家族の特徴を踏まえ、個人を家族や社会から切り離すことなく、家族システム・社会システムの一員とみなし、その関係性やエンパワーメントを支える基盤を学ぶ。家族員を含めた家族全体をケアの対象として位置づけ、主体性を尊重しながら、看護を展開するための基本的知識や援助方法について学んでほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 資料に書き込む形で、授業を進行するため、配信資料をプリントアウトするなど各自準備して臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	家族とは・家族のとらえかた	講義	
2	現代家族の問題	講義	
3	家族の心理構造と心理過程	講義	
4	家族関係の心理	講義	
5	家族と援助関係	講義	
6	家族へのアプローチ①	講義・個人ワーク	
7	家族へのアプローチ②	講義・個人ワーク	
8	試験		
テキスト 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア メディカ出版			
参考書・指定図書 岡堂哲雄編 家族心理学入門 補訂版 培風館 下夷美幸著 家族問題と家族支援 放送大学教育振興会			
評価の方法 筆記試験45点 課題シート30点 1～5回目の学習シート25点 合算して6割以上を単位修得とする			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 生活と健康	授業担当者 三浦 真澄	所属 中通健康クリニック	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 健康に関わる様々な要素を理解し、人々の健康問題と問題解決に向けた支援方法を考える力を養う。			
授業の概要 健康の維持にも、健康の破綻(病気の発症)にも「生活」が深く関わっています。また、健康に関わるモノは個人の要素だけでなく、家族や地域、国、世界の情勢や仕組みなど他にも多くのモノが関わり、影響を受け、また支えられています。健康に関わるモノや人々が抱える健康問題を広い視野で考えていきましょう。			
受講上の注意・事前学習の内容 「健康」「生活」という言葉を、授業を通してより深く考えてみましょう。人の生・病気・死との関わりが見えてきます。 授業の資料は必要時事前に印刷し準備してください。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護が対象とする人々の生活を理解する(個人の視点から)	講義	
2	看護が対象とする人々の生活を理解する(家族の視点から)	講義	
3	看護が対象とする人々の生活を理解する(集団・組織、地域社会、グローバル化の視点から)	講義	
4	性のありかたと健康	講義 グループワーク	
5	健康とは何か	講義	
6	健康行動・健康課題を理解する(理論やモデルを用いて)	講義	
7	健康問題に対するアプローチ方法を理解する	グループワーク	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 医学書院 ナーシンググラフィカ 健康と社会・生活 メディカ出版 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
参考書・指定図書 基礎看護学「健康科学概論」ヌーヴェルヒロカワ			
評価の方法 レポート課題 30%、筆記試験 50%、出席およびグループワーク等の参加姿勢 20%			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 ヒューマンケアリング		授業担当者 堀 裕美	所属 元中通高等看護学院	
開講時期 :前期～中期		単位数 :1 単位	時間数 :15 時間	
授業の目的 人をケアすることの意味を問い、ケアの核となるケアリングについて理解を深める。				
授業の概要 ケアリングは看護実践の中核となる概念であり、看護者と対象との関係のあり様を示す重要な概念である。ケアリングの理論について学び、看護の対象を全人的に理解できる豊かな感性を培う。また、臨地実習での自己の実践内容や態度をヒューマンケアリングの視点から振り返り、看護実践におけるケアリングについて考察する。				
受講上の注意・事前学習の内容				
授業回数	学習内容		方法	備考
1	ケアとケアリング、ケアの相互作用		講義	
2	ミルトン・メイヤロフのケアリング論		講義	
3	ジーン・ワトソンのケアリング論		講義	
4	トランスパーソナルケアリング～事例で考える～		講義	
5・6	実習体験からのケアリングの学び		グループ交流 プレゼンテーション	
7・8	ケアリングにおけるケア提供者の資質、対象者との関係のあり方		グループワーク プレゼンテーション	
テキスト ジーン・ワトソン著 稲岡文昭他訳 ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 第2版 医学書院				
参考書・指定図書 ミルトン・メイヤロフ著 田村真他訳 ケアの本質 生きることの意味 ゆるみ出版				
評価の方法 授業中の課題、授業への参加状況(グループワーク、プレゼンテーション)				

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 人体の構造	授業担当者 板東 良雄	所属 秋田大学大学院医学系研究科 形態解析・器官構造学講座	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。			
授業の概要 正常人体の構造(解剖)だけでなく機能(生理)を関連づけて理解し、主要器官・組織の正常構造について講義する。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。			
受講上の注意・事前学習の内容 スライドと板書を用いて講義を展開するが、主に解剖学の内容を概説する。各器官系を構成している主な細胞を列挙し、臓器や器官の基本的な構造や機能について説明できるようになることを到達目標とする。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となるため、試験に合格することが目標ではなく、臨床で実際に使える知識を身につける。講義スピードがかなり速いので、予習・復習を十分に行うことが望まれる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護の土台となる解剖生理学:解剖学的用語を正しく使うことができる。	講義	
2	細胞と組織:細胞と組織の基本的構造を説明できる。	講義	
3	骨格系:骨組織を構成する細胞と骨および関節の基本的構造を説明できる。全身の主な骨と関節を列挙し、その特徴を概説できる。	講義	
4	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋を列挙することができる。	講義	
5	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋を列挙することができる。	講義	
6	循環器系:心臓および全身の脈管系の基本的構造を概説できる。	講義	
7	呼吸器系:気道および肺の基本構造を概説できる。	講義	
8	消化器系:消化器を構成する臓器・器官の基本構造を概説できる。	講義	
9	泌尿器系:腎臓および泌尿器を構成する基本構造について概説できる。	講義	
10	生殖器系:基本構造と性差による違いを概説できる。	講義	
11	内分泌系:全身の内分泌器官の構造を概説できる。	講義	
12	神経系(1):中枢神経の基本構造を概説できる。	講義	
13	神経系(2):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の基本構造を概説できる。	講義	
14	神経系(3):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の基本構造を概説できる。	講義	
15	感覚器系:皮膚、視覚器、聴覚器の構造を概説できる。	講義	
	試験(中間試験あり)		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
参考書・指定図書 ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)、からだが見える 人体の構造と機能(medic media)、トトラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)、レベル別看護 100 問学校(宣広社)など。概して高価なので、自分に合ったものを選べばよい。			
評価の方法 試験の成績に加え、出席状況を加味して総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 人体の機能	授業担当者 板東 良雄	所属 秋田大学大学院医学系研究科 形態解析・器官構造学講座	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。			
授業の概要 正常人体の機能(生理)だけでなく構造(解剖)に関連づけて理解し、主要器官・組織の正常構造について講義する。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。			
受講上の注意・事前学習の内容 スライドと板書を用いて講義を展開するが、主に生理学の内容を概説する。各器官系を構成している主な細胞を列挙し、臓器や器官の基本的な構造や機能について説明できるようになることを到達目標とする。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となるため、試験に合格することが目標ではなく、臨床で実際に使える知識を身につける。講義スピードがかなり速いので、予習・復習を十分に行うことが望まれる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	細胞と組織:細胞と組織の機能を説明できる。	講義	
2	骨格系:骨組織を構成する細胞と骨および関節の機能を説明できる。	講義	
3	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋の機能を概説できる。	講義	
4	筋肉系:筋組織を構成する細胞と全身の主な筋の機能を概説できる。	講義	
5	血液:血液の構成と機能を概説できる。	講義	
6	循環器系:心臓および全身の脈管系の機能を概説できる。	講義	
7	呼吸器系:気道および肺の機能を概説できる。	講義	
8	消化器系:消化器を構成する臓器・器官の機能を概説できる。	講義	
9	泌尿器系:腎臓および泌尿器を構成する機能について概説できる。	講義	
10	生殖器系:機能と性差による違いを概説できる。	講義	
11	内分泌系:全身の内分泌器官の機能を概説できる。	講義	
12	神経系(1):中枢神経の機能を概説できる。	講義	
13	神経系(2):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の機能を概説できる。	講義	
14	神経系(3):末梢神経(自律神経系と脳神経系)の機能を概説できる。	講義	
15	感覚器系:皮膚、視覚器、聴覚器の機能を概説できる。	講義	
	試験(中間試験あり)		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			
参考書・指定図書 ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)、からだが見える 人体の構造と機能(medic media)、トトラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)、レベル別看護 100 問学校(宣広社)など。概して高価なので、自分に合ったものを選べばよい。			
評価の方法 試験の成績に加え、出席状況を加味して総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 生化学	授業担当者 小泉 幸央	所属 秋田大学大学院医学系研究科	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 人体の構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸の構造と性質について学び、生体内でどのように代謝されているかを学ぶ。			
授業の概要 生化学は生命現象を分子の挙動として解明することを目的とした学問であり、近年めざましい発展を遂げ、生命現象の最も重要な基礎となっている。本講義では、人体の構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸についてその構造と性質を学び、またそれらの生体内における生合成や分解といった代謝についても学ぶ。人体を支える基本メカニズムへの理解を深めることにより、将来の看護の実践のための一助になると考える。また、他の科目で得た授業内容との相互理解が大変重要になってくるので、常に生化学的な視点から考える習慣を身につけてほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 授業に先立って、教科書内の学習内容範囲を予め目を通し、学習内容をイメージした状態で授業に臨んだ方が理解は深まるでしょう。講義資料は前もって、電子ファイル版を送付するので、これも目を通しておいてください。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	講義生化学の基礎知識	講義	
2	水と無機質	講義	
3	細胞の構造と機能	講義	
4	タンパク質の構造と機能	講義	
5	糖質の構造と機能	講義	
6	脂質の構造と機能	講義	
7	核酸の構造と機能	講義	
8	代謝の基礎と酵素	講義	
9	ビタミンと補酵素	講義	
10	シグナル伝達とホルモン	講義	
11	糖質代謝 I	講義	
12	糖質代謝 II	講義	
13	脂質代謝	講義	
14	タンパク質代謝	講義	
15	遺伝情報	講義	
	試験:選択式、全 50 問出題予定		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 生化学 医学書院			
参考書・指定図書 特になし			
評価の方法 筆記試験と授業の参加度により総合的に評価			

科目名 栄養学	授業担当者 佐藤 美樹	所属 中通総合病院 栄養課	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 3大栄養素(炭水化物、タンパク質、脂質)やビタミン・ミネラル類に関する基礎知識とライフステージや各病態に必要な栄養知識を習得する。			
授業の概要 栄養の意義を理解し、その基礎知識や栄養状態の評価方法、個々に必要な栄養と摂取方法を学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき(糖質、脂質)	講義	
2	栄養素の種類とはたらき(タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水) 食物の消化	講義	
3	栄養素の吸収と代謝・排泄、エネルギー代謝	講義	
4	食事と食品、栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定	講義	
5	ライフステージと栄養	講義	
6	臨床栄養①	講義	
7	臨床栄養②、健康づくりと食生活	講義	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 栄養学 医学書院			
参考書・指定図書 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカル出版			
評価の方法 出席・受講態度・筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 生命現象のしくみ	授業担当者 石井 照久	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 生命現象の基本単位である細胞の構造と機能を学び、専門分野の基礎を築く。また、生命科学技術の現状を学び、将来医療者としてどのように生命科学技術に向き合えばよいのかを考察する能力を身につける。			
授業の概要 生命現象の基本単位は細胞である。この授業では、まず細胞について学ぶ。さらに全生物共通の生きるシステムである遺伝のしくみ(=セントラルドグマ)について概説する。細胞でない病原体についても説明する。さらには日々進歩している生命科学技術のうち、ES 細胞、iPS 細胞、新型出生前診断、遺伝子検査技術を扱い、これらの技術との向き合い方を考察する。以下は達成目標である。 1. 二種類の細胞(原核細胞と真核細胞)を説明できる。 2. 非細胞性の病原体(ウイルスとプリオン)を説明できる。 3. セントラルドグマ(遺伝のしくみ)を説明できる。 4. 生命科学技術の現状(ES 細胞、iPS 細胞、新型出生前診断、遺伝子検査技術)を説明でき、これらの技術との向き合い方を考察できる。			
受講上の注意・事前学習の内容 各授業のはじめに、可能な限り最新のニュースを紹介します。 関連する回でタバコの害に強く触れます。 教科書の該当する部分を事前学習として読み進めておくこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	細胞としての成立要件(細胞は何をしているか)	講義	
2	原核細胞, 真核細胞	講義	
3	すべての生命現象で共通のセントラルドグマ(遺伝のしくみ)とは何か	講義	
4	ウイルスは何なのか, 病気との関係はどうなのか	講義	
5	プリオンは何なのか, 病気との関係はどうなのか, 世の中にあるもの	講義	
6	セントラルドグマと病気の関係	講義	
7	ES 細胞と iPS 細胞は、何が同じで何が違うのか	講義	
8	新型出生前診断と遺伝子検査技術とは何か	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 生化学 医学書院			
参考書・指定図書 「図説 生物の世界」三訂版 裳華房 「“生きている”ってどういうこと? 生命のしくみを探る生物学」培風館			
評価の方法 各回の小テスト 5 点×8 回=40 点 期末試験 60 点 合計 100 点満点のうち 60 点以上で合格			

科目名 ナースがみる人体	授業担当者 渡部 絵美	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 人体の構造と機能を、生活行動に関連付けて看護の視点を養う。			
授業の概要 普段意識せずに行っている「食べる」「トイレに行く」「眠る」などの日常生活行動は、人間の生命活動につながる営みであり、すべて人体の構造と機能の上に成り立っている。既習の「人体の構造」「人体の機能」「生化学」などの知識を人間の生活行動に当てはめ、からだがどのように生活行動を成し遂げているのかを学ぶ。 からだのつくりとはたらきのイメージ化(からだの地図帳作成、模型作成、からだに触れる、体験する、測定するなど)や、学び合い学習(生活行動がどのようなからだのつくりとはたらきによって成し遂げられているかグループ学習し、学生が講師となり授業を行う)の手法をとる。			
受講上の注意・事前学習の内容 グループワークでは、事前・事後学習を基にスライド資料や教材資料を作成していく。資料作成のために自己学習した内容や収集した資料等は、全てポートフォリオとして A4 ファイルに綴ること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	学生授業の大まかな学習目標・授業内容の決定	講義 グループワーク	
2	学習目標・授業内容の明確化、教材検索	グループワーク	
3	授業資料・教材の作成	グループワーク	
4	授業資料・教材の作成	グループワーク	
5	授業資料・教材の作成	グループワーク	
6	授業資料・教材の作成、授業進行の打ち合わせ	グループワーク	
7～14回は順不同(各単元名・内容は学生の意向により変更する場合がある)			
7	「恒常性維持」(血液による物質の流通、神経性調節、液性調節 など)	グループワーク	
8	「息をする」(息を吸う・吐く、ガス交換 など)	グループワーク	
9	「動く」(立つ、歩く、座る、つかむ、つまむ など)	グループワーク	
10	「食事」(食欲、食行動、咀嚼・嚥下、消化・吸収 など)	グループワーク	
11	「排泄」(排尿:尿の生成、尿意、排尿)(排便:便の生成、便意、排便など)	グループワーク	
12	「見る・聞く・話す」(視覚、聴覚、発声、言葉 など)	グループワーク	
13	「入浴」(垢を落とす、温熱作用、静水圧作用、浮力作用 など)	グループワーク	
14	「睡眠」(サーカディアンリズム、睡眠中のからだ、記憶 など)	グループワーク	
15	まとめ	講義	
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア			
参考書・指定図書 菱沼典子著 看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 からだが見える 人体の構造と機能 第1版 メディックメディア			
評価の方法 7～14回目の小テスト:8点×8回分、からだの地図帳:6点、自己学習・グループワークへの参加状況・学生授業の内容:30点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病理学	授業担当者 鈴木 麻弥 塩谷 郁美	所属 秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学 腫瘍病態学講座 医員	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 なぜ身体に不調が起こるのか、その不調はどのように経過し、人体にどんな機能的・形態的変化を与えるのかを理解し、実際の医療現場で看護的処置を行う際、「なぜそうするのか」を考えられるようになる。			
授業の概要 病理学とは、病気の“しくみ(成り立ち、経過など)”や“分類・見分け方”について学び、病気の本質を理解するための学問です。 一般的に、病理学は総論と各論に大別されます。この講義では総論を中心に授業を進めます。いろいろな臓器の疾患を「炎症」「循環」「免疫」「代謝」などの大きなカテゴリーに分けて学習し、患者さんの病態全体を把握するための基本的な考え方を身につけましょう。各論の内容も必要に応じて解説していきます。			
受講上の注意・事前学習の内容 記入式の講義資料です。必要な人は印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	病理学と病理診断	講義	鈴木
2	細胞の傷害と適応	講義	鈴木
3	炎症と修復(1)	講義	鈴木
4	炎症と修復(2)	講義	鈴木
5	循環と止血(1)	講義	鈴木
6	循環と止血(2)	講義	鈴木
7	体液の異常	講義	鈴木
8	免疫応答の異常(1)	講義	塩谷
9	免疫応答の異常(2)	講義	塩谷
10	感染症	講義	塩谷
11	代謝の異常	講義	塩谷
12	遺伝と先天異常	講義	塩谷
13	腫瘍(1)	講義	塩谷
14	腫瘍(2)	講義	塩谷
15	問題演習と解説	講義	塩谷
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験(100 点満点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 検査と治療法概説 I (1) 臨床検査	授業担当者 引地 悠	所属 秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座	
開講時期 :中期	単位数 :1単位	時間数 :30 時間(臨床検査 14 時間)	
授業の目的 基本的な臨床検査の目的と結果解釈を理解するため。			
授業の概要 臨床検査の概要の説明と、国家試験問題の解説を織り交ぜながら進めます。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前配布する国家試験問題を予習した上で、主体的に講義に臨みましょう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	臨床検査の概要・尿検査	講義 グループワーク	
2	血液検査、凝固検査	講義 グループワーク	
3	血液生化学検査	講義 グループワーク	
4	血液型検査、輸血検査	講義 グループワーク	
5	呼吸機能検査	講義 グループワーク	
6	脳波検査・神経伝導速度検査・心電図検査	講義 グループワーク	
7	総まとめ	講義 グループワーク	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 検査と治療法概説 I 100 点満点中の 50 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 検査と治療法概説 I (2) 放射線検査	授業担当者 大山 忠則	所属 中通総合病院 放射線課	
開講時期 : 中期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(放射線検査 8 時間)	
授業の目的 放射線検査についての基礎的知識を習得する。また、放射線及び放射線検査の特徴を理解する。			
授業の概要 医療において画像診断の必要性、重要性は益々高まっている。しかし、患者さんは放射線やその検査について少なからず不安を抱いている。それは放射線被ばくという問題や、検査の安全性に対する不安などが患者さんの中で納得できないからである。 看護師が、放射線に対する正しい知識をもって過度な放射線不安を克服することは、同じように不安を抱く患者さんへの正しい説明と、より良い看護の提供に繋がる。場合によってはあなた自身が放射線診療従事者の一員となる場合もあることから、検査や治療の特徴をよく理解する。 いつも患者さんの傍において患者さんのことを良く知る看護師は患者さんにとって、とても安心できる存在となる。授業で学んだ知識がその一助となることを期待する。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前資料に各授業で使用する PDF を配信する。教科書と PDF を併用して授業を進めていく。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	X 線診断と看護(一般撮影・CT 検査を中心に)	講義	
2	MRI・超音波と看護	講義	
3	核医学検査・血管撮影、IRと看護	講義	
4	放射線検査の見学と被ばく防護 3 原則の演習	見学・実習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 検査と治療法概説 I 100 点満点中の 25 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 検査と治療法概説 I (3) 放射線治療	授業担当者 加藤 勇人	所属 中通総合病院 放射線課	
開講時期 :中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(放射線治療 8 時間)	
授業の目的 がん治療の 3 本柱の 1 つである放射線治療について学ぶ。また、放射線治療の副作用とその対処について理解する。			
授業の概要 放射線治療を受ける患者の看護に必要な基礎的な知識を得る。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	放射線治療総論(1)	講義	
2	放射線治療総論(2)	講義	
3	放射線治療と看護	講義	
4	放射線治療各論	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 検査と治療法概説 I 100 点満点中の 25 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名化 検査と治療法概説Ⅱ (1) 輸血療法		授業担当者 草薙 美紀子	所属 中通総合病院	
開講時期 :中期		単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(輸血療法 4 時間)	
授業の目的 輸血療法について理解を深める。 輸血療法の基礎的知識を習得する。				
授業の概要 輸血療法は臓器移植の一種であり、看護師の知識と一瞬の判断力が要求される。そのため、臨床での役割は大きな意義を持ち、確かな知識と看護能力が求められている。 善意ある輸血を安全に実施するための基礎知識を身につけていただきたい。				
受講上の注意・事前学習の内容 輸血療法単独ではなく、手術療法、化学療法と関連付けて学習していただきたい。				
授業回数	学習内容		方法	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ・輸血医療の歴史。善意で得られた血液が医療機関に供給され、患者に投与されるまでの一連の過程を説明する。 ・輸血に関わる法制度と血液製剤の種類と特徴について説明する。 		講義	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・輸血検査、輸血の実際と看護、輸血の副作用とその対策、自己血輸血についての要点などを説明する。 ・国家試験で過去に輸血関連で出題された問題の解説をする。 		講義	
	試験			
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考書・指定図書				
評価の方法 筆記試験(穴埋め回答、筆記) 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 10 点				

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 検査と治療法概説Ⅱ (2) 手術療法	授業担当者 進藤 吉明	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(手術療法 18 時間)	
授業の目的 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。			
授業の概要 手術療法での大切なことや流れを理解する。全身管理を行う上で大切なこと(輸液量、ドレーン、尿量など)を理解する。			
受講上の注意・事前学習の内容 講義は資料を中心に行います。テキストは各自、該当箇所を事前に読んでおくこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1・2・3	消化器分野と手術についての理解	講義	
4	手術療法の進歩	講義	
5	創傷治療の基礎 麻酔とは？	講義	
6	局所麻酔の特徴	講義	
7	全身麻酔の特徴	講義	
8	生体反応とモニタリング	講義	
9	周手術期合併症と疼痛管理	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
参考書・指定図書 周術期の全身管理 Gakken ナースのためのスキルアップノート 看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 秀和システム			
評価の方法 筆記試験 質問形式のレポート提出(任意)も参考とする。 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 60 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 検査と治療法概説Ⅱ (3) 化学療法	授業担当者 進藤 吉明	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(化学療法 8 時間)	
授業の目的 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療における化学療法の位置づけの理解 ・がん化学療法の基礎・有害事象の理解 ・がん化学療法における看護師の役割 ・がん化学療法の実際 			
受講上の注意・事前学習の内容 講義は資料を中心にいきます。テキストは各自、該当箇所を事前に読んでおくこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1・2	がん化学療法に関する基礎知識講座	講義	
3	がん化学療法各論	講義	
4	がん化学療法の計画立案、ロールプレイ	講義	
	試験		
テキスト 講師が準備(プリント、中通総合病院作成患者向けパンフレット) 薬がみえる vol.3 メディックメディア			
参考書・指定図書 徹底ガイド がん化学療法とケアQ&A(ナースingケアQ&A25 NCQA)(総合医学社) 新臨床腫瘍学(日本臨床腫瘍学会編集;南江堂) がん情報サイト(http://cancerinfo.tri-kobe.org) 国立がんセンター(http://ganjoho.ncc.go.jp/pro/index.html) PDQ 日本語版(http://mext-cancerinfo.tri-kobe.org/database/pdq/index.html)			
評価の方法 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 30 点 <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後のミニテスト ・最終講義時のグループ学習 ・学習到達度確認試験(選択式・記述式) 			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療 I (1) 脳神経		授業担当者 柴田 敬一	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期		単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(脳神経 10 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。				
授業の概要 人口の高齢化に伴い、認知症や脳血管障害など脳神経疾患が増加しています。また脳神経の知識は他の分野にも応用できるため、大切な分野です。授業ではスライドを用いて基礎からわかりやすく解説します。また、随時国家試験問題の解説や考え方も講義します。				
受講上の注意・事前学習の内容				
授業回数	学習内容	方法	備考	
1	主要な症状と徴候 (意識障害、頭痛、運動麻痺、けいれん)	講義		
2	末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患 (疾患の病態と診断・治療)	講義		
3	中枢神経疾患①	講義		
4	中枢神経疾患②	講義		
5	脳・神経機能障害のある患者の診療	講義		
	試験			
テキスト 系統看護学講座 専門 脳・神経 医学書院				
参考書・指定図書				
評価の方法 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 30 点				

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療 I (2) 運動器	授業担当者 鈴木 哲哉 佐々木 香奈	所属 中通総合病院 医局 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(運動器 10 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 運動器とは骨や関節・脊髄・末梢神経・筋肉などの総称で、日常生活の中で目的とする動作を実行する器官である。 運動器疾患患者は、人間の動的機能や形態的機能がその器官の損傷や加齢による変化などのために先天的または、後天的に損なわれている状態である。このような運動器疾患患者の主な病態・症状・検査・治療について理解を深め、看護師が果たす役割の理解につながることを期待する。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	総論、骨の構造・機能・種類	講義	鈴木
2	骨折の種類と病態・症状・検査・治療	講義	佐々木
3	脊椎の変性疾患・外傷の病態・症状・検査・治療	講義	鈴木
4	関節疾患(関節リウマチ・変形性関節症・痛風・偽痛風など)の病態・症状・検査・治療	講義	佐々木
5	切断、脱臼などの四肢外傷、装具、リハビリテーション、骨軟部腫瘍	講義	鈴木
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療 I (3) 女性生殖器		授業担当者 利部 徳子	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期		単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(女性生殖器 8 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。				
授業の概要 テキストと教材を用い、学生がイメージしやすい授業展開をしたい。				
受講上の注意・事前学習の内容				
授業回数	学習内容	方法	備考	
1	女性生殖器の構造と機能	講義		
2	良性腫瘍	講義		
3	悪性腫瘍	講義		
4	機能的疾患	講義		
	試験			
テキスト ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版				
参考書・指定図書				
評価の方法 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 30 点				

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療 I (4) 乳腺		授業担当者 清澤 美乃	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 : 中期		単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(乳腺 2 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。				
授業の概要 乳癌は、女性の癌としては最も多い病気です。現在では年間約7万人(=11 人に 1 人)が乳癌と診断されています。 ここでは看護者として、乳癌の基本的な病態・症状・検査・治療を理解、習得して下さい。				
受講上の注意・事前学習の内容				
授業回数	学習内容		方法	備考
1	病態:疫学や解剖・生理 症状:腫瘍性病変と非腫瘍性病変について 検査:画像診断や生検など 治療:手術、内分泌療法、化学療法、放射線療法など		講義	
	試験			
テキスト ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版				
参考書・指定図書				
評価の方法 筆記試験 病態と診療 I 100 点満点中の 10 点				

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅱ (1) 循環器	授業担当者 五十嵐 知規	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(循環器 10 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 本分野は、全身のまさに循環を対象とするものであり、その知識はどのような疾患、患者を対象にするにしても必須のものである。看護における循環管理の重要性を認識し、その知識を確固たるものとしていただきたく、本授業を行う。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキストに沿って授業を行う。ただし、テキストに載っていないが、病態などの理解のうえで重要な事項についての講義を重点的に行うので、テキストの内容の予習、復習は各自でも十分に行っていただきたい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	先天性心疾患 心臓弁膜症	講義	
2	動脈系疾患、静脈系疾患 虚血性心疾患	講義	
3	血圧異常 心筋疾患	講義	
4	心不全 心臓カテーテル検査、カテーテル治療	講義	
5	不整脈 その他	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 循環器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅱ (2) 呼吸器	授業担当者 三船 大樹	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(呼吸器 10 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 「息を吹き返す」「息を引き取る」などの表現からも理解されるように、呼吸は生命活動の根源です。呼吸器疾患は生命の危機に直結しやすく、かつその症状は、息切れや咳、胸痛、血痰など、日常生活に大きな影響を引き起こします。看護者が果たす役割を身につけるため、呼吸器の構造と生理、代表的な呼吸器疾患の基本的な知識を習得してください。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。テキストに準じた資料を配布します。この資料をもとに試験を作成しますので、試験前の復習に利用してください。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	第1章 呼吸器の看護を学ぶにあたって 第2章 呼吸器の構造と機能	講義	
2	第2章 呼吸器の構造と機能	講義	
3	第3章 症状とその病態生理 第4章 検査と治療・処置	講義	
4	第5章 疾患の理解	講義	
5	第5章 疾患の理解	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 呼吸器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅱ (3) 腎・泌尿器	授業担当者 藤原 崇史	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(腎・泌尿器 10 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 主要な腎疾患、泌尿器科疾患の病態生理が理解できるように授業を進める。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキストに沿って授業を行うので、予備知識としてあらかじめ目を通して置いて欲しい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	腎疾患を学ぶための基礎知識 泌尿器疾患を学ぶための基礎知識	講義	
2	腎臓内科で行われる検査と看護 泌尿器科で行われる検査・治療・処置と看護	講義	
3	腎臓の疾患と看護	講義	
4	透析療法と腎移植	講義	
5	泌尿器科の疾患と看護	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験(選択式、記述式の両方を予定) 病態と診療Ⅱ 150 点満点中の 50 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅲ (1) 消化器	授業担当者 進藤 吉明	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(消化器 10 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 テキストに従ってポイントをおさえて進めていく。 消化器疾患についての理解、検査法、治療法を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 病気がみえる(テキスト)を中心に講義を行っていく。(視覚で覚える) 学校指定のテキストを各自読み込んでもらう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	食道 胃	講義	
2	胃 十二指腸	講義	
3	小腸 大腸	講義	
4	肝臓	講義	
5	胆道系 膵臓 その他	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 病気がみえる vol.1 消化器 第5版 メディックメディア			
参考書・指定図書			
評価の方法 試験、授業中の演習(口述も含む) 病態と診療Ⅲ 100 点満点中の 40 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅲ(2) 内分泌・代謝	授業担当者 松田 大輔	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間 (内分泌・代謝 8 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 一般的な講義を 1 時間行う。 理解を深めるために看護師国家試験問題を使用してミニテストを行い解説を行う。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	内分泌・代謝器官の構造と機能についてその仕組みが分かるように説明するとともに、内分泌代謝疾患に必要な検査について説明し理解する。	講義	
2	代表的な代謝疾患として糖尿病を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
3	代表的な内分泌疾患として甲状腺疾患を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
4	その他の内分泌代謝疾患について最小限必要な知識を整理する。	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 内分泌・代謝 医学書院			
参考書・指定図書 日本糖尿病学会編 糖尿病治療の手引き 南江堂			
評価の方法 筆記試験(看護師国家試験問題など) 病態と診療Ⅲ 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅲ (3) 血液・造血器・感染症、アレルギー・膠原病	授業担当者 奥山 慎 藤原 崇史	所属 中通総合病院 医局 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(血液・造血器・感染症 8 時間、アレルギー・膠原病 4 時間)	
授業の目的 1. 全ての医療従事者が避けて通れない感染症。医療のプロフェッショナルを目指す皆さんに、必須な知識と必要な行動を学んでいただく。 2. 血液疾患の概要を理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。 3. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 日常の看護実践の中で比較的多く接する疾患の理解を深めることを主眼として、以下の疾患を中心に説明する。			
受講上の注意・事前学習の内容 内容が広範囲にわたるため、事前に資料を予習してください。(奥山先生) テキストに沿って授業を行うので、予備知識としてあらかじめ目を通しておいて欲しい。(藤原先生)			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	感染症の基本、症状、検査、治療 ・感染症とは何か ・感染症を構成する要素 ・感染症の経路 ・感染症法 ・感染症の症状:発熱、倦怠感、敗血症性ショック ・検査:培養をとる(グラム染色、血液培養、尿培養、痰培養)、血清検査、PCR 検査、画像検査 ・治療:抗菌薬とその乱用	講義	奥山
2	話題の感染症、予防接種、職業感染対策 ・新型コロナウイルス感染症 ・結核と空気感染 ・耐性菌:MRSA、ESBL 産生菌、多剤耐性緑膿菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 ・感染制御 ・針刺し ・予防接種	講義	奥山
3	血液の基本と貧血 ・赤血球、白血球、血小板の役割と造血 ・赤血球の異常:多血症と貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、二次性貧血) ・血小板の異常:本態性血小板血症、特発性血小板減少性紫斑病、DIC	講義	奥山
4	血液悪性腫瘍と癌化学療法 ・白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群 ・癌化学療法の概要と必要な看護 ・造血幹細胞移植 ・ HLA と骨髄バンク	講義	奥山
5	アレルギー反応とその機序 アレルギー疾患の病態	講義	藤原
6	膠原病の病態	講義	藤原
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 病態と診療Ⅲ 100 点満点中、感染症 10 点、血液・造血器疾患 10 点、アレルギー・膠原病 10 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 薬理学	授業担当者 佐々木 修	所属 中通総合病院 薬剤部	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 疾病ごとに使用される薬物の分類と作用機序、薬理作用・有害作用および管理について理解する。			
授業の概要 1. 臨床で使用される薬剤を適正に管理できる知識を獲得する。 2. 疾病とそれに対して使用される薬物の作用機序及び有害作用を理解し、臨床での患者管理に活かせる能力を身につける。			
受講上の注意・事前学習の内容 受講態度の基本として、私語等で他の学生に迷惑をかけること。授業中に大事なポイントを示すので注視すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	薬理学総論①	講義	
2	薬理学総論②	講義	
3	抹消神経系疾患に作用する薬物①	講義	
4	抹消神経系疾患に作用する薬物②	講義	
5	中枢神経系疾患に使用する薬物①	講義	
6	中枢神経系疾患に使用する薬物②	講義	
7	循環器系疾患に使用する薬物①	講義	
8	循環器系疾患に使用する薬物②	講義	
9	抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬	講義	
10	呼吸器、消化器系疾患に使用する薬物	講義	
11	がん・痛みに使用する薬物	講義	
12	生殖器・泌尿器系、感覚器疾患に使用する薬物	講義	
13	物質代謝に作用する薬物	講義	
14	感染症に使用する薬物、消毒薬	講義	
15	その他、まとめ	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 薬理学 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 微生物学	授業担当者 引地 悠	所属 秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 ヒトに感染症を引き起こす微生物について、基本的な知識を身につけること。 感染症の疫学、症状、検査、治療、予防についても知識を拓げること。			
授業の概要 頻度や重症度の高い細菌、ウイルスの講義を重点的に行う。 免疫学や感染予防についても学びを深める。			
受講上の注意・事前学習の内容 講義のテーマに基づく質問作りのグループワークを行います。 各自、質問に対する答えを調べる予習を行い、講義に臨みましょう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	微生物学概論	講義 グループワーク	
2	細菌Ⅰ グラム陽性球菌	講義 グループワーク	
3	細菌Ⅱ グラム陰性桿菌	講義 グループワーク	
4	細菌Ⅲ グラム陽性桿菌	講義 グループワーク	
5	細菌Ⅳ その他の細菌	講義 グループワーク	
6	ウイルスⅠ 皮膚症状をきたすウイルス	講義 グループワーク	
7	ウイルスⅡ 気道、神経、胃腸症状をきたすウイルス	講義 グループワーク	
8	ウイルスⅢ 肝炎ウイルス	講義 グループワーク	
9	ウイルスⅣ HIV	講義 グループワーク	
10	真菌と原虫	講義 グループワーク	
11	免疫Ⅰ 自然免疫と獲得免疫・アレルギー	講義 グループワーク	
12	免疫Ⅱ ワクチン	講義 グループワーク	
13	免疫Ⅲ 感染症の学び方	講義 グループワーク	
14	滅菌と消毒	講義 グループワーク	
15	総まとめ	講義 グループワーク	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 微生物学 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験、夏休み課題レポート			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 基礎看護学概論	授業担当者 佐々木 聖子 近江 薫	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 看護師を目指す者にとって基盤となる「看護とは何か」「看護が果たす役割はなにか」について学び、考えを深める。			
授業の概要 入学したての学生の看護に対するイメージは漠然としている。そこで、看護が実際にどのような役割、責任を担っているのかを理解し、これから看護学を学ぶものとして心構えを築く授業としたい。また、看護理論と実践の関係について学ぶことで、看護学の奥深さを感じてほしい。進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。 資料は必要時印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1・2	第1章:看護とは …看護の本質 基本的役割 看護の継続性 課題レポートの提示「看護の基本となるもの」	講義	近江
3	第2章:看護の対象の理解 …人間の理解・ストレスと適応	講義	近江
4	第2章:看護の対象の理解 …ライフサイクルと健康	講義	近江
5・6・7	第1章:看護とは 看護実践に生かす看護理論 19 使用 ナイチンゲール・ヘンダーソン・オレム・トラベルビー 他 課題レポートの提示「看護とは～私の考える看護」	講義	近江
8	第3章:国民の健康状態と生活 …健康のとらえ方 国民の健康状態	講義	佐々木
9・10	第4章:看護の提供者 …看護の変遷 看護のあり方 看護職の資格 養成制度 就業状況	講義	佐々木
11・12 13・14	第5章:看護における倫理 看護実践における倫理 倫理的課題への対応 事例検討	講義	佐々木
15	看護とは:課題レポート「看護とは～私の考える看護」の共有	交流会	佐々木
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 城ヶ端初子監修 看護実践に生かす看護理論 19 サイオ出版			
参考書・指定図書 ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版			
評価の方法 筆記試験 70 点と課題レポート 30 点の合計点で評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護リフレクションⅠ	授業担当者 大塚 紀子 他	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 前期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
授業の目的 看護リフレクションとは何かを理解し、リフレクティブサイクルに沿って、経験から学ぶための振り返り思考のプロセスを学ぶ			
授業の概要 看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、このスキルについて理論を学び、技術演習の場면을リフレクションする。年間通して行うことで、リフレクティブな思考を養いたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 3～15 回目は、演習またはシミュレーション演習後の個人・グループワークでは、ワークシートを使ってリフレクションする。(順不同) 具体的に演習の場면을想起し、グループメンバーと十分にディスカッションして欲しい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護リフレクションとは	講義	大塚
2	ワークを通して学ぶ看護リフレクションとは	講義・個人ワーク	大塚
3	日常生活援助論Ⅰ:環境整備とリネン交換	グループワーク	工藤
4	日常生活援助論Ⅱ:背部清拭・寝衣交換	グループワーク	渡部(絵)
5	共通技術論Ⅱ:安全な移乗・移送と環境整備	グループワーク	齊藤
6	共通技術論Ⅱ:安全な移乗・移送と環境整備	グループワーク	齊藤
7	日常生活援助論Ⅱ:浣腸実施後のおむつ交換および陰部洗浄	グループワーク	渡部(絵)
8	日常生活援助論Ⅰ:座位姿勢保持ができない患者の食事介助	グループワーク	工藤
9	共通技術論Ⅰ:コミュニケーション・フィジカルアセスメント	グループワーク	小田嶋
10	共通技術論Ⅰ:コミュニケーション・フィジカルアセスメント	グループワーク	小田嶋
11	診療・検査時の援助論:酸素療法および安全な吸引の実際	グループワーク	清水
12	診療・検査時の援助論:酸素療法および安全な吸引の実際	グループワーク	清水
13	治療・処置時の援助論:筋肉注射・皮下注射・皮内注射の実際	グループワーク	秋山
14	治療・処置時の援助論:点滴静脈内注射時の観察	グループワーク	秋山
15	臨床看護総論:一次救命処置の実際	グループワーク	渡部(暢)
	試験		
テキスト 田村由美/池西悦子著 看護の教育・実践にいかすリフレクション 一豊かな看護を拓く鍵一 南江堂			
参考書・指定図書 東めぐみ 著 看護リフレクション入門 ライフサポート社 田村由美/池西悦子著 看護のためのリフレクションスキルトレーニング 看護の科学社			
評価の方法 筆記試験(30 点) ワークシートの提出及びリフレクションアセスメント指標を用いた評価(70 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 共通技術論 I	授業担当者 小田嶋 陽子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 対象理解と看護実践の基礎となる共通技術を習得する。			
授業の概要 「看護技術とは何か」を学び、看護実践と看護技術のつながりについて熟考する。対象を把握するためには、人間関係の成立、情報収集・分析(評価)が必要である。看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションの技術を学ぶ。また、身体的側面の情報収集・評価の手段であるフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定の技術を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 ラーニングポータルにアップされている資料を準備し臨むこと。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護技術とは何かアートとサイエンスの側面から考える	講義	
2	コミュニケーションの概念・原理、コミュニケーションの構造とプロセス	講義	
3	看護場面での効果的なコミュニケーション技術	講義	
4	コミュニケーションにおける対象の理解	演習	
5	コミュニケーションの実践	演習	
6	フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション	講義	
7	フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション	演習	
8	バイタルサイン	講義	
9	バイタルサインの観察と測定方法①	講義・演習	
10	バイタルサインの観察と測定方法②	演習	
11	体温調節の技術	講義	
12	バイタルサイン測定【技術試験】、電法【演習】	演習	
13	バイタルサイン測定【技術試験】、電法【演習】	演習	
14	コミュニケーション、フィジカルアセスメント	シミュレーション演習	
15	コミュニケーション、フィジカルアセスメント	シミュレーション演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア			
参考書・指定図書 ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院			
評価の方法 筆記試験・技術試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 共通技術論Ⅱ	授業担当者 齊藤 豊子 齊藤 由美子	所属 中通高等看護学院 中通総合病院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 対象理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
授業の概要 安全を脅かす要因を排除し患者の安全を守ること、感染予防や患者の活動支援は病気や障害の有無に関わらず、あらゆる対象に日常的に行われている援助である。それらの基本的な看護技術の知識と技術を習得しつつ、患者の立場に立って援助することの大切さを考えながら学んで欲しい。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習し、教授された技術は練習し、演習に臨むこと。必要時資料は印刷し事前に準備すること。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	安全確保の技術①	講義	齊藤豊子
2	安全確保の技術②	講義	齊藤豊子
3	看護記録と報告	講義	齊藤豊子
4	基本的活動の援助① ～活動の意義とアセスメント～	講義	齊藤豊子
5	基本的活動の援助② ～ボディメカニクスと移動～	講義	齊藤豊子
6	基本的活動の援助③ ～体位変換 ポジショニング 関節可動域訓練～	講義	齊藤豊子
7	感染予防の意義、スタンダードプリコーション、滅菌と消毒の方法	講義	齊藤由美子
8	手洗いの方法、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い	講義	齊藤由美子
9・10	感染予防の実際	演習	齊藤由美子
11	体位変換の実技演習(水平移動・側臥位・座位・ポジショニング)	演習	齊藤豊子
12・13	移乗・移動の実際 ～車椅子移送・ストレッチャーへの移乗・移送、歩行介助、自動・他動運動～	演習	齊藤豊子
14・15	安全な移乗・移送と環境整備 (患者の状況に合った移乗・移送方法と安全に配慮した環境整備を考える)	シミュレーション 演習	齊藤豊子
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
参考書・指定図書 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験、授業態度およびレポートの取り組み状況から総合的に評価する (100点満点中、安全・活動=75点、感染予防=25点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目 共通技術論Ⅲ	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～後期	単位数:1単位	時間数:30 時間	
授業の目的 対象理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
授業の概要 看護過程は、目標に向かって効果的かつ効率よくケアを行うための組織的・系統的な方法であり、問題解決的なプロセスである。ケアの質を高めるためにも重要な技術である。講義で基本的な考え方を理解した後、ペーパーシミュレーションで演習に取り組む。グループワークを通し理解を深め、看護過程用紙に整理する。また、看護実践能力の一部として、人々の健康に関わる学習を支援する看護技術について学ぶ。対象者の思いを想像しながら、学習支援をするための計画立案、印刷教材の作成をし、実際に指導する演習を通し支援方法の理解を深める。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等を予め確認し、授業内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習し授業に臨む こと。必要時資料は印刷し、準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護過程の意義、看護過程の構成要素	講義	
2	アセスメント(情報収集、整理)看護診断	講義	
3	計画立案・実施・評価の仕方	講義	
4・5	情報の分析・解釈	講義	
6	看護過程演習 ペーパーシミュレーション(グループワーク)	演習	
7	病態理解	講義	
8・9・10	看護過程演習 ペーパーシミュレーション(グループワーク)	演習	
11	看護過程演習 ペーパーシミュレーション(発表・交流)	演習	
12	学習支援活動の基礎技術 学習支援	講義	
13	学習支援するための指導計画の立案(事例提示)	演習	
14・15	教育・指導の実際:指導計画と印刷教材の発表会	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 医学書院 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験、授業態度、提出物を総合して評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 日常生活援助論 I	授業担当者 工藤 洋平	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
授業の概要 日常生活における環境、休息・睡眠、安楽の意義を理解したうえで、快適な療養生活を送るための援助の実際を学ぶ。また、食事は生命維持のためには欠かすことのできない生理的・基本的欲求である。食事・栄養の意義を理解し、健康障害によりこの基本的欲求が満たせなくなった場合の援助の実際を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキストや Learning Bowl に挙げた授業資料、ブックライブラリー、ビデオライブラリー等をあらかじめ見て、事前学習し、学習する内容に関してイメージして講義を受講することが望ましい。 演習の前は、技術ノートの作成や事前学習、技術練習を必ず行って演習に臨むこと。 授業の資料は事前に印刷し準備する。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	環境調整の援助の実際(ベッドメイキング・リネン交換) シーツ類のたたみ方・リネン交換	講義 ミニ演習	実習室
2	病床の環境/病床の環境整備	講義	
3・4	環境整備とリネン交換	シミュレーション 演習	
5	睡眠・休息の援助	講義	
6	苦痛の緩和・安楽確保の技術/包帯法	講義	
7・8	足浴/包帯法	演習	
9	食事援助の基礎知識	講義	
10	食事摂取の介助	講義	
11・12	食事介助	シミュレーション 演習	
13	非経口的栄養摂取の援助	講義	
14・15	経鼻カテーテル挿入・流動食注入の実際(モデル人形での演習)	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院			
参考書・指定図書 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア			
評価の方法 授業態度・課題・演習・シミュレーションでの取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 日常生活援助論Ⅱ	授業担当者 渡部 絵美	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。			
授業の概要 疾病の予防や回復・健康増進のためには、快適な環境が必要である。快適な環境は、患者の病状の安定、治療効果の発揮、闘病意欲の向上の面から極めて重要である。人間にとっての清潔の意義と衣服の意義を学ぶ。また、疾病や障害、加齢、治療上の制約などにより、自身で身体の清潔を保つことが困難な状況にある方たちへの援助方法を学ぶ。健康障害により、基本的欲求が満たせなくなることも多い。排泄の介助は、対象にとって羞恥心を伴うものであり、自立と個別性を重視する技術である。演習を通し、対象の心理を考え患者の立場に立った細かな配慮ができるようになってほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 各講義を受ける前に、Learning Bowlに挙げている技術動画を視聴してから臨むこと。 演習に参加するためには事前に技術ノートを作成し、必ず技術練習をしてから臨むこと。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	身体の清潔を援助する技術（清拭・更衣）	講義	
2	身体の清潔を援助する技術（洗髪・口腔ケア）	講義	
3	清拭・更衣	シミュレーション演習	
4	清拭・更衣	シミュレーション演習	
5	洗髪・口腔ケアの実際	演習	
6	洗髪・口腔ケアの実際	演習	
7	排泄を促す技術	講義	
8	浣腸の意義	講義	
9	浣腸・摘便の実際	演習	
10	浣腸・摘便の実際	演習	
11	陰部洗浄・オムツ交換	シミュレーション演	
12	陰部洗浄・オムツ交換	シミュレーション演	
13	導尿の意義・管理	講義	
14	持続的導尿の実際	演習	
15	持続的導尿の実際	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 導尿・浣腸・敵便ができる 医学書院			
参考書・指定図書 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験、提出物、演習態度、技術習得の状況を総合して評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 診療・検査時の援助論	授業担当者 清水 有香 西方 展子	所属 中通高等看護学院 中通総合病院	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1単位	時間数 30 時間	
授業の目的 対象の理解と看護実践の基盤となる技術を習得する。			
授業の概要 この授業では、診療・検査に伴う基本的な看護技術について学ぶ。ここで学ぶ看護技術は、患者の侵襲を伴うものも含まれる。 診療・検査の意義・内容及び患者の身体的・心理的問題を理解し、診療・検査時の看護師の役割と援助方法について学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された資料に基づき事前自己学習し、必要時資料は印刷して事前に準備すること。演習では、患者への対応を想定して実践するため、事前学習や練習をして臨むこと。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	創傷管理 ① 創傷治癒過程 創の消毒と創洗浄 テープの貼り方剥がし方	講義	西方
2	創傷管理 ② ドレッシング剤 褥創とは 褥創予防	講義	西方
3	診療に伴う技術 フィジカル・イグザミネーション、呼吸の生理的メカニズム	講義	清水
4	呼吸を楽にする技術 排痰法・吸入	講義	清水
5	吸引・酸素療法	講義	清水
6・7	吸入・酸素療法の手技 演習	演習	清水
8・9	酸素療法・吸引の実際	シミュレーション 演習	清水
10	検査の意義・援助 身体計測	講義	清水
11・12	身体計測・尿検体の取り扱い・簡易血糖測定 演習	演習	清水
13	検査の援助・穿刺法・採血	講義	清水
14・15	血液検査と採血 演習	演習	清水
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
参考書・指定図書 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア			
評価の方法 創傷管理(西方)15点配点の筆記試験、他(清水)85点配点の筆記試験(60点)及び演習課題(20点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 治療・処置時の援助論	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 治療として行われる頻度の高い薬物療法時の看護師の役割や基本的な看護技術を学ぶ。			
授業の概要 この科目では、看護師の役割の一つである「診療の補助」の中の薬物療法時の看護の基礎となる知識や根拠を学習する。また机上の学習だけではなく、数多くの演習を通し基本的な技術を身につける。演習はモデル人形を使用するが、誤ると医療事故につながる技術であることを認識し、正しい知識と技術を身につけてほしい。さらに、演習では薬物療法を受ける対象の心理を捉えた対応や説明を考える場としたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 演習時、基本的にはデモンストレーションは行いません。事前学習や動画の視聴をしたうえで演習に臨んでください。また、本科目の演習は、清潔操作や無菌操作を多用します。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	与薬の基礎知識① 薬物療法における看護師の役割	講義	
2	与薬の基礎知識② 各与薬の援助方法 経口薬の投与の実際	講義 ミニ演習	
3	与薬の基礎知識③ 経皮・外用薬・坐薬の投与	演習	
4	与薬の基礎知識④ 誤薬・穿刺事故予防 薬液、注射器の取り扱いの理解と実際	講義 ミニ演習	
5	与薬の基礎知識⑤ 筋肉内注射・皮下注射・皮内注射	講義	
6・7	筋肉内注射・皮下注射の実際	演習	
8	与薬の基礎知識⑥ 静脈内注射・点滴静脈内注射	講義	
9	与薬の基礎知識⑦ 輸液の管理、輸液ポンプの取り扱い 輸血の実施方法	講義	
10	輸液の準備、輸液セットの取り扱い、輸液ポンプの取り扱いの実際	演習	
11・12 13	点滴静脈内注射の実際	演習	
14・15	点滴静脈内注射時の観察	シミュレーション 演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
参考書・指定図書 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院			
評価の方法 各種レポート(計20点) 筆記試験(80点) 合計100点で評価します。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床看護総論 (1) 救急他	授業担当者 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間(救急他 18 時間)	
授業の目的 1. 看護の活動の場および機会について理解する。 2. 健康上のニーズや健康上の経過(健康レベル)に応じた看護について理解する。 3. 救急蘇生法について理解する。			
授業の概要 看護活動の場および機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむところから始める。看護の基本として、多様な健康上のニーズを持つあらゆる健康レベルにある人々に、基本的な看護の知識や技術を統合し応用するプロセスを学ぶ。健康上のニーズについて、自分や家族にあてはめて理解を深める。また、各健康レベルの特徴と急性期・回復期・慢性期にある対象の看護について、事例を通して学ぶ。 一次救命処置の技術習得を目指し、演習・技術試験を行う。			
受講上の注意・事前学習の内容 以下の 5 つの目標をもとに進める。技術試験にむけて授業の予習・復習をして臨んでほしい。演習においては身だしなみを整え臨むこと。 目標1. 看護活動の場、チーム医療の機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむ。 目標2. 健康上のニーズに応じた看護の役割がわかる。 目標3. 各健康レベルの特徴と看護の役割がわかる。 目標4. 治療の種類と方法、それぞれの治療における看護の要点がわかる。 目標5. 一次救命処置の方法がわかり、シミュレータに実施できる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護活動の領域と場 健康上のニーズをもつ対象の看護	講義	
2・3・4	健康状態の経過(健康レベル)と看護	講義	
5	治療の種類・方法と看護	講義	
6	救急蘇生法	講義	
7・8	一次救命処置	演習・技術試験	
9	一次救命処置の実際	シミュレーション演習	
	試験		
テキスト 系統別看護講座 専門 臨床看護総論 医学書院 系統別看護講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 臨床看護総論 100 点満点中の 55 点。筆記試験(45 点)、一次救命処置技術試験(10 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床看護総論 (2) 終末期看護	授業担当者 北林 奈美子	所属 中通総合病院 緩和ケアチーム 相談支援センター	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(終末期看護 8 時間)	
授業の目的 終末期にある患者と家族の特徴と終末期看護の役割を習得する			
授業の概要 私たち医療者は終末期にある患者と家族が抱える様々な苦悩に寄り添い、和らぐように支援することが求められている。この講義では終末期患者と家族の抱える苦悩や尊厳ある死を迎えることの大切さ、看護師に必要な知識や援助技術について学びを深めてもらいたい。また、これまで関わった事例を紹介し、終末期看護のイメージを持つこと、終末期における看護師の役割を習得し、看護学生の死生観が培われるように授業を進める。			
受講上の注意・事前学習の内容 授業に臨む姿勢(居眠り、授業と関連がない行動などが認められた場合は評価に反映)は心掛けること 講義資料は事前に印刷し、準備すること			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	緩和ケアとは(緩和ケアの歴史と現状) 終末期患者とその家族の特徴(全人的苦痛について) 当院の緩和ケアチーム、がん相談支援センター、緩和ケア認定看護師の役割	講義	
2	身体症状のアセスメントと看護(がん性疼痛、呼吸困難)	講義	
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション(グループワーク形式予定)	講義 グループワーク	
4	死の受容過程の理解と援助、家族ケア 臨死期のケア(エンゼルケアの目的と意義、援助技術)	講義・動画視聴	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験、授業態度および演習での取り組み状況を総合的に評価する。 臨床看護総論 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床看護総論 (3) 化学療法看護	授業担当者 嵯峨 千春	所属 中通総合病院 化学療法室	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(化学療法 4 時間)	
授業の目的 1. 化学療法の特徴・目的・副作用を理解する 2. 化学療法を受ける患者の看護援助を理解する			
授業の概要 がん患者は様々な苦痛を経験する。その中で、治療期である化学療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的苦痛を事例を通して説明するので、理解に努め、看護援助を学んでほしい。化学療法は日進月歩で日々新しい薬剤やレジメンが開発されている。最新のピクスを交えて化学療法の特徴や目的を講義していきたい。また、化学療法患者におけるセルフケアの重要性を理解してほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 検査と治療法概説の化学療法の講義を受けていれば、復習し授業に臨むこと。またテキスト内の慢性期の患者のニーズを事前に予習してください。必要時、事前に資料を印刷し準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	化学療法の特徴と目的、有害反応について	講義	
2	化学療法に伴う苦痛への看護援助	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 臨床看護総論 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 臨床看護総論 100 点中 15 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床判断	授業担当者 工藤 洋平	所属 中通高等看護学院	
開講時期:後期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 看護師のように考えることをめざし、看護師が臨床で「気づき」「解釈」し、実践につなげていく思考過程を学ぶ。			
授業の概要 電子カルテからの情報収集のしかたを模擬演習し、看護過程用紙に情報を整理しながら、ペーパーシミュレーションで看護計画を立案する。看護過程は、情報収集を網羅的・系統的に進め看護診断するものであり、臨床推論の思考形式でいうと系統的アセスメントの方法を学ぶことができる。グループワークを通し理解を深める。 また、実習での受け持ち患者を想定し、シミュレーション演習を行うことにより、臨床判断の「気づき」「解釈」「反応」「省察」のプロセスを学ぶ。これは、患者の今に対応したアセスメントになる。 状況に応じて、看護師であれば何に気づき、どのように判断し行動するのか、看護師のように考え実践できるようになるための思考過程を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 共通技術論Ⅲで行った看護過程を復習し、Learning Bowlに挙げた資料等をあらかじめ見て、事前学習し、学習する内容に関してイメージして講義を受講することが望ましい。 Learning Bowlに挙げた授業資料は事前に印刷し、準備する。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	臨床判断とは(講義)、事例紹介、電子カルテからの情報収集	講義	
2	臨床判断の「気づき」トレーニング(グループワーク)	演習	
3	看護過程演習:情報整理、病態理解、関連図(グループワーク)	演習	
4	看護過程演習:情報の解釈、アセスメント(グループワーク)	演習	
5	看護過程演習:看護診断、看護目標、具体的解決策(グループワーク)	演習	
6・7	臨床判断シミュレーション演習 ※待機グループは、看護過程演習:看護計画の仕上げ(グループワーク)	シミュレーション演習 演習	
8	看護過程演習 交流会	演習	
テキスト ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎:臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ブックライブラリー フィジカルアセスメントの根拠がわかる!機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 気づきトレーニング 10 点、臨床判断シミュレーション演習 20 点、看護過程演習 70 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域の理解	授業担当者 森合 真由美 清水 有香	所属 秋田県看護協会 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 人々の生活の場としての「地域」を理解するとともに、地域で生活を営む人々の健康を支援するための基礎的な考え方や方法を理解できる。			
授業の概要 「地域の理解」のねらいは次のとおり 1. 地域や暮らしについて学び、人々の健康とのつながりを理解することができる。 2. 地域・在宅看護の視点から、自分が住む地域を知り、地域の特徴や多様性に気づくことができる。 3. 社会環境の変遷に伴う人々の暮らしや健康状態の変化を踏まえ、地域・在宅看護の役割や意義を理解することができる。 4. 私達の地域とそこに暮らす人々を理解し、地域の健康課題をとらえ、地域看護活動の必要性を理解することができる。			
受講上の注意・事前学習の内容 「地域の理解」について、テキストに添いつつ、学生自身が生まれ育った故郷や学院が立地する秋田市を題材に、グループワーク、フィールドワーク、発表、レポート等により学生が主体的に学習できるような授業内容とし、地域課題の理解・地域看護活動を学ぶ。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	地域とは何か～学生自身が生まれ育ったふるさとを描く	講義・グループワーク	森合
2	健康関連のデータを分析し、地域特性を理解する	講義・グループワーク	森合
3	私たちの住む秋田市の特徴を知る～「健康あきた市 21」から	講義・グループワーク	森合
4	秋田市の健康状況を学生のレポートから深堀する	講義・グループワーク	森合
5	人々の暮らしと健康との関係～秋田市の健康課題とその対策を学ぶ	講義	森合
6	地域・在宅看護の役割について	講義・グループワーク	森合
7	暮らしの基盤としての「地域」をシステム理論で理解する	講義・グループワーク	森合
8	これからの地域・在宅看護に期待されること	講義	森合
9	地域の特性・人々の暮らしから、地域を理解し、ニーズを視る	講義	清水
10	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワークの計画	講義・グループワーク	清水
11	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワークの実施・まとめ	講義・フィールドワーク	清水
12	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワークのまとめ	講義・グループワーク	清水
13	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワーク発表会①	グループワーク	清水
14	私達の地域の理解:グループワーク・フィールドワーク発表会②	グループワーク	清水
15	私達の地域の理解まとめ:地域看護活動について	講義	清水
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 森合担当 50%(筆記試験 40% 課題・グループワーク 10%) 清水担当 50%(ルーブリック評価:グループワーク・フィールドワーク)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目 在宅ケアシステム	授業担当者 佐々木 宏幸	所属 元ウエルビューいずみ障害福祉サービス	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 地域で暮らすすべての人々とその家族に看護を提供する際の基本的な知識や姿勢、その根拠となる法制度と活用について理解する。			
授業の概要 地域で暮らすすべての人々とその家族を看護の対象とした療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護実践を目指す基盤をつくるため、地域包括ケアシステムと地域共生社会の概要、地域療養を支える制度、在宅生活におけるケアマネジメントなどについて学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 学習者としての自覚をもって、ふさわしい態度・姿勢で授業に参加・受講してください。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	地域包括ケアシステムと地域共生社会①～地域包括ケアシステムの定義・多様性を尊重する時代・自分らしい暮らし方とは何か～	講義	
2	地域包括ケアシステムと地域共生社会②～地域包括ケアシステムが必要なわけ・あなたはどこでだれとどのように暮らしたいか～	講義	
3	地域包括ケアシステムと地域共生社会③～地域包括ケアシステムの構成要素・4つの助け・地域包括ケアシステムの推進～	講義	
4	地域包括ケアシステムと地域共生社会④～地域共生社会のビジョン～	講義	
5	地域療養を支える制度①～社会保障制度について・医療保険制度の概要と給付の仕組み～	講義	
6	地域療養を支える制度②～生活保護制度の概要・公費負担医療に関する法制度～	講義	
7	地域療養を支える制度③～権利擁護について・認知症基本法・虐待防止法～	講義	
8	介護保険制度について①～制度創設の経緯・介護保険制度の概要と給付の仕組み～	講義	
9	介護保険制度について②～地域包括支援センターの概要・地域ケア会議～	講義	
10	障害のある人を支える法律①～障害とは何か・障害者総合支援法・社会的障壁の除去～	講義	
11	障害のある人を支える法律②～障害者手帳・障害年金・障害者差別解消法・ICF(国際生活機能分類)の特徴～	講義	
12	ケアマネジメント①～ケアマネジメントとその過程・ケアマネジャーの役割～	講義	
13	ケアマネジメント②～ICF 思考を活用し事例情報を整理し分析する・ケアプランの作成をイメージする～	講義	
14	ケアマネジメント③～ICF 思考を活用し事例情報を整理し分析する・ケアプランの作成をイメージする～	講義	
15	ケアマネジメント④～ICF 思考を活用し事例情報を整理し分析する・ケアプランの作成をイメージする・振り返り	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 医学書院			
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験(100 点満点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域・在宅看護の対象理解	授業担当者 鈴木 淳子	所属 元至誠会看護学校	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 地域で生活する人々を理解し、対象の生活特性に合わせた看護を考える思考過程を形成するために、「人の暮らし」に焦点を当てた情報を収集する力を養う。			
授業の概要 事例のライフストーリーを活用したロールプレイ・シミュレーションを行い、対象の生きてきた背景や価値観、人生観を含めた「その人」を情報収集し、それらが「その人の暮らし」に影響し、生活が営まれていることを理解できるように、グループワークを行う。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	暮らすということ	講義	
2	私のライフヒストリーとライフストーリー(グループ交流)	グループワーク	
3	Aさんのライフストーリー 情報収集:Aさんの生活環境を知る(ロールプレイ・シミュレーション)	演習	
4・5	Aさんのライフストーリー 情報収集:Aさんの語り、インタビュー(ロールプレイ・シミュレーション)	演習	
6	Aさんのライフストーリー Aさんの暮らしを考える	グループワーク	
7・8	Aさんのライフストーリー グループ発表と振り返り	講義・発表	
テキスト 配布資料			
参考書・指定図書			
評価の方法 課題レポート ロールプレイ、グループワークへの参加態度を含め総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護学概論	授業担当者 堀 裕美	所属 元 中通高等看護学院	
開講時期:前期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 成人期にある人々の生活と健康について理解を深め、健康を保持・増進するための看護アプローチの基本を学ぶ。			
授業の概要 成人期は人生の中でもっとも長く、社会の中心的な役割を担う時期でもあり、環境や習慣、生活ストレスなど健康生活を脅かす問題を抱えやすい。それらの背景を理解した上で、成人期の健康を保持・増進できるよう援助することが重要である。 「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」に取り組むことで、観察できる力を養うとともに、身近にいる成人期にある大切な人の健康、生活、環境を関連付けながら、看護の視点で大切な人の健康を守るための提案をする。			
受講上の注意・事前学習の内容 授業の中に適宜簡単なバズセッション(グループで自由に討議し、代表が発表。さらに参加者全体としての討議を進める学習法)を盛り込むので、クラスメイトと積極的に意見交換をして、自分の考えを深めよう。 プロジェクト学習は、個人ワーク、自分の意思で進めていく学習です。ゴール達成のために計画的に取り組もう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	大人であるということ 青年期の特徴	講義・Gワーク	
2	成長発達の特徴～壮年期・向老期	講義	
3	身体機能の特徴と看護 対象の生活-働いて生活を営むこと	講義	
4	生活と健康 健康を脅かす要因と看護～成人期にみられる健康障害とその対策	講義	
5	ヘルスプロモーション 健康観と保健行動	講義	
6	大人の学習ー学習に基づく行動形成 行動変容を促進する看護ケア	講義	
7	看護実践における倫理的判断および意思決定支援	講義	
8	慢性病とセルフマネジメント(1) 慢性病とともに生きる人を理解する	講義	
9	慢性病とセルフマネジメント(2) 慢性病とともに生きる人を支える	講義	
10	プロジェクト学習 進め方	講義	
11	プロジェクト学習 情報収集のフェーズ	グループ交流	
12	プロジェクト学習 製作のフェーズ	講義・個人ワーク	堀 他5名
13	プロジェクト学習 プレゼンテーションのフェーズ	成果の共有	堀 他5名
14	プロジェクト学習 プレゼンテーションのフェーズ	成果の共有	堀 他5名
15	プロジェクト学習 成長報告のフェーズ	講義・個人ワーク	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院			
参考書・指定図書 必要に応じて講義の時に紹介			
評価の方法 筆記試験(70点) プロジェクト学習(30点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

プロジェクト学習・シラバス

科目名	成人看護学概論 「身近な“成人期”にある 大切な人の健康を守ろう！」プロジェクト
講師／ファシリテータ・協力者ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 堀 裕美・佐々木聖子・近江 薫・秋山祥子・渡部暢子・加藤香織
単位・時間・受講対象(人数)	成人看護学 成人看護学概論 1単位 (6回・12時間/15回・30時間) 対象 中通高等看護学院 1年生 50名
期間	2025年7月～2026年1月
概要	<p><プロジェクト学習の展開></p> <p>このプロジェクトは、看護を学び始めてまだ4か月の学生たちが、人々のセルフマネジメント力を育て、患者の生活改善に最も力を発揮する看護師の役割を学ぶ第一歩となる。看護の目で人の健康を観察できる力、教科書とリアルを常に一致させる知的習慣を身につけることをねらいとする。</p> <p>当たり前近くににいる人を、大切な人として認識し、健康の視点で対象を観察し、いつまでも健康で長生きしてほしいという願いをかなえるための提案をする。対象は、身近にいる成人期(壮年期30～60歳、向老期60～64歳)にある人とし、インタビューや観察を行い、情報収集により現状把握する。「課題」を見つけ、今の生活や行動、ふるまいをどう変化させたいものか、具体的でその人にとってベストな提案を考える。</p> <p>つぎのようなビジョンとゴールの元、プロジェクト学習を実施する。</p> <p><「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！」プロジェクト></p> <p>*ビジョン(願い)：身近な“成人期”にある大切な人が、健康で長生きしてほしい</p> <p>*ゴール(具体的な目標)：「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守る」提案集をつくる！</p> <p><対象は成人期></p> <p>なぜ成人期を対象とするか、それは次のような背景からである。</p> <p>健康問題は時代により大きく変わる。現在の成人期の健康問題の中心は、飽食、運動不足、喫煙などの好ましくない生活行動に由来する慢性疾患となった。しかし、多くの人々は、生活を自分でかえられない。人々が望ましい生活行動をとれるよう支援することが必要であり、その問題解決には、健康問題と生活援助の双方に唯一専門性を持つ看護学の貢献が不可欠である。看護師は、患者を気遣い寄り添い、感情に巻き込まれながら患者に接近し、患者と相互作用を起こすことによって、患者の内なる力を引き出すことができる。人々のセルフマネジメント力を育て、患者の生活改善に最も力を発揮するのは看護である(医学書院「看護研究」より抜粋)。</p> <p><社会的意義></p> <p>*成人期にある大切な人の生活改善で生活習慣病予防に貢献できる</p> <p>*医療費の削減に貢献できる</p>
キーワード	成人期、健康、生活、環境 仕事 客観的情報 セルフマネジメント セルフケア 食事習慣 栄養バランス 活動 休息 生活習慣 ヘルスプロモーション

目的・身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 生活における健康を阻害する要因を知る <input type="checkbox"/> 看護師として人間をみて情報を得る <input type="checkbox"/> 課題発見力/主観・客観的情報の獲得 <input type="checkbox"/> 多面的に物事を見る力 <input type="checkbox"/> 成人期の健康課題を解決する力	普遍知 <input type="checkbox"/> 自分の意志で目標へ向かう力 <input type="checkbox"/> 根拠ある情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 応用力：知識と現実を結びつける力
学習の成果物	「身近な“成人期”にある 大切な人の健康を守る」提案集	
評価方法	ポートフォリオ評価（成果や成長のプロセス/自己評価）30点 評価材料：凝縮ポートフォリオ、成長報告	
実施月日 7月～12月	7/ 9/ 9/8 9/～11月 11/下旬 1/中旬 1月下旬 <input type="checkbox"/> 準備 <input type="checkbox"/> ビジョン・ゴール <input type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 情報・解決策 <input type="checkbox"/> 制作 <input type="checkbox"/> プレゼン <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 成長確認	
講義室・場所	教室または図書室	
展開内容	<p style="text-align: center;">講義・AL</p> <p>導入 7月 <準備のフェーズ> プロジェクト内容の説明 「大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」として、どんなことをやるのかを理解する。 そのためにプロジェクト学習の基本フェーズを見て、これを「大切な人の健康・生活」という題材で行う流れをイメージし、そこで身につく力を意識することも合わせ、学習者一人ひとりがどんなふうに進めたいのかを理解する。 <input type="checkbox"/>プロジェクト全体の題材（テーマ）とゴールを知る <input type="checkbox"/>プロジェクト展開の流れをつかむ <input type="checkbox"/>「S情報・O情報」講義 時間外（夏季休暇中） 対象者の決定 <input type="checkbox"/>観察を通しもっとも生活改善を必要とする人を対象者に選ぶ</p> <p>1回目 9月 <ビジョン・ゴールのフェーズ> <input type="checkbox"/>「課題解決の思考プロセス」（資料S）参考に課題の明確化 <input type="checkbox"/>マイゴールの設定 <計画のフェーズ> <input type="checkbox"/>工程表の説明 <input type="checkbox"/>ゴール到達に必要な情報や作業、時間配分を計画する <input type="checkbox"/>目標達成のためにすべきことを戦略的に考え計画書を作成する “すべきこと”にモレがないか仲間同士で見てアイデアや情報を提供し合う 時間外 9月～10月 <情報・解決策のフェーズ> <input type="checkbox"/>情報・解決策について説明 <input type="checkbox"/>ゴールに向かうために有効な根拠に基づいた情報を得、具体的な工夫、解決策を生み出し、得た情報をGoogle クラブルーム内ポートフォリオにアップする。</p> <p>2回目 10月 <input type="checkbox"/>考えるために情報は足りているか？ グループ交流 時間外 コーチング ～知識を現実につなげる力を引き出す</p> <p>3回目 11月～1月 <制作のフェーズ> <input type="checkbox"/>制作およびプレゼンテーションについて説明する <input type="checkbox"/>凝縮ポートフォリオ1枚に図やグラフ、簡潔な文章を組み合わせ、プレゼンテーション用に表現する。 時間外 コーチング ～プレゼン準備</p>	

	4・5回目 1月中旬 <プレゼンテーションのフェーズ> プレゼンテーションする □ 他者の発表を聞いて、良いところ、こうすればもっと良くなるという視点でメッセージをGoogle クラスルーム内に書く。
	6回目 1月下旬 <成長確認> □凝縮ポートフォリオ修正、提出 □成長確認 …成長報告書、成長エントリー、レポートを書き提出
テキスト・参考図書	医学書院「解剖生理学」「成人看護学 呼吸器、循環器、消化器、脳・神経、女性生殖器、運動器、内分泌・代謝、腎・泌尿器、血液・造血器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯・口腔」「病態生理学」「基礎看護学概論」「成人看護学総論」「臨床薬理学」「臨床微生物学・医動物」「生化学」「栄養学」「栄養食事療法」「臨床検査」「病理学」「病態生理学」「公衆衛生」「成人看護学総論」「基礎看護技術Ⅰ」「地域・在宅看護の基盤」「人間関係論」「心理学」「教育学」「文化人類学」 メディックメディカ 「病気が見える vol.1 消化器第5版」 医学書院「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する 与えられた学びから意志ある学びへ」
履修条件	プロジェクト学習参加
他講義との関連	生活と健康 基礎看護学概論
受講生へのメッセージ	看護の学習を始めて4か月。生活改善プロジェクトでは、自分の健康は、生活を整えることが大事であることに気づいたはず。成人期にある人は、どのような生活をし、どのような環境の中で生きているのか、また、どのような制度で健康が守られているのか、社会や環境を俯瞰したうえで、身近にいる大切な人の生活を看護の眼で見つめて、どうすれば健康で長生きできるかを考えて欲しい。
プロジェクト学習 eラーニング	検索 未来教育オンライン講座 http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

科目名 周手術期援助論	授業担当者 佐藤 尚樹	所属 中通総合病院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 周手術期における基本的な看護についての理解を深め、周手術期の過程に応じた看護実践に必要な能力を養う。			
授業の概要 周手術期を術前・術中・術後の各期に分け、その時期の基本的な看護を学ぶ。 術前の看護では、意思決定から手術に向けての一般的準備や看護の流れ、手術を受ける患者の心理と心の準備を手助けする重要性を理解する。 術中の看護では、他職種との共同作業である手術室での看護師の役割や、安全管理、手術体位や麻酔によって引き起こされる二次的合併症の予防に関する看護の実際を学ぶ。 術後は麻酔および手術侵襲によって、生体に様々な変化が生じる。術後の看護では、患者の状態を十分に把握し、おこりうる状態の予測に基づいて緻密な観察が重要となる。術後患者のアセスメントの視点や術後合併症の予防の重要性を学ぶ。 演習を通じて、術後侵襲のある患者への安全・安楽を考慮した看護の提供の必要性と手順を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 スライドを用いた講義のため、必要に応じて資料のプリントアウトを行う。 スライドの内容以外にも必要事項を述べることもあるため、聞き漏らしがないよう集中して講義を受けてほしい。 演習に向け、基本的な看護技術(臥床患者の寝衣交換、無菌操作の方法、テープ類の正しい貼り方・剥がし方)の振り返り。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	周手術期看護の概論	講義	
2	術前患者の看護	講義	
3	術中患者の看護	講義	
4	術後患者の看護・回復を促進するための看護	講義	
5	術後合併症の予防と発症時の対応	講義	
6	術前の看護の実際	演習	
7	術前の看護の実際	演習	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論 I (1) 運動器	授業担当者 嵯峨 宏美	所属 中通総合病院	
開講時期 :中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(運動器 10 時間)	
授業の目的 運動機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 成人期の健康障害の中で、骨・関節・筋疾患ならびに脊髄疾患に伴う運動機能障害に対して整形外科的治療を受ける患者の看護を学ぶ。 リハビリテーションにおける各専門職との連携を学び、障害された運動機能及び、その人らしい生活を再獲得するための機能回復への援助、精神的援助、社会資源活用について学ぶ。 成人期の看護に必要な看護技術について、より安全な技術を提供するための留意点を考え、患者の状況に応じた援助方法について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	整形外科疾患の援助のための主な知識と技術	講義	
2	保存療法を受ける患者の看護	講義	
3	手術を受ける患者の看護	講義	
4	経過に応じた患者の看護	講義	
5	疾患をもつ患者の看護	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 成人看護援助論 I 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論 I (2) 脳神経	授業担当者 鈴木 良輔	所属 中通リハビリテーション病院	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(脳神経 12 時間)	
授業の目的 脳神経機能障害を持つ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 脳・神経は生命維持・身体機能の中枢である。脳・神経が障害されることで、人間の身体にどのような変化が現れるのか、また身体的、精神的、社会的影響を考え、さまざまな障害を抱えながらそれぞれの生活・人生において生きがいや満足感を高めていけるよう適切な看護の方法について学習する。 看護活動では、脳神経疾患の病態生理の知識の上にならって、看護の意義に立ち戻りながら実際の看護実践につなげられるように理解を深めてほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前学習として「人体の構造」「人体の機能」「病態と診療 I (1)脳神経」の授業内容を確認しておくことを勧める。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	患者の特徴と看護の役割	講義	
2	疾患をもつ患者の経過と看護	講義	
3	症状・障害を持つ患者の看護:意識障害・運動麻痺	講義	
4	症状・障害を持つ患者の看護:頭蓋内圧亢進症状・瞳孔異常	講義	
5	症状・障害を持つ患者の看護:高次脳機能障害	講義	
6	治療・処置を受ける患者の看護:検査と手術	講義	
	試験		
テキスト 系統別看護学講座 専門 脳・神経 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験および課題・授業態度により総合的に評価する。 成人看護援助論 I 100 点満点中の 45 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論 I (3) 女性生殖器・乳腺	授業担当者 齊藤 豊子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間 (女性生殖器・乳腺 8 時間)	
授業の目的 性機能障害を持つ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 女性生殖器疾患によって生じる生殖器の障害は、臓器だけでなく、女性のライフサイクルをも変化させてしまう。そのため女性の健康障害に対する看護においては、女性のライフステージと社会の中での立場を理解し、生殖器の疾患を抱えた女性が心身ともに充実した生活を送るための支援を、検査・治療に対する援助の視点、心理的支援、退院後の生活支援などについて学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 既習学習を含め関連する内容を教科書で事前に確認し、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題については事前に印刷して取り組み授業に臨む。必要時資料は事前に印刷し、準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	女性生殖器疾患を学ぶための基礎知識〈診察・検査と看護〉	講義	
2	女性生殖器の主な疾患と看護	講義	
3	主な治療・処置の伴う看護〈手術療法・ホルモン療法〉	講義	
4	乳癌患者の看護 ・検査〈マンモグラフィー検査、病理検査〉 ・乳癌の手術療法の看護	講義	
	試験		
テキスト ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版			
参考書・指定図書 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験(成人看護援助論 I 100 点満点中の 25 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護学援助論Ⅱ（1） 循環器	授業担当者 清水 有香	所属 中通高等看護学院	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1単位	時間数 :30時間(循環器12時間)	
授業の目的 循環機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 心臓と血管で構成される循環器系は全身の血液循環を担っており、呼吸器系とも密接な機能をもつなど、生命活動の根幹である。その機能低下や障害は、生命の危機をもたらすが、生命の危機的な状況を脱しても、身体的・精神的・社会的にさまざまな問題を引き起こす。また、循環機能障害は、日常生活習慣上に発症の危険因子があることが多く、寛解と悪化を繰り返し進行し、合併症を引き起こしやすいため、生涯にわたる正しい自己管理行動が重要となる。循環機能障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的問題が軽減し、再発や進行を予防しながら、QOLを維持できるようにするための看護について学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 構造と機能は、疾患及び症状の発生機序と関連付けて理解を深めること。教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された資料に基づき事前自己学習し、必要時資料は印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	循環器の構造と機能	講義	
2	心不全患者の看護① ・左心不全と右心不全の主要な症状と看護	講義	
3	心不全患者の看護② ・急性心不全と慢性心不全における看護	講義	
4	冠血流障害(虚血性心疾患)患者の看護① ・狭心症と心筋梗塞における看護	講義	
5	冠血流障害(虚血性心疾患)患者の看護② ・心臓リハビリテーション ・心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の看護	講義	
6	ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護 ・開心術を受ける患者の看護	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 循環器 成人看護学3 医学書院			
参考書・指定図書 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院			
評価の方法 筆記試験。成人看護学援助論Ⅱ100点満点中40点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論Ⅱ (2) 呼吸器	授業担当者 佐々木 正吾	所属 秋田県立医療療育センター	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(呼吸器 10 時間)	
授業の目的 呼吸機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 人間にとって呼吸は代謝を行うために必要な酸素を体内に取り入れ、循環は血液を介して代謝に必要な酸素を全身に運ぶ、生命活動である。呼吸と循環は、人間が生きていくための重要な活動であり、停止すると直ちに死に至ってしまうため、生命の源であるといえる。これらの機能が障害されると生命が脅かされ、日常生活活動が困難になり死への不安も強くなりやすい。そのような対象の身体的・精神的・社会的側面を考慮した看護援助について学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、事前学習してから講義を受講することが望ましい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	呼吸機能障害とは 呼吸機能障害を持つ患者の主な検査	講義	
2	気管支喘息患者の看護	講義	
3	慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義	
4	人工呼吸器療法を受ける患者の看護	講義・演習	
5	肺切除術を受ける患者の看護 慢性疾患におけるエンド・オブ・ライフケア	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 呼吸器 医学書院			
参考書・指定図書 病気がみえる vol.4 呼吸器 第3版 メディックメディア			
評価の方法 成人看護援助論Ⅱ 100 点満点中の 30 点 筆記試験、授業態度を総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論Ⅱ (3) 腎・泌尿器	授業担当者 能登谷 恵利子 鈴木 由美子	所属 中通総合病院 中通総合病院	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(腎・泌尿器 8 時間)	
授業の目的 腎・泌尿器機能障害をもつ対象を生活者として理解し、症状、治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 泌尿器系疾患を持つ人や腎臓病を持つ人の身体面(症状観察、症状マネジメント)、心理面(不安・苦痛への配慮、プライバシー保護、人間の尊厳、羞恥心への配慮)、社会面(患者・家族への援助と多職種連携、社会資源の活用)から全体像を捉え、その人らしい暮らしへつなげる適切な援助について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前学習なし			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	腎・泌尿器科疾患を持つ人の身体面、心理面、社会面、症状のアセスメントと看護	講義	能登谷
2	腎泌尿器科疾患の手術療法を受ける患者のアセスメントと看護	講義	能登谷
3	慢性腎臓病の各段階の特徴と療養生活支援	講義	鈴木
4	腎不全治療(血液透析、腹膜透析、腎移植)を受ける患者の看護	講義	鈴木
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器 医学書院			
参考書・指定図書 透析ハンドブック 医学書院 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 メディックメディア 透析ケア			
評価の方法 筆記試験 成人看護援助論Ⅱ 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論Ⅲ (1) 消化器	授業担当者 工藤 洋平	所属 中通高等看護学院	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(消化器 12 時間)	
授業の目的 消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。			
授業の概要 消化器は、食物の摂取・消化・吸収・代謝・排泄に関わる器官である。機能低下によって起こる症状、原因となる疾患とその治療の目的を理解し、疾病によって生じる患者の身体的、心理・社会的影響を考え、生活環境の変化を捉えながらその人らしい生活ができるよう適切な看護の方法について学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキストや Learning Bowl に挙げた資料等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。 授業の資料は必要時事前に印刷し準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	腹部のアセスメントと観察	講義	
2	症状に対する看護/検査時の看護	講義	
3	肝障害のある患者の看護	講義	
4	胃の手術を受ける患者の看護	講義	
5	大腸の手術・ストーマ造設術を受ける患者の看護	講義	
6	胆石・膵炎の看護/膵臓の手術を受ける患者の看護	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 消化器 医学書院 病気がみえる vol.1 消化器 メディックメディア			
参考書・指定図書 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
評価の方法 筆記試験 成人看護援助論Ⅲ100 点満点中の 40 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅲ(2) 内分泌・代謝	授業担当者 松田 大輔	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間 (内分泌・代謝 8 時間)	
授業の目的 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護師が果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 一般的な講義を 1 時間行う。 理解を深めるために看護師国家試験問題を使用してミニテストを行い解説を行う。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	内分泌・代謝器官の構造と機能についてその仕組みが分かるように説明するとともに、内分泌代謝疾患に必要な検査について説明し理解する。	講義	
2	代表的な代謝疾患として糖尿病を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
3	代表的な内分泌疾患として甲状腺疾患を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。	講義	
4	その他の内分泌代謝疾患について最小限必要な知識を整理する。	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 内分泌・代謝 医学書院			
参考書・指定図書 日本糖尿病学会編 糖尿病治療の手引き 南江堂			
評価の方法 筆記試験(看護師国家試験問題など) 病態と診療Ⅲ 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人看護援助論Ⅲ (3) 造血・免疫・感染	授業担当者 小田嶋 陽子	所属 中通高等看護学院	
開講時期 :後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間 (造血・免疫・感染 10 時間)	
授業の目的 造血・免疫機能障害の疾患、感染症を理解し、症状・治療に応じた看護ができる知識・スキルを養う。			
授業の概要 造血機能障害は治療法が進歩したとはいえ、未だ急性増悪と寛解を繰り返しながら予後不良の経過をたどることが多く、治療による入退院等の環境の変化や副作用出現の苦痛、ボディイメージの変容、家族・社会生活での役割の変化など、身体面だけでなく精神面・社会面での援助が必要とされる。また、免疫機能障害はアレルギーから膠原病・難病指定疾患まで幅広く、患者は特徴的な症状を呈しながら副腎皮質ステロイド薬をはじめとする長期の薬物療法を必要とすることが多い。そして、感染症は多くの疾患の中で罹患率や死亡率のかなりの部分を占めている。この講義では造血・免疫・感染についての知識を深め、患者に対するアセスメントの視点や適切な看護の方法について学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 ラーニングポウルにアップされている資料を準備し臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	造血機能障害をもつ患者の特徴と看護 貧血・輸血時・易感染状態・出血傾向にある患者の看護	講義	
2	白血病患者の看護 白血病の患者の看護事例	講義	DVD の視聴
3	造血幹細胞移植の看護	講義	
4	アレルギー疾患患者の看護 膠原病患者の看護	講義	
5	感染症患者への看護	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院			
参考書・指定図書 病気がみえる vol.5 血液 メディックメディア 造血幹細胞移植の看護 改訂第2版 南江堂			
評価の方法 筆記試験とレポート 成人看護援助論Ⅲ 100 点満点中の 30 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護学概論	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 高齢者の特徴と高齢者を取り巻く医療福祉の動向を理解し、看護の果たす役割を学ぶ。			
授業の概要 我が国の平均寿命延伸の結果、老年期は平均して 20 年程度と見込まれている。人生の終盤を「住み慣れた地域で最期まで」過ごすためには、健康な時も病気を患った時も、最善の看護を提供することが看護師には求められる。老年看護では、高齢者一人ひとりの人生を考えながら、健康レベルの多様な水準と場の広がりに対応できる能力が必要とされる。 この授業では、高齢者の特徴と高齢者を取り巻く社会の理解、高齢者医療福祉の動向と看護に求められるものを学んでいく。高齢者疑似体験の演習を取り入れ、加齢に伴った身体的変化を体験し、高齢者の思いや高齢者看護の留意点が考えられる授業としたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義	
2	老年看護のなりたち	講義	
3	超高齢社会と社会保障	講義	
4・5	高齢者のヘルスアセスメント	講義	
6・7	高齢者の生活機能を整える看護	講義	
8	健康逸脱からの回復を促す看護	講義	
9	治療を必要とする高齢者の看護	講義	
10・11	生活・療養の場における看護	講義	
12	高齢者のリスクマネジメント	講義	
13	エンドオブライフケア	講義	
14・15	高齢者疑似体験	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 老年看護技術 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 授業態度・課題の取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 基礎看護学実習Ⅰ	授業担当者 清水 有香	所属 専任教員 中通高等看護学院
開講時期 :中期	単位数 :1単位	時間数 :40時間
授業の目的 患者への接し方を学び、基本的ニーズに応じた援助が実施できる。		
授業の概要 本実習では、看護の対象とその療養環境について学ぶ。また、病棟で働く看護師とともに患者のベッドサイドに行き、どのように看護しているのか看護の実際を見て学ぶことにより、看護の仕事を具体的に知ることができる。また、学生1又は2名で患者1名を受持ち、関係作りの基本である会話の導入及び発展のさせ方や、対象に応じた接し方を学ぶ。患者とのコミュニケーションやアセスメント、電子カルテで得た情報から、患者を理解し、基本的ニーズが充足されているかを考え、看護援助を行う。安全、安楽、患者の反応から看護援助の妥当性を評価する。見学や実践などの体験を通し、対象の理解や看護援助について考える機会とする。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習要綱及びガイダンス資料を確認し、実習目的及び内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された事前学習課題や実習ガイダンス資料に基づき事前自己学習・技術練習をし、実習要綱等必要な資料は印刷して事前に準備すること。		
授業計画 1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。 2. 病院内、病棟内を見学し、施設の概要を知る。 3. 看護師の業務に同行し、見学する。 4. 患者1名を学生1～2名で受け持ち、コミュニケーションの実際を学ぶ。 5. 患者とのかわりから、ニーズを把握し、用紙1～3に整理する。また、援助の必要性を導き出し、看護援助を展開する。 6. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、用紙4～6に整理し、安全・安楽・自立の視点から、援助の妥当性を振り返る。また、実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。		
テキスト 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参考書・指定図書 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
評価の方法 実習評価表に基づいて評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

2025年度 教育課程（2学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	倫理学	1	15		94
		キャリア教育論Ⅱ	1	15		95
	人間と生活、社会の理解	自己の探求	1	15		102
	小計		3	45		
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態と診療Ⅳ	1	30		103
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30		107
		社会福祉	1	30		108
		関係法規	1	30		109
		臨床心理学	1	15		110
		リハビリテーション論	1	30		111
小計		6	165			
専門分野	基礎看護学	看護リフレクションⅡ	1	30		112
	地域・在宅看護論	地域・在宅在宅看護概論	1	30		113
		在宅看護技術	1	30		114
		対象に応じた在宅看護	1	30		115
		成人看護学	臨床推論	1	30	
	老年看護学	老年看護援助論Ⅰ	1	30		117
		老年看護援助論Ⅱ	1	30		118
		老年看護援助論Ⅲ	1	15	試験時間含む	119
		認知症看護	1	15	試験時間含む	120
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		121
		小児疾患の病態と診療	1	15		122
		小児看護援助論Ⅰ	1	30		123
		小児看護援助論Ⅱ	1	30		124
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		125
		周産期の診療	1	15	試験時間含む	128
		妊産婦の援助論	1	30		129
		母と子の援助論	1	30		130
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		131
		精神疾患の病態と診療	1	30		132
		精神看護援助論Ⅰ	1	30		133
		精神看護援助論Ⅱ	1	15		134
	看護の統合と実践	看護研究方法論	1	30		135
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	80		136
		基礎看護学実習Ⅲ	2	80		137
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80		138
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80		139
	小計		30	905		
総合計		39	1115			

科目名 倫理学	授業担当者 鈴木 祐丞	所属 秋田県立大学	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 現代の集約的畜産に付随する動物倫理の問題——われわれは(家畜)動物に対して(どれほど)配慮すべきか——について、功利主義や権利論(義務論)の立場からの議論を理解したうえで、何が正しいのか考える。			
授業の概要 科学・技術の発展により、以前は存在しなかった倫理的な問題がいろいろな形で姿を現している。畜産が資本主義に取り込まれた現代社会においては、畜産場で鶏・豚・牛たちが「モノ」のように扱われることが普通であり、「肉を食べる」という日常的な行為すらも善悪という問題を抱えこんでいる。その問題をめぐって、他者との対話をつうじて、自分自身の見解を形作ってもらいたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 授業をつうじて考えたこと、疑問に思ったことなどを、リアクション・ペーパーにまとめてもらう。リアクション・ペーパーは第 2、4、6 回の授業中に記入してもらい、提出してもらう予定である。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業についての説明／動物の権利運動、動物解放論、動物の福祉・動物の権利などについて	講義	
2	『実践の倫理』(1):功利主義と平等	講義	
3	『実践の倫理』(2):種差別と人間中心主義	講義	
4	『実践の倫理』(3):「利害に対する平等な配慮の原則」	講義	
5	『実践の倫理』(4):肉食のボイコット	講義	
6	<i>The Case for Animal Rights</i> :権利論(義務論)、「生の主体」と「内在的価値」	講義	
7	映画「いのちの食べかた」(ニコラウス・ゲイハルター監督、2005 年):畜産の現場の実状	映像資料視聴	
8	“A Frequently Asked Question: What about Plants?” :植物への配慮について	講義	
	期末レポート		
テキスト レジュメを配布する。			
参考書・指定図書 ピーター・シンガー『実践の倫理』、山内友三郎ほか訳、昭和堂、1999 年 Tom Regan, <i>The Case for Animal Rights</i> , University of California Press, 2004.			
評価の方法 平常点(受講状況など) 20% リアクション・ペーパー 30% 期末レポート 50%			

科目名 キャリア教育論Ⅱ	授業担当者 日野 由樹子 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期 :前期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :15 時間	
授業の目的 プロジェクト学習を通してパーソナルポートフォリオからキャリアポートフォリオを作成し、将来自分が目指す看護師像を描き、意志ある学びを実現する。			
授業の概要 キャリア教育論Ⅰを基礎として、自分の資質や夢と専門性を重ね、キャリアビジョンを描き、プロジェクト学習とポートフォリオを実践します。将来自分が目指す看護師像に向かって行動することができることを期待します。			
受講上の注意・事前学習の内容 実習ポートフォリオの作成の仕方について理解できるようキャリア教育論Ⅰの確認をしておこう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1・2・3	ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！プロジェクト	プロジェクト学習	
4	ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！プロジェクト 成長報告 実習ポートフォリオについて(基礎Ⅲ実習前)	プロジェクト学習	
5・6	マイルストーン「キャリアビジョン実現！」プロジェクト	プロジェクト学習	
7・8	「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト 成長報告(1年生と合同)	プロジェクト学習	
テキスト 鈴木敏恵著 キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会			
参考書・指定図書 鈴木敏恵著 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院 鈴木敏恵著 アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する 医学書院			
評価の方法 情報獲得(45点)・実習ポートフォリオ(10点)・マイルストーン(35点)・成長報告(10点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	意志ある学び—未来教育 「ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！」プロジェクト	
講師/ファシリテータ・協力者 ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 日野由樹子・渡部暢子	
単位・時間・受講対象	4月下旬～5月上旬 3コマ(6時間) 2年生	
学習概要 (社会的意義)	<p><概要> 臨地実習の限られた時間の中で、何を学ぶために実習に行き、何を獲得するのか、学生自身も目標を明確にもつことが必要となる。臨地実習では、その疾患の患者の何を見る(情報獲得)必要があるのか、そのためには何を考えて行動するのか「考動知性」について学ぶ。また、患者を把握して、状況全体を描き、“察して動ける力”を身につけることが必要である。</p> <p>R10を活用し、リアルな架空の患者を想定し、その状況から今一番必要な情報を獲得するには何を見て、どのように声をかけ行動するのかを考える。得た情報と患者がどうなって欲しいかを考え、行動に結びつけられるようにグループで考えてまとめ、発表する。</p>	
キーワード	考動知性 情報獲得 ベッドサイド キャリアビジョン キャリアストーリー	
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 対象をイメージする力 <input type="checkbox"/> 情報を見極める力 <input type="checkbox"/> 根拠ある情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 優先順位を決める力 <input type="checkbox"/> 課題解決力	普遍知 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 観察力 <input type="checkbox"/> 俯瞰力 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択する力 <input type="checkbox"/> 多角的にものを見る力 <input type="checkbox"/> 考えて行動できる力 <input type="checkbox"/> セルフコーチング力 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲
学習の成果物	対象患者を訪室した時の「考動知性」を考えた凝縮ポートフォリオ	
評価方法	取り組み姿勢(自己評価)・プロジェクト学習の内容 (35点) 「アクションシート」(10点) 45点/100点	
実施計画/関連予定	基礎看護学実習Ⅱ：2025年5月19日～5月29日 基礎看護学実習Ⅲ：2025年7月7日～7月17日	
講義室・場所	中通高等看護学院 図書室	

展開内容	<p>ビジョン：実習時、ベッドサイドに行ったらどこを見ればいいかわかっている学生になりたい</p> <p>ゴール：実習時、ベッドサイドで素早く的確に情報獲得できるようになる！</p> <p>1回目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. チームテーマをもとに R10 を作成する <p>2・3回目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジョン・ゴールの確認 2. 「考動知性」とは（講義） 3. R10 を活用し、そのシーンで獲得すべき情報、考動知性を考える（ワーク） 何を見て、何を考え、どのように行動するのか（ワーク） ゲーグルクラスルームにまとめる（ワーク） 4. プレゼンテーション 5. アクションシートの記入 6. リフレクション（アクションシート） <p>4回目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.成長報告
テキスト・参考図書	<p>資料 R 考動知性 アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する 医学書院 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院</p>
履修要件	
他講義との関連	<p>キャリア教育論 I ・各臨地実習</p>
受講生へのメッセージ	<p>臨地実習開始にあたり、看護計画立案、実習記録など大変だと思っている学生は多いと思います。このプロジェクトを通して、考動知性について学び、実習時にベッドサイドに行ったらどこを見ればいいかがわかり、的確に情報獲得をして考えて動けるようになれば、自信をもって実習に臨めると思います。それが看護計画や記録にも活かされるはずです。意識して観たものは記憶に残りやすいので、国家試験の状況設定をイメージすることにも役立つはずです！</p>
プロジェクト学習 eラーニング	<p>検索「未来教育オンライン講座」 http://www.mm-miraiyouiku-onlinecourse.com/</p>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	自ら学び続ける看護師になるためにー未来へキャリアストーリーを描こう！(1)ー マイルストーン「キャリアビジョン実現！」プロジェクト	
講師 ／ファンデーター・協力者ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 日野由樹子・渡部暢子	
単位・時間・受講対象	2025年11月中旬 2コマ(4時間) 中通高等看護学院 2年生	
学習概要 (社会的意義)	<p><概要> 成長へのモチベーションを高めるためにインパクトシートを共有する。シートで表現することにより、自己が叶えたい未来イメージを意識化し具体的に描くことでキャリアビジョンにもつなげることができる。</p> <p>キャリアビジョンを明確にし、課題を認識したうえで自己のキャリアストーリーを描けるように、ニーズとシーズについての講義から看護者に求められる能力(社会ニーズ)と自身が提供できる能力(シーズ)を明確に捉え、目指す看護師像に近づくためにキャリアプラットフォームを作成する。5月に作成したキャリアポートフォリオを活用し、セルフコーチングできるよう、リフレクション、リフレーミングと4つのキャリアシーンについて理解する。</p> <p>ありたい状態・目標とする姿(なりたい未来の自分)と現状とを対比させ、そのギャップを埋めるための方策を自身の意思で立て、マイキャリアストーリーの実現に向けて自身を動機づけていく。</p>	
キーワード	キャリアビジョン マイキャリアストーリー キャリアプラットフォーム ニーズとシーズ	
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 看護者に求められる資質に関する知識 <input type="checkbox"/> 目指す看護師になるために必要な学びや体験をイメージできる力	普遍知 <input type="checkbox"/> ビジョンを描く力 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲 <input type="checkbox"/> 自尊感情、自己肯定感 <input type="checkbox"/> ニーズとシーズ <input type="checkbox"/> 必要な情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 探究する力、行動力
学習の成果物	キャリアビジョンが描ける マイキャリアストーリーの実現	
評価方法	取り組み姿勢(自己評価)・プロジェクト学習の内容 (25点) 「アクションシート」(10点) 35点/100点	
実施計画／関連予定	キャリア教育論II 講義1回目～4回目 成人・老年看護学実習I・II 2025年9月22日～10月3日、10月14日～10月24日	
講義室・場所	中通高等看護学院 図書室	

展開内容	<p>目的（ビジョン）：ニーズとシーズが明確になる。</p> <p>目標（ゴール）： キャリアストーリーを描ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の流れの説明（俯瞰シート） 2. インパクトシート共有（プレゼンテーション） 3. ニーズとシーズ講義 4. ニーズとシーズ 共有 5. キャリアビジョンシート追加 6. キャリアプラットフォーム 記載 7. リフレクション（アクションシート）
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会
履修要件	
他講義との関連	キャリア教育論Ⅰ・各臨地実習
受講生へのメッセージ	<p>インパクトシートに記載することで、看護のやりがいや喜びを再発見しよう。</p> <hr/> <p>自己が叶えたい未来イメージを意識化し具体的に描くことでキャリアビジョンにもつなげよう。</p>
プロジェクト学習 eラーニング	http://www.mm-miraiyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

	<p>目標（ゴール）：</p> <p>この1年の成長（価値ある学び）を共有し、キャリアビジョンを描くことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の流れの説明（俯瞰シート） 2. 「成長エントリーシート」の交流（1年生合同） 3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 4. 長期的ループリックの記載 5. キャリアビジョンシートの記載および交流 6. リフレクション
テキスト・参考図書	<p>キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会</p> <p>ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院</p>
履修要件	
他講義との関連	キャリア教育論 I
受講生へのメッセージ	<p>臨地実習を経て学んだこの1年間の学びを交流することで自己の成長を確認しよう。最高学年になる自分をイメージして学習を重ね、キャリアビジョンを描き、自分の望む未来に向かって自分で成長していきましょう！ 未来は皆さんのものです！</p>
プロジェクト学習 eラーニング	<p>http://www.mm-miraikyoiiku-onlinecourse.com/</p>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名	授業担当者	所属	
自己の探求	堀 裕美	元 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的			
自己を内省し、自己肯定感を高め、看護者としての自己の在り方を理解する。			
授業の概要			
看護者として他者を支援するためには、しっかりと自己を確立しておくことが求められる。自己肯定感を支える6つの要素を理解し、ワークを通じて自己理解・他者理解を深めていく。自分を知り受容することは、ゆるぎない自分の軸を定め、ありがたい自分と不完全な自分の両面を受け入れ調和をとりながら、自己実現を可能にする。また、看護者としての心のケアとして、感情のコントロール、ありのままの自分を受け止める(マインドフルネス)、自分に思いやりをもつ(セルフ・コンパッション)についての技法も学ぶ。看護を学ぶ皆さんが、ありのままの自分の良さを認め、人の役に立てることへの喜びを感じられるように願い、この授業を設定した。自分らしさを尊重できることは、看護の対象のその人らしさや、その人らしい暮らしを支援することにも反映されると期待する。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	自己肯定感の6つの感、自分を知るワーク①	講義	
2	自己肯定感を高める	講義	
3	自分を知るワーク②	講義	
4	感情のコントロール、課題の分離	講義	
5	マインドフルネス	講義	
6	マインドフルネスと自己受容	講義	
7	セルフ・コンパッション	講義	
8	自分を癒す、リラクゼーション法、アロマセラピー	講義	
テキスト			
参考書・指定図書			
中島輝著 何があっても「大丈夫。」と思えるようになる自己肯定感の教科書 SB クリエイティブ 吉田昌生著 こころが軽くなるマインドフルネスの本 清流出版			
評価の方法			
授業への参加状況、授業中の課題			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅳ（Ⅰ） 歯・口腔疾患	授業担当者 東海林 克	所属 大曲中通歯科診療所	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間 (歯・口腔疾患 6 時間)	
授業の目的 歯・口腔疾患の発生原因、その進行過程、疾患の診断のプロセス、そして各病期における治療法の概要と、「口腔ケア」についてその要点に関して理解する。			
授業の概要 歯・口腔疾患は耳鼻咽喉科や眼科などほかの感覚器分野とは異なり、診療報酬体系も医科とは別となることから、大学医学部付属病院、歯科大学附属病院、等の特殊な環境下に所属しない限り看護経験をすることのない分野である。 世界の先進国の中で類を見ることの無い超高齢社会となった現在の日本、特に秋田では「口腔ケア」を必要とする要介護者がさらに増えてきている。また、近年ではがんを始めとした手術や化学療法、放射線治療の期間中における「周術期等口腔機能管理」が注目されている。 本講はむし歯や歯周病を中心とする口腔内に発生する疾患について総説して、「口腔ケア」をする際に要介護者やがん患者の口腔内の状況を正確に把握できる基礎知識を習得するとともに、日常看護業務に含まれる「口腔ケア」を適性に行うことができるようになることを期待して、上記3項目を主眼においた授業計画を設定した。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキストに併せて講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を配布するので、事前にチェックすること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	口腔解剖、う蝕、歯周病概論	講義	
2	診査診断、治療(歯口清掃、歯科麻酔)	講義	
3	治療、口腔ケア、周術期等口腔機能管理	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 歯・口腔 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 試験 (病態と診療Ⅳ 200 点満点中の 50 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅳ (2) 皮膚疾患	授業担当者 野口 奈津子 山川 岳洋 能登 舞 佐藤 貴彦	所属 秋田大学大学院医学系研究科 医学部 皮膚科学・形成外科学	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(皮膚疾患 8 時間)	
授業の目的 感覚器系疾患(皮膚疾患)の病態・検査・治療について理解する。 1. 皮膚の構造と機能を理解する。 2. 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解する。			
授業の概要 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解し、皮膚の異常に気づくことができる看護師になってほしい。 また、皮膚科学に基づいたスキンケアができるようになってほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	総論:皮膚の構造と機能、症状と病態生理	講義	野口
2	疾患の理解(1) 湿疹皮膚炎群～角化症(特にアトピー性皮膚炎と尋常性乾癬)	講義	山川
3	疾患の理解(2) 水疱症～物理・化学的皮膚障害(特に天疱瘡、類天疱瘡、熱傷、褥瘡)	講義	佐藤
4	疾患の理解(3) 感染症、母斑・母斑症、腫瘍	講義	能登
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 皮膚 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験および授業態度から総合的に評価する。(病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅳ (3) 眼疾患	授業担当者 羽瀧 由紀子	所属 中通総合病院 医局	
開講時期 :中期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(眼疾患 8 時間)	
授業の目的 眼疾患をもつ患者の特徴と看護の役割を学ぶ そのために必要な知識を身につける			
授業の概要 教科書に沿って眼科学一般を学び、看護について学ぶ			
受講上の注意・事前学習の内容 膨大な内容を短時間の授業で扱うため、できれば教科書の予習をしてほしい			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	総論、目の構造と機能	講義	
2	症状、検査、処置と治療と必要な看護	講義	
3	疾患の理解と看護①	講義	
4	疾患の理解と眼後②	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 眼 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 試験 (病態と診療Ⅳ 200 点満点中の 50 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 病態と診療Ⅳ (4) 耳鼻咽喉疾患	授業担当者 川岸 洋平	所属 秋田大学大学院医学系研究科 医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(耳鼻咽喉疾患 8 時間)	
授業の目的 感覚器系疾患(耳鼻咽喉疾患)の病態・検査・治療について理解する。			
授業の概要 耳鼻咽喉領域の看護を行っていくうえで、日々進歩する診断、検査、治療に対する最新の知識を身につけておくことは必須である。そのため、機能と構造をしっかりと理解し、耳・鼻・咽喉各領域の機能面、器質面を含めた身体問題を理解してほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	耳鼻咽喉の構造と機能および耳鼻咽喉科の検査と解釈 耳鼻咽喉科の検査と解釈	講義	
2	咽頭・喉頭の疾患、食道・気管の疾患と音声・言語障害	講義	
3	食道・気管の疾患と音声・言語障害	講義	
4	耳に現れる症状と病態生理	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 耳鼻咽喉 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験・レポート 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 公衆衛生学	授業担当者 鄭 松伊 山崎 貞一郎 岩倉 正浩 楊 謹鴻	所属 秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座 医学専攻社会環境医学系地域心身 医療学講座	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 公衆衛生の理念と概要を理解し、健康の保持・増進のために、地域社会の中でどのような責務を担ってゆく必要があるのか学び、医療従事者として何ができるのかを考える。			
授業の概要 1. 健康とは何かを説明できる。疾病予防から健康増進に至る理念について説明できる。 2. 諸外国の健康問題、各年代や性別ごとの日本人の健康問題について概説できる。 3. 健康の保持・増進のために必要な自然環境・社会資源を枚挙することができる。 4. 健康の保持・増進のための主な制度や法律、施策を挙げて、その意義を説明できる。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	公衆衛生をまなぶにあたって	講義	楊
2	公衆衛生のエッセンス	講義	楊
3	公衆衛生の活動対象	講義	楊
4	公衆衛生のしくみ	講義	鄭
5	集団の健康をとらえるための手法-疫学・保健統計①	講義	鄭
6	集団の健康をとらえるための手法-疫学・保健統計②	講義	岩倉
7	環境と健康	講義	山崎
8	感染症とその予防対策	講義	岩倉
9	国際保健、地域における公衆衛生の実践①公衆衛生看護	講義	鄭
10	地域における公衆衛生の実践②母子保健、成人保健	講義	山崎
11	地域における公衆衛生の実践③高齢者保健、精神保健	講義	岩倉
12	地域における公衆衛生の実践④歯科保健、障害者保健、難病保健	講義	山崎
13	学校と健康	講義	鄭
14	職場と健康	講義	岩倉
15	健康危機管理・災害保健	講義	山崎
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院			
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025、第5版 メディックメディア(必要に応じて)			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 社会福祉	授業担当者 伊藤 雅充 阿部 拓見 塩谷 行浩 本間 晃子 村越 伴子 相澤 ふみ 関谷 美紗子	所属 中通総合病院 医療相談室 中通リハビリテーション病院 医療福祉相談室	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 現代の生活問題を社会システムとの関連で把握し、社会福祉と医療・介護等の連携の重要性を理解する。			
授業の概要 社会福祉とは、現代社会における生活問題に対し、国民の生存権を保障するための施策である。医療問題を生活問題の重要な課題として把握し、医療を受ける権利を保障するために求められる視点を理解する。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書と配布資料を用いて授業を行う。重要な事項は適宜アンダーラインを引くなど、集中して授業参加されることを期待する。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	現代社会と社会福祉・社会保障	講義	塩谷
2	社会福祉・社会保障とは何か	講義	塩谷
3	社会福祉・社会保障の歴史	講義	伊藤
4	社会福祉の担い手と役割	講義	伊藤
5	福祉の実践、資源の活用	講義	伊藤
6	地域福祉	講義	阿部
7	子ども・家庭と福祉	講義	村越
8	障害児・者と福祉、難病対策	講義	塩谷
9	高齢者と福祉	講義	本間
10	生活保護	講義	関谷
11	年金制度	講義	阿部
12	医療保険制度	講義	相澤
13	介護保険制度	講義	本間
14	雇用保険制度、労災保険制度	講義	塩谷
15	生活と福祉	講義	阿部
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験(2～13の授業から各1問ずつ選択式問題を出题:60点、14～15の授業から正誤式問題を10問:40点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 関係法規	授業担当者 鈴木 淳子	所属 元 至誠会看護学校	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 看護に必要な法律について理解するとともに、医療人として理解しておきたい医療福祉に関する法律の基礎知識を身につける。			
授業の概要 看護師がその任務を果たすためには、専門的知識や技術を身につけるだけでなく、我が国の保健医療福祉に関する諸制度を理解し、看護はそこでどのような位置を占め、保健師・助産師・看護師はどのような役割を持っているかを認識する必要がある。看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するため、関係法規の理解は欠くことのできないものである。 この授業では、看護に携わる者にとって最も重要な法規である保健師助産師看護師法をはじめ、医事・薬事・公衆衛生、環境衛生などの衛生法規と、看護業務に関連が深い社会保障に関する法規、労働関係法規などについて解説していく。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習して臨むこと。必要時資料は印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	医療に関する法の概念	講義	
2	看護に関する法律	講義	
3	医療法	講義	
4	医療・福祉に関する資格	講義	
5・6	保健衛生法	講義	
7	感染症に関する法令	講義	
8	薬務法	講義	
9	社会保険法	講義	
10	福祉法	講義	
11	労働法	講義	
12	環境法	講義	
13	その他の法律	講義	
14・15	まとめ	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 看護関係法令 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床心理学	授業担当者 半田 温子	所属 元秋田大学 臨床心理相談室	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 臨床心理学の基礎理論および技法を基盤とした、対象理解と援助について考える。			
授業の概要 テキストを中心に、臨床心理学の基礎概念を学ぶ。その中で事例を概観し、対象理解と援助について、臨床心理学的観点から考える。			
受講上の注意・事前学習の内容 当科目は、1年次の「心理学」で学習した基礎心理学の知識および理解を前提として進めていく。そのため、必要に応じて各自復習しておくことが望ましい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	臨床心理学の扉を開くー臨床心理学とはー 心理援助の基礎を学ぶー発達・人格理論ー (1) 基礎理論について	講義	
2	心理援助の基礎を学ぶー発達・人格理論ー (2) 精神分析理論 分離- 個体化理論	講義	
3	心理援助の基礎を学ぶー発達・人格理論ー (3) 対象関係論	講義	
4	対象を理解するー心理アセスメントー (1) 情報の収集と整理 発達検査 知能検査	講義	
5	対象を理解するー心理アセスメントー (2) 人格検査 心理検査の実際	講義	
6	心理援助の実際にふれるー事例に学ぶ問題の理解とかかわりー	講義	
7	心理援助の方法を知るー心理療法ー (1) 心理療法の基本的態度 精神分析療法 遊戯療法	講義	
8	心理援助の方法を知るー心理療法ー (2) 芸術療法 自律訓練法 終章 「かかわる」ということ	講義	
	試験		
テキスト 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 「心とかかわる臨床心理ー基礎・実際・方法ー」 ナカニシヤ出版			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験、出席・参加状況により総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 リハビリテーション論	授業担当者 小貫 渉 米谷 和真 佐藤 孝憲 吉田 智恵美	所属 中通リハビリテーション病院 医局 作業療法部 理学療法部 言語療法部	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 社会復帰を目指す障害者に対する援助の方法を学ぶ。			
授業の概要 1. リハビリテーション医学について 2. 理学療法について 3. 作業療法について 4. 言語療法について			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	リハビリテーション医学 リハビリテーションとは(総論)	講義	小貫
2	障害の受容について	講義	小貫
3	リハビリテーションが必要な疾患について	講義	小貫
4	脳血管障害と高次機能障害①	講義	小貫
5	脳血管障害と高次機能障害②	講義	小貫
6	脳血管障害と高次機能障害③	講義	小貫
7	作業療法 生活行為と作業療 作業療法とは 生活行為とは	講義	米谷
8	ICFとリハビリテーション ICFとは リハビリテーションへの応用	講義	米谷
9	生活環境と作業療法 福祉用具・自助具 住宅改修	講義	米谷
10	理学療法 PTとは	講義	佐藤
11	事例別理学療法 運動療法について 呼吸理学療法 その他	講義	佐藤
12	装具療法・歩行補助具・歩行介助	演習	佐藤
13	言語療法 STとは 回復期リハビリテーションの失語症について	講義	吉田
14	回復期リハビリテーションの構音障害(dysarthria を中心に)	講義・実技	吉田
15	回復期リハビリテーションの摂食嚥下障害について	講義・実技	吉田
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護リフレクションⅡ	授業担当者 工藤 洋平 他 近江 薫 他	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 臨地実習の場面を通して、看護実践状況の中で生じた、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、客観的に振り返る思考のプロセスを学ぶ。			
授業の概要 看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、1 年次に学んだスキルを活用し、臨地実習場면을リフレクションする。実習終了後に自らの経験を一定の方法を用いてリフレクションすることで、それまで気づけなかった看護の意味や価値を見出し、次の看護に繋げていく方法を身につける。また、実習での体験をケースレポートとしてまとめ、自分の行ったケアを論理的・客観的に振り返る力を身につけると共に、看護に対する自分の考えを述べられるようになって欲しい。			
受講上の注意・事前学習の内容 臨地実習場面のリフレクションでは、B5 判のノートを使用します。各自準備してください。 より良い看護を提供するために、積極的に指導を受け、リフレクションを充実させましょう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護リフレクションⅡとは	講義	工藤
2	臨床判断とコンセプト	講義	工藤
3	基礎看護学実習Ⅲの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
4	基礎看護学実習Ⅲの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
5	成人・老年看護学実習Ⅰの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
6	成人・老年看護学実習Ⅰの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
7	成人・老年看護学実習Ⅱの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
8	成人・老年看護学実習Ⅱの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
9	ケースレポートガイダンス	講義	近江
10	ケースレポート作成	個別指導	全教員
11	ケースレポート作成	個別指導	全教員
12	ケースレポート作成	個別指導	全教員
13	ケースレポート発表会準備	個人ワーク	近江
14	ケースレポート発表会	学習交流	全教員
15	ケースレポート発表会	学習交流	全教員
テキスト 田村由美/池西悦子 著 看護の教育・実践に活かすリフレクションー豊かな看護を拓く鍵ー 南江堂 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 各実習場面でのワークシート提出及び評価表に基づいた評価(50 点) ケースレポートルーブリック評価表で評価(50 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域・在宅看護概論	授業担当者 堀井 喜世子 高橋 令子	所属 中通高等看護学院 中通総合病院	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 地域・在宅で療養する人々とその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を養う。			
授業の概要 地域・在宅看護の対象は地域で生活しているすべての人々とその家族である。ここでは、既習の地域で生活を営む人々についての学びをふまえて、年齢別、疾患別、症状別という枠組みを超えて、生活の場で療養している在宅看護の対象者の特性を知り、在宅における看護師の基本姿勢、倫理、安全管理等について学習する。在宅看護は保健医療の仕組みや制度等が深く関わっているため、これまでに学んでいる講義等と結びつけながら理解してほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 主に資料に沿って授業を行う。授業後、テキストの該当箇所を読み解くことで、学びを定着してほしい。また、既習の地域の理解、在宅ケアシステムの内容が随所に出てくる。事前学習として授業内容を確認しておくことをすすめる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	地域・在宅看護とは	講義	堀井
2	地域・在宅看護の対象	講義	堀井
3	家族について	講義	堀井
4・5	地域・在宅看護に関わる制度について	講義	堀井
6・7	地域・在宅看護に関わる制度の活用	グループワーク 発表・講義	堀井
8	療養の場の移行に伴う看護	講義	高橋
9	多職種・多機関連携	講義	高橋
10・11	訪問看護とは	講義	堀井
12	訪問看護パンフレット作成	個人ワーク	堀井
13	訪問看護パンフレット発表	発表	堀井
14	地域・在宅看護における安全管理	講義	堀井
15	地域・在宅看護における災害対策	講義	堀井
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践			
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験 70%(高橋 15% 堀井 55%)、課題レポート・参加態度 30%			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 在宅看護技術	授業担当者 鈴木 淳子 西方 展子	所属 元 至誠会看護学校 通総合病院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 基礎看護技術を応用し、在宅で療養する対象に必要とされる基本的な看護援助について学ぶ			
授業の概要 在宅看護は、地域で療養する人々が「望む生活」を維持するために、社会資源を用いながら生活の場において看護を提供し、「自立支援」していくことである。療養者と家族が「健康でその人らしい生活」が継続できるように、ここではこれまで学んできた看護の知識と技術を応用させた日常生活支援技術、臨床看護技術を応用した在宅医療技術を学び、在宅看護の実践に結び付ける。			
受講上の注意・事前学習の内容 在宅看護技術は基礎看護技術の応用編である。既習の該当する基礎看護技術の振り返りをして授業に臨んでほしい。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	在宅における日常生活支援技術(食事)	講義	堀井
2	在宅における日常生活支援技術(排泄)	講義	堀井
3	在宅における日常生活支援技術(清潔・衣生活)	講義	堀井
4	在宅における日常生活支援技術(活動と休息)	講義	堀井
5	フィジカルアセスメント	演習	堀井
6・7	在宅での栄養管理 一経管栄養法と在宅中心静脈栄養法一	講義	堀井
8	膀胱留置カテーテル	講義	堀井
9	ストーマケア	講義	西方
10	褥瘡の予防とケア	講義	西方
11	在宅酸素療法	講義	堀井
12	在宅人工呼吸療法	講義	堀井
13・14 15	在宅における日常生活支援の実際 片麻痺体験、福祉用具体験、入浴介助	演習	堀井
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践			
参考書・指定図書 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研			
評価の方法 筆記試験 60%(西方 15% 堀井 45%)、課題レポート・参加態度 40%			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 対象に応じた在宅看護	授業担当者 堀井 喜世子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 在宅で健康障害を抱えた人々とその家族への看護展開の方法を学ぶ。			
授業の概要 療養者とその家族が望む「その人らしい生活」を実現するために、療養者とその家族の全体像を捉え、必要な看護を導き出す手法を学び、在宅看護における特徴的な対象に応じた看護展開について学習するとともに、演習を通して在宅看護の実際を考える機会としたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 事例をもとに、看護過程や臨床判断のワークが授業の中心となる。個人で主体的に事前課題に取り組み、グループワークでは活発に意見交換できるように準備してほしい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	在宅看護過程とは(療養者の理解と在宅看護のポイント) ・訪問看護の事例から学ぶ ・療養者の全体像を理解するーICF 思考ー	講義	
2	療養者の全体像を理解する(グループワーク)	講義・演習	
3	ICF 思考による情報整理・分析シート(発表)	講義	
4・5	関連図作成	演習	
6	脳卒中の療養者への在宅看護	講義	
7	認知症療養者への在宅看護	講義	
8	訪問看護師の臨床判断・臨床推論	講義	
9	がん終末期療養者への在宅看護	講義	
10	慢性疾患療養者への在宅看護(糖尿病)	講義	
11	難病療養者への在宅看護	講義	
12・13	訪問看護ロールプレイ準備(グループワーク)	演習	
14・15	訪問看護ロールプレイ(発表)	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践			
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験 50%、課題レポート・グループワーク参加態度 50%			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床推論	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 臨床での看護実践につながるアセスメント能力を高めることを目指して、臨床看護師が行う臨床判断プロセスとアセスメントに役立つ視点を学ぶ。			
授業の概要 臨床推論とは、看護師などの臨床家が判断するための思考過程をいう。模擬患者でシミュレーションを行い、臨床判断のプロセスに当てはめながら、適切な患者の健康状態を判断(看護診断)し、患者へ最適な看護を考える思考過程を学ぶ。 看護リフレクションⅡでコンセプトの理解を深め、臨床推論を学ぶことで基礎看護学実習Ⅲにつながるようにしたい。 グループワークでは、看護の臨床判断の視点についても交流し、シミュレーションが行えるように考えていく。			
受講上の注意・事前学習の内容 基礎看護学実習Ⅲの直前に短期間で行う授業です。事前準備・事前学習をして臨んでください。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	臨床推論とは/臨床判断のプロセス	講義・小テスト	
2～9	コンセプト①に関するシミュレーション演習	演習・グループワーク	
10～15	コンセプト②に関するシミュレーション演習	演習・グループワーク	
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 臨床看護総論 医学書院			
参考書・指定図書 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版 メディックメディア			
評価の方法 臨床推論の講義内で小テスト(20点)、シミュレーション学習の課題(80点)で評価			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護援助論 I	授業担当者 田安 和	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 高齢者の心身の加齢変化により日常生活に与える影響を理解し、生活行動を支援する方法を学ぶ。また高齢者の健康障害の特徴と看護を学ぶ。			
授業の概要 高齢者は様々な健康障害、機能障害を引き起こしやすい。いかに健康を維持していくのか、生活機能の回復をいかにして図っていくのかが、健康上の課題となる。そこで、高齢者の生活機能を整え、セルフケア能力を維持できるようなケアの方法を学ぶ。またその人らしさを尊重し健やかな老いを支えるケアを目指し、高齢者に合った看護援助をグループで検討し発表する演習を取り入れる。			
受講上の注意・事前学習の内容 高齢者への看護は他教科との重複が多く、内容との関連を考えながら学習をすすめていきましょう。高齢者の身体的特徴を踏まえ、アセスメントや実践方法を考えていきます。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	高齢者の食を支える看護①	講義	
2	高齢者の食を支える看護②	講義	
3	高齢者の排泄を支える看護	講義	
4	高齢者の清潔・衣生活を支える看護	講義	
5	高齢者の活動と休息を支える看護①	講義	
6	高齢者の活動と休息を支える看護②	講義	
7	高齢者の歩行・移動を支える看護①	講義	
8	高齢者の歩行・移動を支える看護②	講義	
9	高齢者の呼吸・循環を支える看護	講義	
10	高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護	講義	
11	発表会に向けての準備① グループワーク	演習	
12	発表会に向けての準備② グループワーク	演習	
13	事例をアセスメントし看護援助を考え発表する①	演習	
14	事例をアセスメントし看護援助を考え発表する②	演習	
15	解説:まとめ	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
参考書・指定図書 ブックライブラリー 老年看護技術 医学書院 写真でわかる高齢者ケア インターメディカ			
評価の方法 レポート(30%) 筆記試験(70%)で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護援助論Ⅱ	授業担当者 田安 和	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 高齢者の心身の加齢変化により起こりやすい疾患について理解し、受診時から入・退院までの経過に沿って必要となる看護支援の方法を学ぶ。			
授業の概要 高齢者は様々な健康障害、機能障害を引き起こしやすい。この単元では高齢者が健康に変調をきたし、医療機関への受診から入院そして退院に向けてどのように看護を展開するのかケアの方法、そして事例を通して看護展開の実際を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 高齢者への看護は他教科との重複が多く、内容との関連を考えながら学習をすすめていきましょう。高齢者看護の特徴、実践方法や課題を考えていきます。高齢者の持てる力は何かを見極め、よりよい生活を見据えた看護を考えていきましょう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	高齢者に起こりやすい疾患の看護①	講義	
2	高齢者に起こりやすい疾患の看護②	講義	
3	治療を受ける高齢者の看護①	講義	
4	治療を受ける高齢者の看護②	講義	
5	治療を受ける高齢者の看護③	講義	
6	リハビリテーションを受ける高齢者の看護①	講義	
7	リハビリテーションを受ける高齢者の看護②	講義	
8	リハビリテーションを受ける高齢者の看護③	講義	
9	事例による看護過程の展開 (グループワーク)①	演習	
10	事例による看護過程の展開 (グループワーク)②	演習	
11	事例による看護過程の展開 (グループワーク)③	演習	
12	事例による看護過程の展開 (グループワーク)④	演習	
13	事例による看護過程の展開 (グループワーク)⑤	演習	
14	事例をアセスメントし看護援助を考え発表①	演習	
15	事例をアセスメントし看護援助を考え発表②	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
参考書・指定図書 ブックライブラリー 老年看護過程 第4版 医学書院 ブックライブラリー 老年看護技術 第3版 医学書院			
評価の方法 課題レポート(30%)、演習レポート(20%)、筆記試験(50%)で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護援助論Ⅲ	授業担当者 小田嶋 陽子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:後期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 加齢に伴い感覚機能低下をきたした高齢者の特徴を理解し、症状に応じたケアの方法と生活支援のための看護を学ぶ。			
授業の概要 加齢により口腔、皮膚や眼・耳・鼻等の感覚機能低下をきたすことは、生活する上で支障となることが多い。また情報量が少ないことは危険の回避ができにくい。加齢による機能低下の状態を理解し、安全に、また安心して生活できるよう、ケアの方法を学ぶ。主要疾患については、その誘因・特徴を学び、症状に応じた看護について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 ラーニングポータルにアップされている資料を準備し臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	Introduction 口腔症状に対する看護、義歯のケア、味覚障害のある患者の看護	講義	
2	耳鼻咽喉領域の患者の特徴と看護、検査に伴う看護	講義	
3	耳鼻咽喉領域の症状と疾患に対する看護 (難聴・メニエール病・アレルギー・慢性副鼻腔炎)	講義	
4	皮膚の機能と症状の特徴	講義	
5	皮膚の疾患を持つ患者の看護 (アトピー性皮膚炎・熱傷・带状疱疹・疥癬) 高齢者のスキンケア	講義	
6	眼疾患患者の特徴と症状(眼痛)に対する看護	講義	
7	眼疾患患者の検査・治療を受ける患者の看護 (眼底、眼圧、白内障手術等)	講義	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾病論 医学書院 系統看護学講座 専門 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門 眼 医学書院 系統看護学講座 専門 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門 歯・口腔 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験:100 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 認知症看護	授業担当者 仲野谷 美貴子	所属 中通総合病院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 認知症・せん妄の病態および基礎知識を学び、対象に応じた看護ができる能力を養う			
授業の概要 2040 年には、認知症患者と軽度認知症の人を合わせると、3 人に 1 人が認知機能低下の症状を有するといわれている。急性期病院においても認知症症状を有する高齢者の入院の割合が高くなっている。認知症高齢者は入院後、せん妄の発症リスクが高く、行動・心理症状も悪化しやすい。また、転倒・転落などの医療事故を重視し身体拘束を実施することで、様々な弊害が生じ入院が長期化する傾向にある。 認知症高齢者が住み慣れた地域へ戻るためには、急性期医療を提供すると同時に、適切な認知症ケアを提供していくことが課題となる。そのため、認知症の病態やせん妄を理解するとともに、認知症高齢者を 1 人の生活者として捉える視点を持ち、個人の尊厳を保つ関わり方を学んでほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書などに目を通し、学習内容に関してイメージできていることが望ましい。そして、社会人基礎力の中にある「チームで働く力」を特に意識して受講に臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	認知症の疾患と特徴、治療について	講義	
2	認知症の看護とせん妄について	講義	
3	身体拘束の体験学習	演習	
4	認知症高齢者との関わり方	動画視聴	
5	認知症高齢者との関わり方	ロールプレイ	
6	認知症の予防、家族への支援とサポートシステム	講義	
7	認知症高齢者の意思決定支援	講義	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
参考書・指定図書 急性病院で治療を受ける認知症高齢者のケア 日本看護協会出版社 認知症ケアの倫理 ワールドプランニング			
評価の方法 筆記試験、授業態度およびロールプレイの取り組み状況と内容から総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護学概論	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 子どもを一人の権利を有する存在として捉え、多様化する地域社会の中で、子どもと家族が健やかに成長発達をしていくための支援について学ぶ。			
授業の概要 子どもの看護では「子どもを知る」ことがとても大事です。しかし、少子化や子どもの生活の変化から、日常的に子どもと接する機会は少なく、その特徴や日常生活を具体的にイメージするのは難しい現状にあります。この科目では「子ども」が成長発達していく存在であることを捉えます。また、子どもだけではなくその家族も大切な存在であり、看護の対象であることを学びます。さらに、現代社会の諸問題や家庭環境が子ども・家族に及ぼす影響を知り、その子らしく健やかに成長発達していくための権利や制度および支援を学びます。 「子ども各期の成長発達の特徴と支援」をテーマに個人およびグループでのワークに取組みます。プレゼンテーションを通し、各期の子どもを多角的にイメージできるようになることを目指します。この取組の成果が、続く小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで活用されることを期待します。			
受講上の注意・事前学習の内容 5・6・7・10・12・14・15 回目は、子ども各期の成長発達と支援をテーマにワークをする。※詳細は授業の中でガイダンスする。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	小児看護の目指すところ	講義	
2	子どもと家族(諸統計・行政施策など)	講義	
3	子どもの人権と看護	講義	
4	子どもの成長発達の原則 発育・発達の評価	講義	
5	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
6	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
7	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
8	子どもの栄養	講義	
9	子どもの栄養	講義	
10	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
11	予防接種 学校保健	講義	
12	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
13	子どもと家族を取り巻く諸問題(児童虐待・いじめ・不登校等)	講義	
14	子ども各期の成長発達と支援	グループワーク	
15	子ども各期の成長発達と支援	グループワーク	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院			
参考書・指定図書 随時、授業に関係があるものを紹介する。			
評価の方法 筆記試験 60% グループワーク(ルーブリックでの評価)40%			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児疾患の病態と診療	授業担当者 平山 雅士	所属 中通総合病院 医局	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 心身の成長・発達の過程や、その異常と種々の疾患を学び、小児の特性に配慮した各疾患の具体的な看護につなげる。			
授業の概要 小児は成長・発達の時期であり、病態や疾患が成人とは異なる場合が多い。 小児期に多い疾患を取り上げ、考える。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	成長発達:小児の特性としての成長発達について 小児救急:火傷、溺水、熱中症、誤嚥、誤飲などについて	講義	
2	出生前診断:遺伝、遺伝子病、胎児病などについて 新生児疾患:病的新生児、低出生体重児について	講義	
3	代謝・内分泌疾患:小児期にみられる内分泌疾患(クレチン病・成長ホルモン分泌不全)について	講義	
4	免 疫:免疫の現象と先天性免疫不全症などについて 感 染 症:小児期に多いウイルス性・細菌性感染症などについて	講義	
5	呼吸器疾患:急性上気道炎や肺炎を中心に 循環器疾患:先天性心疾患を中心に、川崎病、起立性調節障害などについて	講義	
6	血液疾患:血液の成り立ち、貧血など血液疾患を中心に 腫瘍疾患:小児に多い腫瘍性疾患、白血病などを中心に	講義	
7	消化器疾患:小児に多い消化器疾患(肥厚性幽門狭窄症・腸重積症など)を中心に 泌尿器疾患:腎・尿路の働きとその疾患について	講義	
8	神経疾患:先天性の神経疾患について 精神疾患:精神の発達とその障害について	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護援助論 I	授業担当者 近江 薫 佐々木正吾 他	所属 中通高等看護学院 県立医療療育センター	
開講時期 : 中期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間	
授業の目的 健康上の問題を持つ子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。			
授業の概要 健康上の問題は子どもの成長発達に大きな影響を与えます。小児看護学概論で学習した知識を基に、どのような影響を及ぼすのかを捉え、それらを最小限にするための関わりを学習します。 さらに、治療・処置は子どもにとっても健康回復のために必要なことです。しかし、大人では難く行われることであっても、子どもの場合はその子の成長発達に合わせた関わりが必要になります。子どもに行われる看護技術についていくつか取り上げ、基本技術の根拠と子どもの権利擁護や発達を踏まえた援助の在り方を学びます。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。 資料は必要時印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義	近江 薫
2	入院中の子どもと家族の看護	講義	近江 薫
3	外来における子どもと家族の看護	講義	佐々木直子
4	検査・処置を受ける子どもと家族の看護	講義	近江 薫
5	在宅療養中の子どもと家族の看護	講義	佐藤夏美
6	慢性期にある子どもと家族の看護	講義	近江 薫
7	急性期にある子どもと家族の看護 子どもの救急救命処置	講義	近江 薫
8	周手術期にある子どもと家族の看護	講義	近江 薫
9	終末期にある子どもと家族の看護	講義	佐々木正吾
10	子どもとのコミュニケーション	講義	近江 薫
11・12 13・14 15	小児看護技術 グループワーク ロールプレイ (環境調整・日常生活援助技術・症状生体機能の管理技術等)	グループワーク ロールプレイ	近江 薫
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
参考書・指定図書 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 山元恵子 写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ			
評価の方法 筆記試験 70 点 グループワーク・課題の提出物 30 点 合計 100 点で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護援助論Ⅱ	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 健康障害のある子どもと家族が生活・療養するための看護実践に必要な知識・技術を身につける。			
授業の概要 子どもは身体機能が発達の途上にあることから大人よりも症状が出やすく、さらに重症化しやすいという特徴があります。子どもの解剖生理学的特徴を確認しながら、症状別看護を学習します。 子どもに看護を提供するうえで、その子の成長発達を捉えることは重要なポイントです。また、子どもの状態を一喜一憂しながら見守る家族の存在も忘れることはできません。ケアモデルを通して成長発達を踏まえたアセスメント力を養うとともに、家族も視野に入れた問題解決能力を習得します。 また、子どもは認知理解力・対処能力の未熟さや生活体験の少なさから、療養生活での体験が心の傷として残る可能性もあります。子どもの持つ力を引き出す関わり関わり方を、プレハレーションの演習を通し考えます。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	子どもによくみられる症状と看護① 発熱 けいれん	講義	
2	子どもによくみられる症状と看護② 呼吸困難 酸素療法	講義	
3	子どもによくみられる症状と看護③ 下痢 嘔吐 脱水 輸液療法	講義	
4	子どもによくみられる症状と看護④ 発疹 出血	講義	
5	子どもによくみられる症状と看護⑤ アレルギー症状	講義	
6	子どもによくみられる症状と看護⑥ 痛み	講義	
7	ケアモデルによる看護過程	演習	
8	ケアモデルによる看護過程	演習	
9	ケアモデルによる看護過程	演習	
10	ケアモデルによる看護過程	演習	
11	ケアモデルによる看護過程	演習	
12	ケアモデルによる看護過程 交流会	演習	
13	検査や治療・処置を受ける子どもへのプレハレーション	講義・演習	
14	検査や治療・処置を受ける子どもへのプレハレーション	演習	
15	検査や治療・処置を受ける子どもへのプレハレーション 交流会	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故予防からみた小児看護技術 第3版 医学書院			
参考書・指定図書 筒井真優美 小児看護学 ～子どもと家族の示す行動への判断とケア～ 日総研 ブックライブラリー 発達段階からみた 小児看護過程＋病態関連図 第4版 医学書院			
評価の方法 筆記試験 50%・看護過程演習 30%・プレハレーション演習 20% 合計 100 点で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 母性看護学概論	授業担当者 大塚 紀子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
授業の目的 母性に関する概念及び母性看護の対象である母親と子ども及びその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を学ぶ。			
授業の概要 母性看護の対象や母性とは何かを理解し、その特徴を学び、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護の重要性を感じてほしい。また、母性にかかわる統計と政策、母性を取り巻く社会の現状および課題について学ぶ。授業に際しては、一部 TBL（チーム基盤型学習）とプロジェクト学習を取り入れ進行する。			
受講上の注意・事前学習の内容 TBL に関しては、事前課題を行って臨み、チームで討議しながら、主体的に学ぶこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	母性看護の基盤となる概念	講義	
2	セクシャリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ	TBL	
3	母性看護のあり方と倫理	講義・ワーク	
4	母性看護にかかわる指標と推移	TBL	
5	プロジェクト学習ガイダンス・R10で対象を描こう！	プロジェクト学習	
6	母性看護にかかわる法律と施策	TBL	
7	女性のライフサイクルにおける形態機能の変化	TBL	
8	ライフサイクルにおける思春期の健康と看護・性感染症・中絶	TBL	
9	ライフサイクルにおける更年期の健康と看護	TBL	
10	家族計画と受胎調節(TBL をベースとしたグループワーク)	グループワーク	
11	ドメスティック・バイオレンスに関する法律と支援	講義	
12	児童虐待防止に関する法律と支援	講義	
13	少子化バイバイ、さあ、秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクト	プロジェクト学習	
14	プロジェクト学習発表会	プロジェクト学習	
15	プロジェクト学習発表会	プロジェクト学習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院			
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験 40%, TBL50%(チーム得点+ピア評価 30% 個人得点 20%) プロジェクト学習 10 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

	<p><社会的意義></p> <ul style="list-style-type: none"> * 地域から若い世代が流出することを低減できる * 働きながら子育てする人たちに貢献できる * 少子化の要因の一つとも言える「地域の子育て環境の現状」を明確にすることで今後の環境改善や行政の方向性などに貢献できる 	
キーワード	子育て、支援、地域、プロジェクト学習	
身につく力	<p>専門知</p> <p><input type="checkbox"/>国の少子化対策の知識（現状と方向性）</p> <p><input type="checkbox"/>地域（市町村）の少子化対策</p> <p><input type="checkbox"/>少子化対策に関連する法律の知識</p> <p><input type="checkbox"/>子育て世帯の公的支援のニーズ</p> <p><input type="checkbox"/>子育ての世帯の現状把握</p> <p><input type="checkbox"/>子育て環境の変化</p>	<p>普遍知</p> <p><input type="checkbox"/>課題発見力</p> <p><input type="checkbox"/>チームで1つの事を成し遂げる体験</p> <p><input type="checkbox"/>目標に向かう力</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション力</p> <p><input type="checkbox"/>目の前の現実から正確な情報を獲得する力</p> <p><input type="checkbox"/>データを読み解く力</p>
学習アウトカム	自分の住む地域の少子化対策の社会資源を知り、必要とされる支援を考えられる	
評価方法	ポートフォリオ評価（成果や成長のプロセス） 評価材料：元ポートフォリオ、凝縮ポートフォリオ、プレゼンテーション、他者評価	
実施月日 4月下旬～ 6月上旬	<p>4～5月</p> <p><input type="checkbox"/>準備 <input type="checkbox"/>ビジョンゴール <input type="checkbox"/>計画 <input type="checkbox"/>情報・解決策 <input type="checkbox"/>制作 <input type="checkbox"/>プレゼン <input type="checkbox"/>再構築 <input type="checkbox"/>成長確認</p>	<p>5～6月</p> <p>7～9月</p>
講義室・場所	教室2または図書室	
展開内容	<p>講義</p> <p>4月 シラバスによりプロジェクト内容の説明</p> <p>2回目（5） 事例紹介、ゴールシート・ポートフォリオ作成 時間外 コーチング</p> <p>3回目（13） チームで凝縮ポートフォリオ作成（eポートフォリオ） 時間外 プレゼン準備</p> <p>4回目（14・15） 凝縮ポートフォリオを用いて発表会</p>	
プロジェクト学習 eラーニング	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/	
テキスト・参考図書	ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版	
履修要件	プロジェクト学習参加	
他講義との関連	家族論 社会学 公衆衛生学 社会福祉 関係法規 小児看護学概論 地域・在宅看護論 周産期の診療 妊産婦の援助論 母と子の援助論	
受講生へのメッセージ	自分たちも将来地域で、子どもを産み育てる可能性があります。現在の社会の少子化対策とニード、自分たちが同様の立場になったら将来必要と考える対策について、想像を膨らませながら考えてほしい。自分の住む地域秋田の将来を担う皆さんが、安心して子どもを産み育てる環境や支援を考えてほしい。	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名 周産期の診療	授業担当者 小西 祥朝	所属 中通総合病院 医局	
開講時期: 中期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
授業の目的 妊娠・分娩・産褥の生理学的な経過と診断・検査と、起こりやすい異常について理解し、健康を回復させるための方法を学ぶ。さらに新生児の異常について学ぶ。			
授業の概要 女性は産む性・育む性としての生殖機能を持っている。単に疾患別に捉えるのではなく、産む性である女性の健康と権利の側面からも考えられるようにしたい。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
	正常妊娠・正常分娩		
1	妊娠の成立と経過	講義	
2	正常分娩と産褥期	講義	
3	正常新生児	講義	
	異常妊娠・異常分娩		
4	ハイリスク妊娠、合併症妊娠	講義	
5	妊娠期の感染症	講義	
6	妊娠期の異常	講義	
7	分娩の異常、産科手術	講義	
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 妊産婦の援助論	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1単位	時間数:30 時間	
授業の目的 妊娠・分娩期の身体的・心理・社会的変化、胎児の成長について理解する。また、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。			
授業の概要 周産期にある女性の身体的・精神的・社会的側面を理解すると共に、各期が正常に経過するために必要な援助、よりよい出産体験への援助の重要性、妊娠各期の対象のセルフケア能力を高めるための援助方法について学習する。また、ハイリスク状態にある人々を理解し、その看護について学習する。 授業形態としては、一部に協同学習(TBL)を取り入れ授業を進行する。技術演習を通して、妊産婦の看護を実践するために必要な技術の実際を学ぶことで、根拠に基づいた援助技術を身につける。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書等を予め確認し、授業内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習し授業に臨むこと。必要時資料は印刷し、準備すること。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	リプロダクティブヘルスケア	講義	
2	妊娠期の身体的特性	講義	
3	妊娠と胎児のアセスメント、出産を控えた妊婦と家族の心理と看護	講義	
4	妊婦健康診査時の看護技術	TBL	
5	妊娠と不快症状、妊婦の日常生活とセルフケア	TBL	
6	親になるための準備教育	講義	
7	ハイリスク状態にある妊婦、胎児の看護	講義	
8	分娩の経過と胎児の健康状態 ～産婦と胎児のアセスメント～	TBL	
9・10	分娩の経過と看護 ～産婦のニーズ、産婦と家族の心理～	講義	
11・12	ハイリスク状態にある産婦および胎児の看護	講義	
13	ペリネイタルロスを経験した産婦や家族の看護(レポート)	講義	
14・15	妊婦体験と妊婦健康診査の実際、産痛緩和、胎盤計測 (レポート)	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院			
参考書・指定図書 病気がみえる vol.10 産科 第4版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験、TBL、課題レポートで総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 母と子の援助論	授業担当者 齊藤 豊子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
授業の目的 褥婦・新生児の特徴を理解し、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。			
授業の概要 シミュレーション課題に取り組み、褥婦の退行性・進行性変化、精神・社会的側面の理解と必要な看護およびセルフケアについて学習する。また、新生児が胎外生活へ適応していく過程を理解し、生理的変化や適応に向けた援助について学習する。さらに、異常をもつ褥婦・新生児の理解およびその看護について学習する。協同学習を取り入れ授業を進行するため、主体的に参加してほしい。 母性看護を実践するために必要な技術(看護過程の展開方法、保健指導技術、沐浴、新生児の諸計測など)の演習によって、根拠に基づいた援助技術を身につける。			
受講上の注意・事前学習の内容 学習する内容を教科書等で事前に確認し、イメージできていることが望ましい。提示された事前課題は印刷して取り組み、授業に臨むこと。教授された技術は資料等で基本動作を確認し演習に臨むこと。必要時資料は印刷して事前に準備すること。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	産褥経過と看護	講義	
2	産褥期の日常生活と看護	講義	
3	産褥期の看護技術	講義	
4	ハイリスク状態にある褥婦の看護(帝王切開術後を含む)	講義	
5	出生直後の看護	講義	
6	早期新生児期にある新生児の看護	講義	
7	ハイリスク状態にある新生児の看護	講義	
8・9	沐浴、新生児身体計測、新生児バイタルサイン測定、育児体験	演習	
10・11 12	紙面事例による看護過程	演習	
13	看護過程交流会	演習	
14・15	褥婦に対する保健指導/ロールプレイ	演習	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ブックライブラリー ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院			
参考書・指定図書 病気が見える vol.10 産科 第4版 メディックメディア			
評価の方法 筆記試験及び課題の提出とルーブリック評価表(看護過程・保健指導)に基づき評価する (100点満点中、筆記試験およびレポート課題 60点、看護過程 30点、保健指導 10点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神看護学概論	授業担当者 伊藤 智幸 渡部 暢子	所属 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 中通高等看護学院	
開講時期 :前期	単位数 :1単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 精神の発達と健康における諸問題を理解し、精神看護の意義と役割を学ぶ。			
授業の概要 精神の健康は環境の影響を受けやすい。この授業では、すべての人々の精神の発達と環境に対する精神の反応を学ぶ。また、精神障害者を取り巻く社会の変化と制度を知ることで、精神看護の意義と役割を学習する。			
受講上の注意・事前学習の内容 進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	なぜ精神看護学を学ぶのか(導入)	講義・ワーク	伊藤
2	精神保健の考え方・精神の健康とは	講義	伊藤
3	精神保健の考え方・精神障害という考え方	講義	伊藤
4	心のはたらきと人格の形成・心のはたらき	講義	伊藤
5	心のはたらきと人格の形成・人格とは	講義	伊藤
6	関係の中の人間・システムとしての人間関係	講義	渡部
7	人間と集団	講義	渡部
8	テスト①*7 回目までの範囲 各発達段階であらわれやすい精神障害、発達課題	テスト 講義	渡部
9	精神医療の歴史と看護	講義	伊藤
10	精神障害と法制度	講義	伊藤
11	おもな精神保健医療福祉対策とその動向	講義	伊藤
12	地域におけるケアと支援	講義	伊藤
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	講義	伊藤
14	感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義	伊藤
15	回復支援・リハビリ	講義	渡部
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 授業内で1回と終了後に1回、計2回の筆記試験を行い、その合計点を100点満点とする。 提出物の遅滞・未提出は減点とする。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神疾患の病態と診療	授業担当者 沓澤 理 菅原 美紀	所属 中通総合病院 医局 中通総合病院 心理療法室	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 精神疾患について理解し、看護援助のあり方を理解する。			
授業の概要 1. 精神疾患の診断と治療方法について理解し、看護援助を展開できる能力を養う。 2. 精神症状のある患者の状態を評価し、看護援助を計画的に施行する能力を養う。			
受講上の注意・事前学習の内容 あらかじめ学習する内容についてイメージしておくことでより理解が深まるように、教科書等に目を通しておきましょう。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	精神症状の考え方 精神症状(1):思考の障害、自我意識の障害	講義	沓澤
2	精神症状(2):感情の障害、意欲・行動の障害、知覚の障害	講義	沓澤
3	精神症状(3):意識の障害、知能の障害、記憶の障害、精神状態像 神経症状(巣症状)	講義	沓澤
4	神経学的補助検査法 精神疾患の治療(1):薬物療法①	講義	沓澤
5	精神疾患の治療(2):薬物療法② 電気けいれん療法	講義	沓澤
6	精神疾患の治療(3):精神療法、行動療法、集団精神療法、家族療法 社会療法	講義	沓澤
7	心理検査	講義	菅原
8	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	講義	菅原
9	パーソナリティ障害、心身症、知的能力障害/知的発達症	講義	菅原
10	統合失調症	講義	沓澤
11	気分障害(双極性および関連症群、抑うつ症群)	講義	沓澤
12	摂食障害、睡眠障害、てんかん	講義	沓澤
13	器質性精神障害(認知症、症状精神病)	講義	沓澤
14	精神作用物質使用による精神および行動の障害	講義	沓澤
15	発達障害	講義	沓澤
	試験	講義	沓澤
テキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神看護援助論 I	授業担当者 藤原 美加子 高階 康子	所属 医療法人回生会秋田回生会病院 医療法人回生会秋田回生会病院	
開講時期 :前期～後期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 精神障がい者および精神疾患を有する者を対象にした看護援助について理解する。また看護の対象者を全人的に理解し、根拠に基づいた知識と技術で看護実践できる。			
授業の概要 精神障がい者および精神疾患を有する物を対象にした看護援助について学修する。精神の健康障害をもつ対象とその家族を理解し、精神科看護について有用な理論や概念を活用しながら、精神疾患を有することから生じる生活上の困難や自立支援のための看護援助について学修する。また、精神障がい者を取り巻く環境や処遇を理解し、自立支援のための看護援助について学修する。			
受講上の注意・事前学習の内容 教科書をあらかじめ見て授業内容をイメージする事が望ましい。授業は講義にて進行する。自己の疑問や意見を積極的に表出すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	ケアの人間関係①	講義	藤原
2	ケアの人間関係②	講義	藤原
3	回復を支援する	講義	藤原
4	地域におけるケアと支援①	講義	藤原
5	地域におけるケアと支援②	講義	藤原
6	入院治療の意味①	講義	藤原
7	入院治療の意味②	講義	藤原
8	身体をケアする①	講義	藤原
9	身体をケアする②	講義	藤原
10	安全をまもる①	講義	高階
11	安全をまもる②	講義	高階
12	医療の場におけるメンタルヘルスと看護①	講義	高階
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護②	講義	高階
14	災害時のメンタルヘルスと看護①	講義	高階
15	災害時のメンタルヘルスと看護②	講義	高階
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 精神看護学2 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神看護援助論Ⅱ	授業担当者 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 精神看護実践の基本となるコミュニケーション技法について考察し、精神科における看護アセスメントの仕方やレクリエーションの意義について学ぶ。			
授業の概要 これまで学んできた精神看護学を基盤に、看護実践について学ぶ場としたい。そこで、精神看護学実習で活用することを前提に、看護アセスメントの仕方、プロセスレコード記載の演習を行う。また、治療的レクリエーションの意義を学び、そこで果たすべき看護の役割を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 精神看護学実習を前提とした演習やワークが中心の内容となる。より主体的に課題に取り組んでほしい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	プロセスレコード意義	講義	
2	ロールプレイからプロセスレコードを記載	演習	
3	プロセスレコードを用いてグループでカンファレンス	グループワーク	
4	精神科における看護アセスメントについて	講義	
5	事例ペーパーシミュレーション	個人ワーク	
6	患者紹介プレゼンテーション①	グループワーク	
7	精神科におけるリハビリテーション ・レクリエーションの意義	講義	
8	患者紹介プレゼンテーション②	グループワーク	
テキスト 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 医学書院			
参考書・指定図書 系統看護学講座 専門 精神看護の基礎 医学書院			
評価の方法 演習の提出物、授業態度・出席状況などを統合して評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護研究方法論	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 看護における研究の意義を理解し、研究に取り組むための基礎知識を身につける。			
授業の概要 研究のプロセスに沿い、何をどのように計画することで研究可能となるのか、論文をどのようにしてまとめるかを学ぶ。特に、研究や学習を進める上で欠かすことのできない文献検索の方法や研究計画書の作成、統計的なデータ分析の方法を、ワークを通して学ぶ。文献クリティークの方法と実際についても学び、看護リフレクションⅡで取り組むケースレポート作成に活かしていくことになる。授業全般を通して、「看護学では何のために研究するのか」を考えながら学習してほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 聞きなれない研究用語がたくさん出てくる。単元終了時に振り返りシートを配布するので、しっかり復習をして欲しい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護研究とは何か 研究の概観 看護研究のはじめ方—リサーチクエスチョンをたてる	講義・個人ワーク	
2	文献レビューとその方法	講義	
3	文献検索の実際(1)	演習	
4	文献検索の実際(2)	演習・個人ワーク	
5	研究における倫理的配慮	講義	
6	研究デザイン(1)	講義	
7	研究デザイン(2)	講義	
8	データの収集	講義	
9	データ分析	講義	
10	研究計画書	講義・個人ワーク	
11	論文の作成、研究の発表	講義	
12	ケーススタディ・事例研究	講義	
13	文献クリティークの方法	講義	
14	文献クリティークの実際(1)	講義・Gワーク	
15	文献クリティークの実際(2)	学習交流・講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 佐藤淑子・和田佳代子編著 JJN SPECIAL 看護師のための Web 検索・文献検索入門 医学書院			
参考書・指定図書 富田美加・松本直子著 看護にいかす文献検索入門 学び続けるための情報探索スキル 中央法規			
評価の方法 筆記試験(80点) ワークレポート(20点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 基礎看護学実習Ⅱ	授業担当者 渡部 絵美	所属 中通高等看護学院
開講時期:前期	単位数:2 単位	時間数:80 時間
授業の目的 対象に応じた看護過程を展開する基本的能力を身につける。		
授業の概要 本実習では、対象を身体的・成因的・社会的側面から捉え、看護計画の立案および実践・評価の看護過程の方法を学ぶ。入院療養中の患者1名を受け持ち、対象との関係を築きながら、発達段階・生活習慣・背景などの情報をカルテやコミュニケーションを通して収集する。得た情報は看護過程記録用紙を用いて分類し、解剖生理、病理などの知識を活用し、科学的根拠に基づき解釈・分析(アセスメント)する。アセスメント結果を基に看護上の問題を明らかにし、問題の優先順位を判断、看護目標の設定や個別性を考慮した具体策の立案、実践・評価すると共に、立案した看護計画に沿って実践・評価する。看護実践を通して観察した患者の反応からアセスメントや計画について追加・修正を行う。既習の知識や技術を生かしながら、対象の個別性を捉えた看護過程の展開を目指す。さらに、見学や実践した看護活動を通し、自らの看護に対する考えを深めて欲しい。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習要綱およびガイダンス資料を確認し、実習目的や内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された事前学習課題や実習ガイダンス資料に基づき、自己学習・技術練習をし、Learning Bowl に挙げた実習要綱やガイダンス用紙、実習記録用紙等は各自印刷して事前に準備すること。 看護技術は習得するのが目的ではない。対象にとってより良い援助とは何かを考え、患者の反応を確認しながら、安全・安楽な援助が提供できるよう、技術練習に取り組んで実習に臨むこと。		
授業計画 1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。 2. 患者1名受け持ち看護過程の展開をする。 3. それぞれの看護計画及びサマリーをケースカンファレンスで検討する。 4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。 5. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理し、翌日提出する。 6. 実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ブックライブラリー フィジカルアセスメントの根拠がわかる！機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 医学書院		
参考書・指定図書 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
評価の方法 実習評価表に基づいて評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 基礎看護学実習Ⅲ	授業担当者 小田嶋 陽子	所属 中通高等看護学院
開講時期:前期	単位数:2 単位	時間数:80 時間
授業の目的 対象の病態生理を理解した上で看護実践し、気づき・解釈・反応・省察のプロセスを通して臨床判断能力の基礎を養う。		
授業の概要 本実習では、その場その場の患者の状態を判断し実践できる能力を養うため、気づき・解釈・反応・省察のプロセスを通して臨床判断の基礎を学ぶ実習である。「看護師のように考える」ことをめざし、対象への「今」一番必要な看護を実現するための思考を学ぶ。 患者一人を受け持ち、情報獲得しながら関連図を作成し、全体像を把握する。患者目標(ゴール)を決定、看護の方向性を明確化し、対象に起こりうる問題を理解した上で、行動予定を立て看護実践する。その際の気づき・解釈・反応・省察をする。臨床指導者・教員との実践から「何に気づき、どう解釈し、どのように行動しているか」、看護師の思考過程が学べるようにしていく。 実習ポートフォリオを作成し、自ら考えて学んだ内容を時系列で入れていくことで、学習や自分目標(ゴール)への成長プロセスを可視化し、成長報告により価値ある成長と願望を確認する。		
受講上の注意・事前学習の内容 注意点・事前学習の内容は、実習要綱・実習ガイダンス参照。		
授業計画 1.日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。 2.自分目標(ゴール)、事前学習を入れた実習ポートフォリオを作成する。 3.患者情報を記録用紙に整理し、患者目標(ゴール)、学習内容を実習ポートフォリオに入れる。 4.患者の全体像を把握し、看護の方向性、起こりうる問題から行動予定を立てる。 5.看護実践し、気づき・解釈・反応・省察したことを記録用紙4にまとめる。 6.記録用紙4を用いて臨床判断の学びカンファレンスを行い、グループで交流する。 7.実習で獲得したことや学び(ゴール)のプロセスをプレゼンテーションし、成長確認する。		
テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院		
参考書・指定図書 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
評価の方法 実習評価表に基づいて評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人・老年看護学実習Ⅰ	授業担当者 工藤 洋平	所属 中通高等看護学院
開講時期 :中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 急性期・周手術期にある対象に、患者の状況に即した看護を判断し実践する能力を養う。		
授業の概要 本実習は急性期・周手術期を対象に健康に急激な変化や身体に大きな侵襲を受けたことで、身体的苦痛や精神的にも不安を抱きやすい患者の全身状態がどのように変動するか予測して、患者の状況に即した看護を実践することを学ぶ。また、術後起りやすい合併症について、予防と早期発見のための観察を行い、退院を見据えた離床や退院支援の方法を学ぶ。		
受講上の注意・事前学習の内容 事前に急性期・周手術期看護・術後合併症について自己学習をして臨むこと。実習に向け技術ノートを見直し、必ず技術練習をしてから実習に臨むこと。その他、各担当教員からの課題提示あるため計画的に学習を進めること。		
授業計画 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 実習ポートフォリオを作成し実習を展開する。 3. 患者を1～2名受け持ち看護を実践する。 4. 日々の状況に即した観察・アセスメント・実践を行い、自らの臨床判断プロセスを振り返る。 5. 手術室事前見学を行い、機会があれば受け持ち患者の手術見学をする。		
テキスト 系統看護学講座 専門 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門 循環器 医学書院		
参考書・指定図書 山口瑞穂子、関口恵子監修 系統別看護過程の展開 第5版 学研 中島恵美子、伊藤有美監修 これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ナツメ社 病気がみえる Vol.1 消化器 第5版 メディックメディア 病気がみえる Vol.11 運動器 第2版 メディックメディア 病気がみえる Vol.2 循環器 第5版 メディックメディア		
評価の方法 成人・老年看護学実習Ⅰのルーブリック評価に沿って評価		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人・老年看護学実習Ⅱ	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象に、患者の状況に即した看護を判断し実践する能力を養う。		
授業の概要 本実習は、回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象の特徴を理解し、その人らしい生活を支える看護について学ぶ。これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。回復期にある対象への看護を通して、変化した身体機能に合わせた日常生活行動の獲得やセルフケア獲得に向けたアプローチ方法を学ぶ。慢性疾患を抱える対象への看護を通して、疾病と上手く付き合い、その人らしい生活や生き方を実現していくことを支援するアプローチ方法を学ぶ。また、対象への医療チームアプローチの実際を知ること、チームにおける看護の役割・機能について理解を深めることができる。		
受講上の注意・事前学習の内容 注意点・事前学習の内容は、実習要綱・実習ガイダンス参照。		
授業計画 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 回復期にある、または慢性疾患を抱える、成人期または老年期の患者を受け持つ。 3. 看護計画に基づいて毎日の行動目標・行動予定を立て、実践する。 4. 実習内容と学びを日々のカンファレンスで交流する。 5. 受け持ち期間中の看護計画と実践を評価カンファレンスで検討する。 6. 実習ポートフォリオを用いて、実習で獲得したことや学びをプレゼンテーションし合い、知の共有をする。		
テキスト 系統看護学講座 専門 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器／内分泌・代謝 医学書院		
参考書・指定図書 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
評価の方法 成人・老年看護学実習Ⅱ 評価表に沿って評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

2025年度 教育課程（3学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ	
分基 野礎	科学的思考の基盤	法学	1	15		142	
	人間と生活、社会の理解	英語	1	30		143	
		小計	2	45			
礎専 分門 野基	人体の構造と機能	運動生理学	1	15		144	
	健康支援と社会保障制度	総合保健医療論	1	15	試験時間含む	145	
		小計	2	30			
専 門 分 野	基礎看護学	看護リフレクションⅢ	1	30		146	
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全		1	30		147
		国際看護		1	15		149
		災害看護		1	15		150
		看護技術の統合		1	30		151
		多職種連携		1	15	試験時間含む	153
		総合学習		1	30		154
		臨地実習	地域・在宅看護論実習	2	80		155
		成人・老年看護学実習Ⅲ	3	120		156	
		小児看護学実習	2	80		157	
		母性看護学実習	2	80		158	
		精神看護学実習	2	80		159	
		看護の統合と実践	3	120		160	
			小計	21	725		
			総合計	25	800		

科目名 法学	授業担当者 中川 修一	所属 ノースアジア大学	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 これから法学を学ぼうとする受講生に、実質社会において法の役割分担を、入門的な理解を通じて法的な考え方になれるように授業を進める。			
授業の概要 ここでは、従来のような法学の教科書のようなテーマごとに関係するものを全て、何でもかんでも詰め込んで教えるわけではありません。皆さんの日常生活で法とどのように結びついているかを理解していただくこと。また、社会人になった時、「気づくこと」「調べること」「考えること」を授業を通じて理解していただくこと。			
受講上の注意・事前学習の内容 配布資料を事前によく読んで授業に臨んでください。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	法とは何か	講義	
2・3	生活を守る法 (1)交通事故と法 (2)売買や賃貸借など契約と暮らしに関する法 (3)ライフスタイルの選択 (4)お金にまつわる問題	講義	
4・5	法と制度と施策(社会保障と社会福祉・保険法) (1)医療封建制度(保障) (2)年金制度 (3)医療と法 (4)障害者問題	講義	
6	成人後見制度	講義	
7	労働者保護法(一連のハラスメント)	講義	
8	財産の行方(死んでからでは遅い)	講義	
	試験		
テキスト 末川博編 法学入門 有斐閣			
参考書・指定図書 授業の時に説明します			
評価の方法 小テスト、期末試験などを含め総合評価します			

科目名 英語	授業担当者 大西 洋一	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 国際化が進む日本の医療機関において、将来看護師として活用しうる英語コミュニケーション技術の基礎を養う。			
授業の概要 医療現場でのコミュニケーションに関わる英語の語彙と会話表現を学び、役割演習等を通じて看護師に必要な基本的英会話スキルを習得する。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前に各回で扱うユニットに目を通し、知らない単語を調べて予習しておくことが望ましい。また、授業には英和辞書(電子辞書でも紙辞書でも可)を持参すること。なお、毎回の授業において、勉強した内容に関する簡単な復習小テストを行う予定である。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	Unit 1: Is this your first visit to this hospital?	演習	
2	Unit 2: What's the matter with you?	演習	
3	Unit 3: I'm going to take a blood sample.	演習	
4	Unit 4: Let me explain our daily routine.	演習	
5	Unit 5: I'm going to ask you about your lifestyle habits.	演習	
6	Unit 6: Have you had any surgeries before?	演習	
7	Unit 7: Do you have any allergies?	演習	
8	Unit 8: How would you describe the pain?	演習	
9	Unit 9: How much can you move your legs?	演習	
10	Unit 10: Let's start practicing getting into the wheelchair.	演習	
11	Unit 11: Let's make the walks longer	演習	
12	Unit 12: You're from Australia, aren't you?	演習	
13	Unit 13: Are you Ms. Brown?	演習	
14	Unit 14: Rehabilitation can be challenging.	演習	
15	Unit 15: By working together, we can ease your concerns.	演習	
	試験		
テキスト 『Care for All: Effective Patient Communication for Healthcare Workers 医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション』 (成美堂、2025 年)			
参考書・指定図書 特になし			
評価の方法 筆記試験(50%)、授業での取り組み状況(20%)、小テスト(30%)から総合的に評価する。			

科目名 運動生理学	授業担当者 松下 翔一	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 現代人の行動特性から、生活習慣病等への影響を理解する。また、より良い健康行動を再確認することによって QOL の維持及び向上のために必要な方法を学ぶ。そして、看護の側面から、健康の理解と解決のあり方について学ぶ。			
授業の概要 1. 運動生理学の基礎理論を基に、身体活動やスポーツの実際を行う。 2. 理論や実際を通して、自身の生活習慣の改善の一助としてもらいたい。 3. 危険の予測や怪我の予防も踏まえた上で、前に踏み出す勇気を持って取り組んでもらいたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 運動をするのに適した服装を着用すること(トレーニングシャツ、トレーニングパンツ、シューズ等) アクセサリー類(ピアス等)は、危険なので授業時には身に付けないこと 授業中は、各自必要に応じて水分を補給するよう心掛けること ケガや事故には十分に注意すること(授業時のウォームアップをしっかりと行うこと)			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	運動による身体の変化とスポーツの意義について	講義	
2	バレーボール	実技	
3	バレーボール	実技	
4	バレーボール	実技	
5	ドッチボール	実技	
6	ドッチボール	実技	
7	バレーボール	実技	
8	バレーボール	実技	
テキスト 特になし			
参考書・指定図書 筋力トレーニングの理論と実践 Vladimir Zatsiorsky(大修館書店)			
評価の方法 授業態度、実技およびレポートの取り組み状況から総合的に評価する。 (100 点満点中、実技:50 点、レポート:50 点。)			

科目名 総合保健医療論		授業担当者 小貫 渉	所属 中通リハビリテーション病院 医局	
開講時期 :前期～中期		単位数 :1 単位	時間数 :15 時間	
授業の目的 1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割と仕組みを理解できる能力を養う。 2. 専門職としての倫理的態度を習得し、医療・看護に関わる本質的問題に対する自己の考えを深める。				
授業の概要 医療に関する様々な問題点と、社会保障制度について理解を深める。				
受講上の注意・事前学習の内容				
授業回数	学習内容	方法	備考	
1	医学・医療の歴史と現代の医療の問題	講義		
2	生活環境と疾病構造の変化	講義		
3	医療保険制度と医療供給体制	講義		
4	社会保障制度における平等とは	講義		
5・6	医療における患者の権利(インフォームドコンセントについて)	講義		
7	医療統計について	講義		
8	試験			
テキスト 新体系 看護学全書 専門基礎 現代医療論 メヂカルフレンド社				
参考書・指定図書				
評価の方法 筆記試験およびレポート				

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護リフレクションⅢ	授業担当者 渡部 暢子 他	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 臨地実習の場面を通して、看護実践状況の中で生じた、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、客観的に振り返る思考のプロセスを学ぶ。			
授業の概要 看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、2年次に学んだスキルを活用し、臨地実習の場면을リフレクションする。実習終了後に自らの経験を価値化することで、省察する力を高めることができると考える。ナラティブからリフレクティブな思考や多様性の理解も深めることができる。			
受講上の注意・事前学習の内容 実習ポートフォリオファイルと1年次から使用しているリフレクションノートを持参して臨む。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護リフレクションⅢとは	講義・演習	渡部
2～13 回目までは、小児、母性、地域・在宅、精神の4つの実習科目で3回ずつ行う。			
例)2～4	小児看護学実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
5～7	母性看護学実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
8～10	地域・在宅看護論実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
11～13	精神看護学実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
14	看護の統合と実践実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
15	看護の統合と実践実習のリフレクション (再構成したグループで交流)	個人・グループワーク	実習担当教員
テキスト 看護の教育・実践にいかすリフレクション ―豊かな看護を拓く鍵― 南江堂			
参考書・指定図書 看護のためのリフレクションスキルトレーニング 看護の科学社 「シミュレーション教育の効果を高める」ファシリテーターSkills&Tips 医学書院			
評価の方法 各実習場面でリフレクションノート提出、リフレクションアセスメント指標を用いた評価レポート			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護管理と医療安全(1) 看護管理	授業担当者 佐藤 稔 高橋 ひとみ	所属 中通総合病院 中通総合病院	
開講時期 : 中期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(看護管理 16 時間)	
授業の目的 1. 保健医療体系の中で、看護の役割とサービス提供の仕組みを学ぶ 2. 看護を組織として機能させるための看護管理の目的や機能を学ぶ			
授業の概要 医療の主体が病院から在宅・地域へと移行し、看護師への期待や求められる能力も変化している。看護師として看護実践能力を身につけるだけでなく、よりよい看護を提供していくための看護のしくみがどうなっているのか、多くの看護職者や医療・福祉関係者が同時に働くためには組織がどのように機能すればよいのかを知る必要がある。本科目では人的・物的・財的資源を効果的に活用するしくみとそのマネジメントの基本について学び、チーム医療・看護における看護師としての調整とリーダーシップのあり方を考える基礎をみにつけてもらいたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 前日までに資料を送信しますのでプリントアウトをお願いします			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護管理の実際①～働く人を育て活かすマネジメント～	講義・演習	佐藤
2	看護管理の実際②～モノ・カネ・情報の管理～	講義・演習	佐藤
3	看護組織の活動と倫理	講義・演習	佐藤
4	看護専門職としてのキャリア	講義・演習	佐藤
5	看護制度と看護政策、診療報酬	講義・演習	高橋
6	看護管理のシステム	講義・演習	高橋
7	組織とリーダーシップ	講義・演習	高橋
8	看護サービス	講義・演習	高橋
	試験		
テキスト ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版			
参考書・指定図書 看護管理学習テキスト 第3版 2021年度版 第1巻～第5巻 日本看護協会出版会			
評価の方法 筆記試験 看護管理と医療安全 100点満点中の50点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護管理と医療安全(2) 医療安全	授業担当者 村上 裕子 齊藤 由美子	所属 中通総合病院 中通総合病院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間(医療安全 14 時間)	
授業の目的 医療の現場に潜む危険を認識し、回避する方策と患者安全上すべき事を理解し、医療従事者として患者および自らの安全を守ることの重要性を学ぶ。			
授業の概要 看護師は医療サービスの最終行為者となることが多く、医療サービスの提供の場である病院では様々な危険が存在する。医療事故防止は、組織的な安全のためのシステム作りと、看護師が危険を予知し安全のための対策を実施することが重要である。 リスクマネジメントは、医療事故の未然防止・再発防止、苦情の防止、医療訴訟対応といった連続的な関わりに対して取り組まれるものであり、その目的は人権の尊重と医療の質の確保と質の向上である。日本の医療安全対策の動向や過去の医療事故など具体的事例をもとに参加型授業形式とする。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキスト、講義資料より事前学習・復習に取り組む。テキスト内の「用語解説」等を活用し、用語の理解に努めてほしい。講義中に紹介する情報を参考に興味を持ち、積極的な講義への参加が望ましい。講義の内容によってはグループワークを行うこともある。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	医療安全と看護の理念、看護学生の実習と安全	講義	村上
2	医療安全への取組みと医療の質の評価・医療事故後の対応	講義	村上
3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義	村上
4	患者・家族との協同と安全文化の醸成	講義	村上
5	看護業務に関連する医療事故と安全対策 在宅看護における医療事故と安全対策	講義	村上
6	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策① (医療機器の使用に関わるもの・医薬品への暴露・患者、同僚および第三者による暴力)	講義	村上
7	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策② (感染の危険を伴う病原体への暴露とその予防策)	講義	齊藤
	試験		
テキスト ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 MC メディカ出版 新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			
参考書・指定図書			
評価の方法 授業への参加態度と取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。 医療安全と災害看護 100 点満点の中の 50 点 (医療安全:40 点 、 感染対策:10 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 国際看護	授業担当者 夏原 和美	所属 東邦大学看護学部 国際保健看護研究室	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 国際保健・看護に関する概要を理解するとともに、多様な価値観を受け入れ、文化を考慮したケアを行うのに必要な「固定概念にとらわれない幅広く柔軟な考え方」を身につける			
授業の概要 これからの看護師には、文化への理解を持ち個人を深く捉え対応する能力と、地球全体を含めた環境へのグローバルな視点が求められている。私たちが生きている社会の特徴を踏まえ、そこで人権を尊重した看護を行うためには何が必要かを考えていく。授業ではテーマについて知識をインプットするだけでなく、自分の考えをまとめ、それを共有するグループディスカッションの時間を持つことで、多様な考え方に触れる機会とする。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前事後課題は GoogleForm を使って提出してもらいます。提出し忘れた場合、メールで連絡の上で 1 週間以内であれば遅れて提出として受け取ります(ただし、3 割の点数)。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業の進め方オリエンテーション/ 世界の現状を想像する・知る	講義・グループワーク	授業中にクイズ#1Gapminder Quiz 事後課題:この講義の自分なりの目的と目標
2	文化とケア	講義・グループワーク	アンコンシャスバイアスについて他 事後課題
3	世界の人びとの健康課題・健康に関わる諸要因	講義・グループワーク	WHO 死因分類について事前課題
4	プライマリ・ヘルスケア	講義・グループワーク	村の保健ワーカーへの言葉他プリントを読んで行う事前課題
5	国際協力活動・国際医療活動	講義・グループワーク	動画を見て考える事前課題
6	世界のセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ	講義・グループワーク	動画を見て考える事前課題
7	世界の看護師	講義・グループワーク	世界の看護師について情報収集 しまとめる事前課題
8	学びの俯瞰	講義・グループワーク	成長報告書
	試験		
テキスト テキストは特に指定せず、プリントを配布する			
参考書・指定図書 Where There Is No Doctor. (20250213 アクセス確認) http://hesperian.org/books-and-resources/resources-in-japanese/#			
評価の方法 事前事後課題 40%、最終テスト 60% 以上から総合的に評価します。発表協力や良い質問などで加算点あり。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 災害看護	授業担当者 佐藤 玲希	所属 中通総合病院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 災害が人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割を習得する			
授業の概要 災害が、社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら健康やこころ・生活に影響することを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割、演習を通じて実際の避難所支援を想定した室内の配置、情報収集・共有等の重要性を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 災害に関してどんなイメージを持っているか、また災害時の情報を得るツールに関してどんなものがあるか、事前に考えたり調べたりして授業に臨んでほしい(→授業の中で共有するため)。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	災害および災害看護に関する基礎的知識	講義	
2	災害時の支援体制と災害医療活動の特徴	講義	
3	災害サイクルにおける看護支援活動と配慮を必要とする人への看護	講義	
4	被災者と支援者の心理の理解と援助、目に見えない災害への対応と課題	講義	
5	避難所運営の実際 (ペーパーシミュレーション)	演習	
6	避難所運営の実際 (ペーパーシミュレーション)	演習	
7	災害リアージについて	講義	
8	災害リアージについて(DVD の事例を用いて)	演習	
	試験		
テキスト ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版			
参考書・指定図書 小井土雄一 石井恵美子監修 多職種連携で支える災害医療～身につけるべき知識・スキル・対応力～ 医学書院 小原真理子 酒井明子監修 災害看護 心得おきたい基本的な知識 南山堂 小原真理子監修 演習で学ぶ災害看護 南山堂			
評価の方法 授業及び演習への参加姿勢(グループとしての運営、発表内容、意見交換時の積極性 その他)と筆記試験で総合評価(100点満点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護技術の統合	授業担当者 田安 和	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 複数の事例に対して看護技術を運用し、評価する方法の基礎を学ぶ。			
授業の概要 健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげる。臨床現場を想定した多重課題のシナリオ作成とロールプレイングを通して、ベッドサイドでの確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 成人・老年看護学実習Ⅲ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習の全単位を修得した学生が履修する科目である。直後に控えた「看護の統合と実践実習」において複数事例の多重課題に対し、どのように優先順位を判断し、行動するのか考える授業となる。実習だけでなく、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かされるよう、積極的な姿勢で講義やワークに取り組んでほしい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業計画ガイダンス、事例提示	講義	
2・3・4	2 事例のアセスメント・看護計画立案	個人ワーク	
5	看護計画発表会	グループ学習	
6	多重課題への対処	講義	
7・8・9	シナリオ作成、ロールプレイング準備	グループ学習	プロジェクト学習
10	記録(実践結果、評価)の仕方 ロールプレイング準備	講義 グループ学習	プロジェクト学習
11・12	ロールプレイング発表会 記録(実践結果、評価)	グループ学習 個人ワーク	プロジェクト学習
13・14	記録指導を受け修正	個人ワーク	
15	振り返りレポート、授業のまとめ	講義 個人ワーク	
テキスト ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版			
参考書・指定図書 課題に準じる。			
評価の方法 ①看護計画:35点 ②シナリオ、ロールプレイング:42点 ③振り返りレポート、全体:23点 教員による評価、グループによる評価、自己評価 合計100点で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	看護技術の統合 「臨床からの確に情報獲得し優先順位を決定、行動しよう！」プロジェクト	
主講師(ファシリテータ・協力者)	田安 和 (日野由樹子・清水有香・渡部絵美・加藤香織)	
受講対象	3年生 38名	
学習概要 (社会的意義)	臨床現場での多重課題対応を想定したシナリオを作成し、患者・家族・看護師をリアルに演じる。複数事例の多重課題・複雑性に対し、ベッドサイドで的確に情報獲得する力、優先順位を決定し行動する力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について理解を深める。	
キーワード	臨床多重課題、情報獲得、優先順位、時間管理、連絡・報告・相談	
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 優先順位を判断し行動する力 <input type="checkbox"/> 業務量と自己の力量を照合し、事前準備・時間配分する力 <input type="checkbox"/> 看護チームにおいて、適時に連絡・報告・相談・協力依頼する力 <input type="checkbox"/> 患者・家族に説明し同意を得る力	普遍知 <input type="checkbox"/> 観察する力、状況をつかむ力 <input type="checkbox"/> 情報を見極める力、目の前の事態に対応する力 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択する力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力、根拠をもとに説明する力、他者のプレゼンから学びとる力 <input type="checkbox"/> 成長や成果を評価する力、より成長しようとする意欲
学習アウトカム	「臨床多重課題シナリオ」、ロールプレイング	
評価方法	評価表に基づく「臨床多重課題シナリオ」とロールプレイングの評価(学生・教員評価)	
実施月日 月 日～ 月 日	8月～10月 11月 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 準備 ビジョンゴール 計画 情報・解決策 制作 プレゼン 再構築 成長確認 </div>	
講義室・場所	教室、図書室、演習室	
展開内容	講義・AL	自学
プロジェクト学習 ビジョン：看護チームの一員として、臨床現場で多重課題・複雑性に対応できるようになりたい。 ゴール：臨床からの確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる	事前：8～10月臨地実習場で情報収集(臨床現場で看護師はどのような多重課題に遭遇しやすく、どのように対応しているか。看護師を観察、看護師にインタビュー等)<個人ワーク>	
	1回目/授業全15回：2事例の人物想定(「R10シート」作成)<グループワーク> →看護計画立案<個人ワーク>	
	6回目：<講義>臨床多重課題への対応	
	7・8・9回目：2事例に同時対応する「臨床多重課題シナリオ」を作成<グループワーク>	
	10回目：ロールプレイングの準備・練習<グループワーク>	
	11・12回目：ロールプレイング発表会<全グループ合同>	
プロジェクト学習 e ラーニング	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/	
テキスト・参考図書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版	
履修要件	成人・老年看護学実習Ⅲ、小児・母性・精神看護学実習、在宅看護論実習の全単位を修得し、看護の統合と実践実習の履修を控えた学生	
他講義との関連	看護の統合と実践実習(複数患者受け持ち、メンバー看護師業務見学、夜間実習)	
受講生へのメッセージ	臨床現場で看護師が遭遇しやすい多重課題対応をイメージし模擬体験することで、直後に控えた「看護の統合と実践実習」(初めての複数患者受け持ち)や、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かしてほしい。	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名 多職種連携	授業担当者 渡部 暢子 近江 薫 大塚 紀子	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 地域包括ケア・地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす、さまざまなライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供に向けて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けて、よりよい方法をともに検討し実現をめざす基礎的能力を養う。			
授業の概要 看護師の役割、チームアプローチについては1, 2年次の講義で基礎的知識は学んでいる。臨地実習では、多職種カンファレンスを見学する場面もある。本科目では、複数の職種の学生と共通の事例に取り組み、「専門職連携の実際」を体験学ぶ機会とする。多職種の学生と一つのチームになり、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法を討議することで、役割の違いや連携の意義と協働にむけて方向性を理解できる力を養って欲しい。			
受講上の注意・事前学習の内容 以下の6つの目標のもと、理学療法士、栄養士を目指す学生と2回にわたり協同学習を行う。グループで1つの事例について取り組むが各自が主体的に看護の専門性について考え臨んでほしい。 目標1. 多職種の役割と責務について、多職種と共有する 目標4. 多職種間で対象者の目標を共有する 目標2. 多職種間のコミュニケーション能力を身につける 目標5. 対象者の目的達成、ケアの質向上に向けてともに考える 目標3. 対象者志向の倫理観をもつ 目標6. 多職種協働・連携に向けての展望をともに語る			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	・多職種連携とは ・関連職種連携ツールとしての ICF ・多職種の役割機能理解	講義	渡部暢子
2・3	・専門職連携学習の準備:看護師の役割、事例提示 看護計画、倫理的態度	講義	渡部暢子
4	協同学習:専門職連携学習の実際「多職種の役割理解、相互理解・尊重」	学外演習	渡部暢子 近江 薫 大塚 紀子
5	・専門職連携の実際の準備:看護計画、カンファレンス内容	講義	渡部暢子
6	協同学習:専門職連携学習の実際「対象の目標共有」	学外演習	渡部暢子 近江 薫 大塚 紀子
7	・専門職連携学習の成果 リフレクション	講義	渡部暢子
8	試験		
テキスト ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版			
参考書・指定図書 現場から学ぼう！看護師のための多職種連携攻略本 著者メディッコ 株式会社シーピーアール			
評価の方法 筆記試験および課題・参加態度により総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 総合学習	授業担当者 堀井 喜世子 渡部 絵美 近江 薫	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期 :前期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 看護師国家試験に向けた学習を通して、自律した学習者としての学習方法について学ぶ。			
授業の概要 総合学習では、看護師国家試験に向けた学習を通して、よりよい看護をしたいという思いと関心を持って学ぶ姿勢を養い、学習習慣を身につける。また、自己の課題に気づき、解決に向けた努力ができるように主体的に学ぶ必要性を感じてほしい。疑問を探求できるようにコーチングを受けながら、学習方法について学ぶ。実習や講義と並行して、自律して国家試験学習に取り込む。			
受講上の注意・事前学習の内容 問題集、レビューブック、国試ファイル、分析表、計画表など学習に必要なものを揃えて臨むこと			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護師国家試験ガイダンス I	講義	堀井
2	看護師国家試験ガイダンス II (必修学習計画・模試ふり返し)	講義・個人ワーク	堀井
3	自己の傾向分析・ふり返し	個人コーチング	全教員
4	自己の傾向分析・ふり返し	個人コーチング	全教員
5	模試ふり返し	個人ワーク	
6	模試ふり返し	個人ワーク	
7	年間学習計画作成	講義・個人ワーク	堀井
8	年間学習計画	個人コーチング	全教員
9	年間学習計画	個人コーチング	全教員
10	模試振り返り	個人ワーク	
11	模試振り返り	個人ワーク	
12	模試振り返り	個人ワーク	
13	模試振り返り	個人ワーク	
14	模試振り返り	個人ワーク	
15	模試振り返り	個人ワーク	
	試験		
テキスト 必要に応じて資料を配布する			
参考書・指定図書 看護師国家試験 パーフェクト必修問題対策 メヂカルフレンド社 看護師国家試験問題集			
評価の方法 出席状況・筆記試験により総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域・在宅看護論実習	授業担当者 佐々木 聖子 大塚 紀子 近江 薫 中川 郁子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを総合的に理解し、在宅看護を必要とする人々が望んでいる生活や生き方を支援できる看護の実践能力を養う。		
授業の概要 本実習は、複合老人福祉施設リンデンバウムいずみ(特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、地域包括支援センター)、福祉複合施設ウェルビューいずみ(障害福祉サービスセンター)、中通訪問看護ステーション、中通ケアプランセンター、中通健康クリニックで行う。 施設実習では、地域で生活する人々を支える多様な場での見学、実践を通して福祉施設の機能や役割、地域包括ケアシステムの実態を学ぶ。また、多職種の中の看護職の専門性を理解し、地域包括ケアシステムの推進について考える機会とする。訪問看護ステーション実習では訪問看護師、ケアマネジャーとの同行訪問を通し、地域で暮らす人々の実態を学ぶ。在宅看護の特徴や在宅療養者と家族との関わり方を学び、在宅における看護師の役割と機能を理解する。また、健康クリニック実習を通じて、保健活動について考える機会としたい。 実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種とどのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考え、看護の専門性とは何かを深めてほしい。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習場所・施設が多岐にわたり、これまでの実習環境との違いを感じて緊張度が高まることが予想されるが、報告・連絡・相談を心掛けて、臆することなく、主体的な学びの場としてほしい。 基礎的知識として、実習要綱に提示している事前学習を行うこと。		
授業計画 1. 複合施設実習 4.5 日間、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、及び健康クリニック実習を合わせて 4.5 日間とする。 2. 施設実習では、0.5～1 日間ずつグループを数名に分けて各施設を周る。見学が中心となるが、可能な範囲で修得できているケアを実践する。日々の記録に、実践記録とともに、各施設の役割や看護職の役割についてまとめる。更に、各専門職の講義を受け学びを深める。施設実習のまとめとして、5 日目にカンファレンスを行う。 3. 訪問看護実習では複数の療養者に訪問し、ケースごとに臨床判断プロセスを用いて訪問記録をまとめ、訪問看護職の役割を考えられるようにする。1 ケースで在宅看護過程関連図を作成し、療養者の全体像を捉えられるようにする。ケアプランセンターでは、ケアマネジャーとの同行訪問場面を臨床判断プロセスを用いて記録し、その役割や多職種連携の在り方や地域包括ケアシステムについて考えられるようにする。健康クリニックでは見学を通じて、その機能について学びと考察を記録する。 4. 実習最終日に、実習ポートフォリオを用いて、成長報告を行う。		
テキスト ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 メディカ出版		
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2022-2023 第5版 メディックメディア 介護施設の看護実践ガイド 日本看護協会		
評価の方法 ルーブリックに基づいて評価(教員・臨地実習指導者 80%、学生自己評価 20%)		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人・老年看護学実習Ⅲ	授業担当者 田安 和	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :3 単位	時間数 :120 時間
授業の目的 成人・老年期にある対象を総合的に理解し、機能障害を抱える対象の生活の維持・向上に向けての看護を実践できる能力を養う		
授業の概要 本実習は疾患や加齢による機能障害を抱えた患者を受け持ち、科学的根拠に基づいて必要な看護を実践できる基礎能力(知識・技術・態度)を養う総合的な学習である。様々な機能低下が日常生活にどのような影響をもたらすのかを捉え、患者の強み、願いを考慮した目標を設定し、セルフケアの自立に向けた支援の方法を学ぶ。臨地実習要綱の学習内容を意識し、行動目標を達成できるように主体的に学習を進めて欲しい。本実習では、3年次の実習の中で比較的技術経験ができる実習でもある。積極的に経験し自信を持ってできる技術を増やす機会として欲しい。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習ガイダンスで提示した事前課題について学習し、それらを実習内で活用できるようにして臨むこと。 患者の状態を想定し、清潔、排泄に関する看護技術を練習すること。		
授業計画 中通リハビリテーション病院 3階病棟または4階病棟にて実習を行う。 1. 患者を1名受け持ち、患者の個別性を考慮した看護過程を展開し実践する 2. 見学や実践を通し、成人期・老年期にある患者の日常生活援助の方法を学ぶ 3. 実践・カンファレンス等を通し、患者理解を深め看護アプローチについて考える 4. 実践や評価会議を通して、チーム医療の在り方や連携と協働、リハビリテーションに関わる各専門職種役割、およびチームの中の看護師の役割について考えを深める		
テキスト ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版		
参考書・指定図書 写真でわかる リハビリテーション看護アドバンス インターメディカ		
評価の方法 成人・老年看護学実習Ⅲのルーブリック評価表に基づいて評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護学実習	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 子どもの成長発達を理解し、子どもと家族がその人らしく健康な社会生活を営んでいくために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。		
授業の概要 保育所実習では保育活動に参加することで、成長発達は個別的であることに気づき、その子に合わせた関わりの重要性を学ぶ機会となります。さらに、子どもとの遊びの中でコミュニケーションや子どもの権利を守るとはどういうことかを実践的に学びましょう。 病院実習では、主に健康障害を持つ子どもと家族に関わり看護を展開します。健康障害が子どもや家族に及ぼす影響を多角的に捉え、どのような支援が必要かを考えます。 また、子どもにとって馴染みのない環境での生活や医療行為は健康回復のために必要であっても、恐怖や不安を感じる体験です。子どもの心理的影響を最小限にするための、プレハレーションやインフォームド・アセントについて考え、実践してみましょう。 少子化・多様化する社会の中で次世代を担う子どもへの関心が高い一方、育児不安や児童虐待などの社会的な問題も耳にします。全ての子どもがその子なりにしあわせに調和した成長発達を遂げるには、医療・福祉・教育の連携が不可欠です。社会情勢にも目を向けながら関係機関や職種役割を考えてみましょう。		
受講上の注意・事前学習の内容 動画や実際の子どもの様子と授業で学んだ成長発達の知識を結びつけ、各年代の子どものイメージを掴んでおきましょう。 ガイダンスで「小児看護学実習ワークブック」を配布します。実習が始まるまでに取り組んでおいてください。		
授業計画 ○保育所実習 ・ならやま認定こども園またはウェルビュールーイズみこども園のいずれかで3日間行う。 ・園の活動や遊びに参加し、乳幼児の成長発達の特徴や関り方を実践的に学ぶ。 ○病院実習 ・入院中の子どもを受持ち、看護過程を展開する。 ・見学や実践を通し、小児看護技術を学ぶ。 ・カンファレンスで見学や実践したことを交流し、様々な発達段階や疾患に対する看護を学ぶ。さらに、子ども観や子どもの看護について考える。 ○小児科外来・乳幼児健康診査・病児保育室の見学実習 ・看護師が活動する小児科外来・乳児健診・病児保育室の見学実習をする。 ・見学後、情報の共有とともに子ども・家族が地域・社会の中で健やかに成長発達することを支える看護について意見交換する。		
テキスト ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版		
参考書・指定図書 筒井真優美 小児看護学～子どもと家族の示す行動への判断とケア～ 日総研 浅野みどり他 発達段階からみた小児看護過程十病態関連図 医学書院 山元恵子 写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ		
評価の方法 小児看護学実習ルーブリック評価表に基づき評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 母性看護学実習	授業担当者 齊藤 豊子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 周産期にある対象とその家族、地域における母子の保健活動を理解し、看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度を学習する		
授業の概要 実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な変化を対象との関わりから实际的に学ぶ機会となる。少子化の影響で出生数が減少していることから、学生2人で1組の褥婦と新生児を受け持ち、対象の経過に応じた看護の実践を学ぶ。また、退院後の生活を見据えた指導や母子を支える医療チームアプローチの実際を知り、看護の専門性について理解を深める。実習終了カンファレンスで自身の成長を確認・交流する。短期間での看護展開になるため、主体的に実践することを期待したい。 生命誕生と親になる過程における看護者の役割を認識し、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、自己の母性・父性意識を発展させる機会としたい。		
受講上の注意・事前学習の内容 事前学習(実習要綱に記載されている学習内容)に取り組み、実習ポートフォリオに綴じ、実習の中で活用できるように準備して臨むこと。母性看護を実践するために必要な技術(沐浴・児計測・新生児のバイタルサイン)は、根拠に基づき安全・安楽に実施できるように練習を積み重ね、経験の機会を逃さず実践できるよう主体的に実習に臨むこと。		
授業計画 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 妊娠経過に伴う生理的変化やマタニティビクスを通し、妊娠期の看護と運動療法の実践を学ぶ。 3. 臨床判断モデルに沿って母子をアセスメントし、日々の状況に即した看護を実践、評価する。 4. 看護実践・テーマカンファレンスを通して母子の保健活動における役割を理解し、看護の専門性を学ぶ。 5. 看護実践・カンファレンスを通し、母性・父性意識を発展させる。 6. 実習ポートフォリオを用いて、実習中に獲得した看護の学びをプレゼンテーションしあい、知の共有を図る。 7. 機会があれば分娩に立ち会い、分娩時及び出生直後の新生児の看護について学ぶ。		
テキスト ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版		
参考書・指定図書 病気が見える vol.10 産科 第4版 メディックメディア 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院		
評価の方法 母性看護学実習のルーブリック評価表に添って評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神看護学実習	授業担当者 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院
開講時期:前期～中期	単位数:2 単位	時間数:80 時間
授業の目的 精神に障害をもつ対象を理解し、その人らしい暮らしを支える看護を実践する能力を養う。		
授業の概要 精神障害のある対象に、1人の尊厳ある人間として全人的に関わることを学ぶ場であり、患者－看護者関係を構築するための技術が重要である。実習では言語的・非言語的コミュニケーションを用いてコミュニケーションの基本的な姿勢である傾聴や共感について深く考える機会となる。また、すべての看護に共通するコミュニケーション技術を再確認する実習としたい。		
受講上の注意・事前学習の内容 事前学習の内容は、実習要綱、精神看護学実習ガイダンス参照。		
授業計画 秋田回生会病院、県立リハビリテーション・精神医療センターのいずれかで実習する。		
実習日程	実習内容	
1日目	午前:学内オリエンテーション 午後:病院案内 受け持ち患者紹介	同行・見学 ・作業療法 ・レクリエーション ・SST ・電気けいれん療法 ・デイケア ・生活訓練事業所 など
2日目		
3日目	看護の方向性 確認 (個別面接)	
4日目	患者紹介プレゼンテーション 実践	
5日目		
6日目	テーマカンファレンス	
7日目		
8日目	成長報告書②(成長エントリー)のコーチング(個別指導)	
9日目	成長確認プレゼンテーション	
テキスト ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版		
参考書・指定図書		
評価の方法 ルーブリック評価、教員の評価 80 点+自己評価(実習ポートフォリオ)20 点分とする。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護の統合と実践実習	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院
開講時期:中期	単位数:3 単位	時間数:120 時間
授業の目的 医療・看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。		
授業の概要 本実習は、これまでの専門分野・統合分野の知識・技術を統合して実務に即した実習を行い、看護管理とチームでの看護の仕事学ぶ実習である。看護管理、チームで協働する看護、複数患者受け持ち、夜間実習といった看護活動の見学・実践を通し、臨床実践の中で必要となる基礎的な知識と技術を総合的に体験できる機会となる。患者ケアに優先順位をつけることの大変さや大切さを体験し、またスタッフ同士の情報共有の重要性を学ぶことができる。受け持ち患者中心の実習を終え、間もなく看護師として働く者として、看護のさまざまな業務場面を身近にしなから、自分自身が行動レベルで看護実践力を育む機会としてほしい。		
受講上の注意・事前学習の内容 注意点・事前学習の内容は、実習要綱・実習ガイダンスを参照してください。 間もなく新人看護師になる皆さんが、看護場面を身近なこととして捉え、実習での学びを通し自己のキャリアビジョンを明確に描き専門職業人となる展望が持てるような実習となることを期待します。		
授業計画 1. グループを3 班に分け、複数患者受け持ち、看護管理・夜間実習・多職種連携等をローテートする。 2. 看護師長・リーダー看護師・メンバー看護師・夜勤看護師の業務の見学、多職種との連携場面の見学を通し、看護師の役割について学ぶ。 3. 患者を2 名同時に受け持つ。患者ゴール(目標)を設定し、実践の中で援助の優先順位の決定や多重課題に対応できるようにする。 4. 受け持ち患者に必要なケアの実施、一人で実践可能なケアの拡大、メンバーの協力を得て実践可能なケア、今まで経験したケアの深化、経験項目を増やすなど看護技術の向上を図る。 5. 成長報告プレゼンテーションを通し自己の看護観を深め、専門職業人として従事することへの展望を持てるようにする。		
テキスト ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝		
参考書・指定図書		
評価の方法 看護の統合と実践実習ルーブリック評価表に沿って評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります